

油 粕(四五五)

採油用原料(三二四)

右の外革類・鉛塊鉛錠・豆類・苧麻類・生ゴム等の輸入がある。

都 邑

□カルカッタの研究

英帝國の領土中ロンドンを除いては最大の都會である。人口百三十餘萬もの大都會が如何にして形成されたかに就ての考察が必要である。

先づ第一にカルカッタはガンジス全流域の門戸である。ガンジスの一分流にフーグリ河と云ふのがある。その河口から約八十海里のぼつた三角洲上にカルカッタの市街は建てられて居る。そしてフーグリ河に面して整頓された埠頭が設けられ、遠洋を航行する汽船も容易に入港する事が出来る。パトナ・ベナレス・アラハバード・デリー等はガンジス水系の繁盛な河港であるし、チベットより流れ出るブラマブートラ河のヒ

マラヤ山脈を南に横ぎつて出た附近までも舟楫の便があるので、東部印度平原の米・茶・阿片・黄麻・洋藍等の農産は夥だしくカルカッタに集積せられる。

又、デカン高原が幾分か東に傾いて居る事も其の物産をカルカッタに集中させる一因となつて居ると考へる。

ベンガル州(人口四千六百萬)の主要部をなすガンジスの三角洲だけでも面積約三千方里を越え、我が關東平野の約三倍に達して居る。そして其處には世界の穀物・メリケン粉等の袋として重寶がられる黄麻の大産地があつて、これだけの取引でもカルカッタは一廉の商業市となり得る譯である。

□ベナレスとガヤ

ベナレスはガンジス河の中流に臨む農産物の一集散地で、兼ねて印度教の聖都として知られ、其の寺院一千五百に及び、皆河に沿つて建てられて居る。これ等の寺院に禮拜するもの日々萬を以てかぞへ、巡拜者がガンジス河で沐浴する光景は實に言語に

絶する程の壯觀である。教徒は此の地のガンジス河で沐浴すると、一切の罪惡と不淨
 ごとが穢はれると信じ病をおかして沐浴する者がある。そして病勢が進んで死亡する人
 數が一年中には可成りの多數に上ると云はれて居る。

ガヤはベナレスの東南約七十里位にある釋尊成道の地で、附近に遺跡が多い。教科
 書の「釋迦の遺蹟」の塔は高さ百八十尺に及び、赤色の砂岩で建造され、附近の常綠樹
 と反映して美觀を添へて居る。塔の中には釋尊の座像がある。

□デリーの位置の優秀

大正元年にイギリスは印度政府をカルカッタよりデリーに移した。デリーは河港に
 は相違ないが、ガンジス河の上流であるから遠洋を航行する艦船は到底來泊する事が
 出来ない。それにも拘はらず、どうしてデリーを新しい印度政府の處在地と決定し
 たか。

1、地形上の優秀 其の西方の僅かなる高まりを越えるとインダス河の流域に出ら

れる。即ちガンジス・インダス兩流域の界線近くにあつて、兩流域を支配するに
 最も適當な處である。

2、經濟上の價值 インダス流域に多い綿・小麥・羊毛等の物資と、ガンジス流域に
 豊富な米・洋藍・黃麻・茶・牛等の生産品との内地交易所として重きをなす位置にあ
 る。

3、民族の統制上 印度教徒は二億二千萬にも近いが、これは印度政府をして殆ん
 ど神經をとがらさせる様な事は無い。マホメット教徒六千六百萬人が常に印度の
 現支配者としてのイギリスのなやみである。之れが宜しき統轄と放任とは印度の
 治亂に重大關係があると見たイギリスは、其の教徒の群集するインダス流域への
 統治の中心を近づけざるを得なくなつたものと解せられる。

斯うした事情の爲めに、デリーは政治・商業上の重點となり、交通機關も四通發達し
 て主として兩流域から來る重要鐵道を集中して居る。アクバル大王等によつて經營せ

られたムガル帝國の舊首都としてのデリーには、やはり斯うした地理的意味が裏書されるのである。

□ボンベールの綿の取引

ボンベール(孟買)は西ガッツ山脈の稍々低くなつた部分の西方にあるボンベール島の東南岸にあつて、デカン半島との間を港灣に利用して居る。

ボンベールのヒンテルランドはインダス流域の大部分とデカン高原の中部西部が之れにはいると考へる。即ち其のヒンテルランドの殆んど全面に、莫大なる綿作地を控えて居るのである。それで、印度全體の七割強は此のボンベールによつて取扱はれ、日本及び英佛・イタリヤ等に輸出する量が極めて多い。大正十二年に於ては日本が購入した印度綿の価格は實に二億六千萬圓を突破して居る。我が大阪商船・日本郵船等は競つてボンベール航路を營み、主として綿を目的として居る。

輓近ボンベールに於ては紡績・織布の工業が盛んに興つて來たが、原料の豊富と、勞

働者の得やすい事は、ます／＼此の事業を發達させてやまぬであらう。

□マドラスの發展

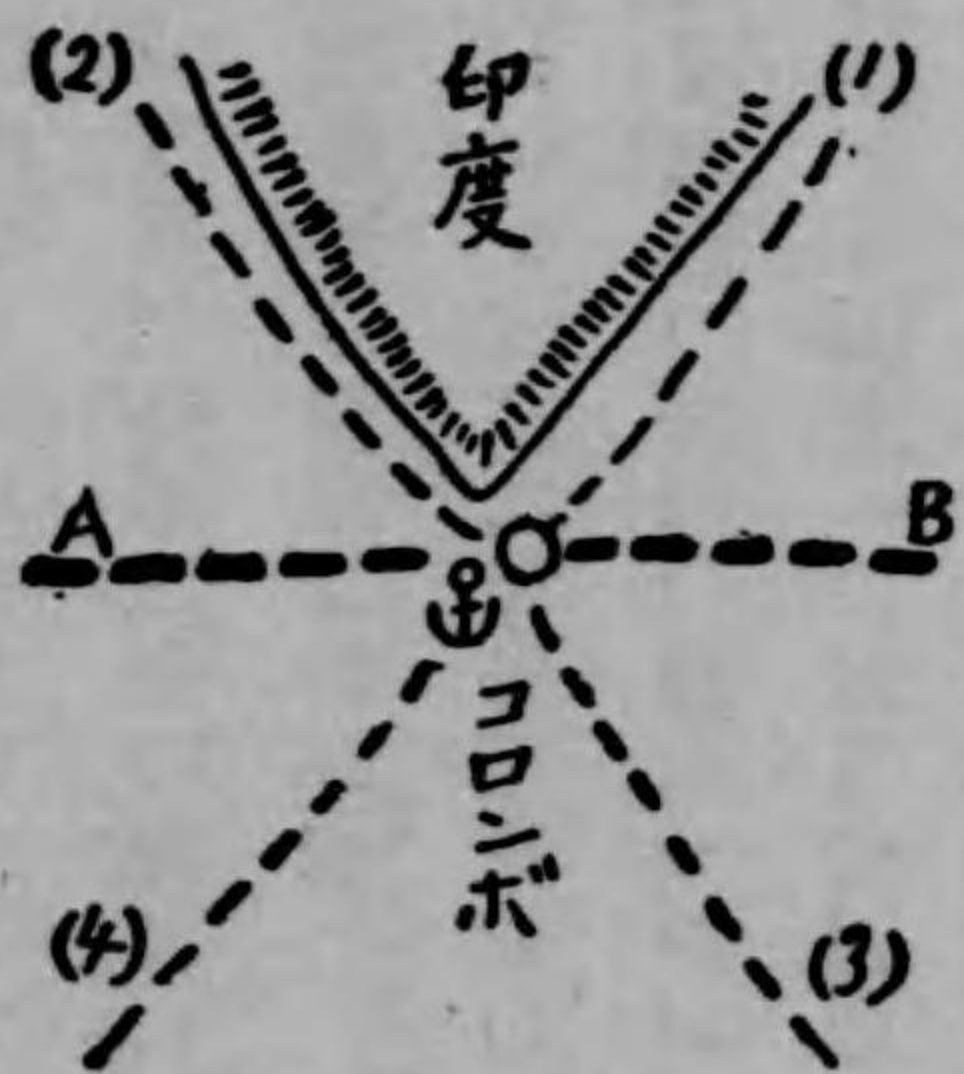
マドラスは東ガッツ山脈東方の低平なコロマンデル海岸に建設せられた印度屈指の港市であるが、港灣が稍々淺い事と、冬の季節風に對して保護される何物もない事が此の港の缺點である。

けれども其の屬するマドラス州は人口四千二百萬に及び、其の他の東に傾斜したデカン高原中央部以東の開發につれて、米・綿等の輸出が次第に増加して來た。

□印度洋の要津コロンボ

コロンボは二等邊三角形のやうな形狀をなした印度半島の尖端の沖合にあるので、印度東西の海岸、即ちマラバル海岸とコロマンデル海岸の船舶交通を集約し、これを西洋より極東への海上交通の大道としてのA B線(第十二圖)に結びつけて居る。

其の上(1)の線即ちカルカッタ方面よりコロンボへの線を延長するとコロンボ、南阿



第二十圖

聯邦間の航路となり、(2)の線即ちベルシャ湾奥よりボンベールを経てコロンボに到る線を延長すると、コロンボ濠洲間の航路に相當する。即ちコロンボは斯うした六つの方面よりの航路を引き集めて、入船出船の爲めに繁榮して居るのである。

其の港湾はセーロン島西南の多少突角状をなす海岸に壯大なる防波堤を廻らして造り上げ、正面の港口には夜間の入港に便する爲め雄大な一對の燈臺を設けて居る。

沿革

□階級制度の弊害を如實に示す印度

アリヤン民族が中亞細亞の地から印度のパンジャブ(インダス上流地方)へ移住して來た頃は、印度平原には土人のドラヴィーダ種族が澤山に居た。アリヤン民族はドラヴィ

イーダに對抗する必要上、戦闘に従事する兵族と、「戦勝を祈つて神に奉仕する」僧族と、戦闘に要する武器兵糧を供給する平民とに別れ、分業組織の社會を形成し、當初の目的貫徹の爲めに努力した。

此の方法と努力とは功を奏してドラヴィーダ族の一部はアリヤン民族に降服して奴隸(首陀スーダラ)となり、其の頑強なる者のみデカン高原に退却した。

印度に於ける四種姓の階級はかくして作り上げられたのであるが、歲月の進行に伴ひ種姓の制度建設の精神は打ち忘れられ、僧族即ち波羅門 Brahmana の横暴が日に甚だしくなつた。

釋迦牟尼の蹶起は要するに種姓を打破して四民の平等を唱道したものであるが、印度民衆の度し難き釋尊滅後千年にして早くも印度には佛教は地を拂つて消失し、波羅門教の復活としての印度教が最も隆盛を極め、社會の階級は依然として存するばかりでなく、同一階級の奴隸に於ても多くの小階級に分れて互に意志の疎通を缺ぐと云ふ

有様である。

印度がわけもなく白人の掌中に歸した最大原因は、斯うした社會の階級の存在による一體精神の缺乏にあつたと見なければならぬ。

□イギリスの印度經營について

イギリスが其の海國的位置の自覺を充分に起して海上に雄飛する意思を猛然として起した必勝艦隊撃滅の千五百八十八年の頃にはポルトガル人は既に印度に達し、其の貿易を獨占して居た。

一千六百年ロンドンに設立された東印度會社は、其の發展の方向を印度に向けた。當時和蘭もフランスも同時に印度經營に従事して居たが、和蘭はやがて力を専らマニラ諸島に伸ばし、日本を貿易の對象とするに至り、英佛二國の貿易戦が印度に開始せられる事となつた。此の間に於て英佛の本國は屢々ヨーロッパで事を構え、戦線にまみえる事が多かつたが、英國の東印度會社を率ゐて起つたクライブ・ヘースチングス

等がフランス勢力をよく驅逐し、以て英領印度帝國の基礎を開いた。

其の後印度總督となつたウエルズリーは力を専らにしてムガル帝國の支那を討伐し、精悍無比のマイソール王も一七九九年には屈服せしめられた。

一八五七年(安政四年)印度に土兵の大亂が起つた。勿論イギリス勢力に反抗した印度人の獨立恢復運動である。けれども一年餘にして平定せられ、ムガル帝も此の亂に加盟した爲めに帝位を廢せられ、久しく印度に威を振つた莫臥兒帝國は亡んだ。翌年時のイギリス女王ヴィクトリヤ Victoria は印度皇帝の位に即き、東印度會社の事務は悉くイギリス政府に引繼がれた。

イギリスは之れを統治する爲めに印度總督を印度に派遣し各般の政務を總攬せしめ六人の勅選評議員をして之れが顧問たらしめて居る。總督の下には内務・外務・財政・軍務・土木・歳入及び農務・商工・司法・教育・鐵道・軍需の十一局が置かれ政務を分掌し、別にイギリス本國には印度事務大臣が特設せられて本國と印度政府との連絡を取つて

居る。

九 印度支那

位置・氣候・地勢・産物

□印度支那半島の範圍

ベルガル灣の奥からトンキン灣の北端まで一線を劃して其の南を印度支那半島と名づければ至極明瞭であるが、左様にも行くまい。斯うした範圍の決定は、是非とも地形其のものに即して考察、決定されなければならぬ。

前記の一線を以て印度半島の範圍を劃したとすると、印度支那山系の諸山脈が途中で切斷される事になる。それでは甚だ面白くない。抑々印度支那半島と云ふ風に他と區劃して考へるのは印度半島獨特の自然と文化とを織りなした纏まつた一天地を豫想する故であらう。然らば同じ山脈を横斷して、それから南は印度半島、北は別の區域

と別ける如きは吾人の目標に反する事を思はねばならぬ。

此の見地に於て、今のビルマ・シヤム・佛領印度支那以南はもとより、雲南省の西部から、川邊特別區域の一部にわたつて、地形上の印度支那半島は擴がつて居ると考へ度いのである。

□氣候の概要

此の地方はビルマの北部を除く外は悉く熱帯に屬するが故に氣温は印度と同様に高い。又印度と同じやうに季節風帯に入つて居るから一年は大體、乾季と雨季に分れ、雨季には降雨が極めて甚だしい。メナム河の如きは夏季のはげしい雨量の爲めに屢々其の下流に氾濫を生じ、沃土の堆積が却つてシヤムの米作と重大なる關係を持つて居る實情にある。

雨量は大體アラカン山脈の西側と、イラワヂ・サルウイン兩河の下流地方と、マレー半島とに最も多く、メコン河の上流のラオス地方より、ビルマ北部のパモ・マンダ

レー等は半島内の寡雨地をなし、年額六七百耗に過ぎない。

気温が高く、河の下流地方は常に水が豊富で、時には洪水さへも伴ふので、教科書の挿繪「盤谷附近の水上生活」に見られるやうな、常夏の國の生活法式が吾等の注意を惹く。

暑さを避ける爲めにも、村から村への交通にも、害虫毒蛇の難を避ける爲めにも、斯うした生活が最も適切であることが知られる。

□地形の特殊性

ヒマラヤ山脈の東端附近を中心として印度支那山系は棕櫚の葉狀に南に幾條かの山脈を開いて居る。印度との界に連なるアラカン山脈や、イラワヂ川の東に續くベグ山脈、ビルマとシヤムとの間を南走して遂にマレー半島を構成する山脈、メコン河とトシキン灣との間に連亘してサイゴン港の背後の平野で消失して居る安南山脈等が其の例である。

斯うして稍々放射狀に開く山系によつて構造された他の實例としては、北米西北部のアラスカ半島や、ヨーロッパ東南部のバルカン半島があげられよう。それにしても儘かに特殊地形たるに相違ない。斯うした地形の行きわたる爲めに古來其の統一は實現せられず、遂に白人の爲めに乘せられて現狀に至つたものである。

□三角洲の發育と都會の位置

印度支那半島の川は其の下流につきもののやうに三角洲を伴ふて居る。イラワヂ川の三角洲の如きは川の大きさに比して其の面積が著しく大きい。

各の三角洲は其の他の農産の盛んな生産地となつて居るので三角洲上には巨多の農村と幾多の都市とを育んで居るが、其の最も發展する都會は三角洲に對して或る一定の位置を占めて居るやうである。例へばラングーンの如きは三角形の底邊の外角に相當する處に位置し、ソンコイ河の三角洲に於ては其の三角形の頂點に相當する處にハノイ(河内)が位置して居る。その他ハイフォン・サイゴン・バンコク等は皆三角洲の

一端に位し、多くはイラワヂの三角洲に對するラングーンに似寄りの位置を占めて居る。

これは三角洲上の物資並びに三角洲上にあつて生産に従事する多數の農村に對して經濟的交渉を結んで行く必要と、今一つはなるべく三角洲以外の地域の經濟的にも雄飛する爲めの知らず識らずの意思のあらはれであると思はれる。時々起る河の氾濫のすさまじさからまぬがれる爲めにも、三角洲のまつただ中よりは、其の周邊に位するを便利とするのである。要するに三角洲と即かず離れずの關係に置かれて居るのが印度支那半島海岸平野の都會であると觀て差支ないと思ふ。

□米の生産と我が國との關係

印度支那半島の諸平野は地味と氣候との關係で米の生産が莫大である。メナム河流域の如きは年から年中米の收穫が可能であると云はれて居る。通常は年三回の收穫にとゞめられて居る。

それで、米の大集散地としてのラングーン・盤谷・サイゴン等の河港市には何れも盛大なる精米所を有し、米の輸出が極めて盛んである。精米の作業は精白と云ふよりも乾燥を充分にさせると云ふ見地の下に必要とせられるのである。それによつても印度支那の自然界が如何に濕潤であるかが知られる。

我が國は年々印度支那より此の精米を多量に輸入して居る。内地で外米、若しくは南京米と稱するのは多くは印度支那の生産である。大正十二年にはシヤムより一千五十二萬圓に相當する米を輸入し、ビルマよりは約七百萬圓、佛領印度支那よりは約六百萬圓を購入して居る。

區分

□政治的區劃

中央に面積三萬三千方里の暹羅王國(現王はアルフォンソ十三世)があり、西に印度帝國の一部となつて居る緬甸(面積約四萬方里)、東に佛國の領地中最も重要な佛領印

度支那(面積約四萬方里)がある。又、馬來半島には英國の保護を受ける馬來聯邦と、英領海峽殖民地がある。

暹羅は實に英・佛勢力の緩衝地として其の國土を維持して居るかの觀がある。

フランス領印度支那を精しく云ふと、コシエンシーヌ(交趾支那)殖民地と、カンボヂャ・アンナン・トンキン・ラオスの四保護地とから成つて居る。安南のユエ並びにカンボヂャのプノムベンには王城が今尙ほ嚴然として聳えて居る。

ビルマ

□ラングーンの價値

ラングーンはベク山脈の端に近く、イラワヂ河の三角洲の一端に位して繁盛なる河港をなして居る。イラワヂ河は其の河口より約七百哩の上流にあるバモまで小汽船を通する程の水運の利が多い。明治十八年にイギリスに併合されてビルマ全國と共に印度帝國の一部となつた。マンダレーの舊都も亦イラワヂ中流の河港を兼ねて居る。

ビルマの東部にはイラワヂ以上の長流であるサルウイン河が流れては居るが、其の灌漑區域は極めて乏しく、僅かに細長い溪谷地を潤はして居るに過ぎない。

それでビルマの主要部は悉く此のラングーンを門戸として居ると見做してよい。ラングーンの經濟的發展の根據は斯うした地形的位置の優秀に依存して居ると考へる。米の集散の盛んな所以はこゝにあると思ふ。

□チーク材の特産

硅酸を含んで居るので堅牢緻密なチーク材は、印度支那半島の北部の山中に多く産するが、殊に多いのはサルウイン河の流域である。マンダレーより支那の雲南省との界に近いクンロン Kunlong に鐵道を延ばして居るのはチーク材輸送を主要目的として居るのである。

けれども鐵道輸送は運送費を多く要するから、普通は筏として下流に流し出す事が多い。それでサルウイン河口のマウルメインはチーク材の盛んな集散地として知られ

て居る。

暹羅

□首府盤谷について

シヤム灣頭よりメナム河を溯ること八里でシヤム王城の地盤谷に達せられる。

メナム三角洲の經濟上の大中心地で、挿繪「盤谷の市街」に見るやうな盛んな港市をなして居る。此の繪は上流の右岸から下流を眺めたもので、左岸の遠景に尖塔の立ち並んで居るのが王城である。河岸に近く煙を吐いて居るのは精米所の煙突で、其の附近に倉庫の多く並んで居るのも見られる。

我が大阪商船の基隆新嘉坡線が毎月一回盤谷の外港バクナムに寄泊して居る。

□シヤム人の生活一般

氣候の變化が乏しい自然の裡に住むシヤム人はいつしか其の知能の明敏性を缺き、活動力が全般的に乏しくなり、商業の實權は南支那から入り込んで來た漢族の手に掌

握されて居る有様である。

政治的には動もすれば英・佛二國の干渉を受け、纔かに開放されたシヤム灣もシンガポールを根據とするイギリスの商權に壓倒されて發動的に貿易の利を得る事も不可能な事情の下に置かれて居る。

斯うした境遇にあつても、無自覺な貴族はメナム河の川遊びと、小さい金殿を巨象の脊に取りつけて象の脊で森林を逍遙する位が關の山である。多數民衆に到つては淫蕩的な生活に耽るか、靜止的な佛教の信者として醉生夢死する連中が甚だ多い。

近年は稍々自覺して先進諸國の文明を輸入し、教育其の他の制度を歐米並びに我が國に取るやうになつたが果してどの程度の改革が出来るかごうか。濕潤にして高温の空氣の底に、潑刺たる生命の躍動を起させる事は、蓋し至難の業であらう。

佛領印度支那

□ハノイとハイフォン

安南山脈の東北、トンキン灣の海岸平野としてソンコイ(紅)河の平野が開けて居る。ハノイ(河内)はソンコイ三角洲の將に分流の始まらうとする處に位し、ソンコイ河流域を中心とする北部佛領印度支那の中心市場をなし、兼ねて總督の駐劄地となつて居る。ハノイからはソンコイ河に沿つて雲南省の雲南に鐵道を通じて居るので、其の方面の支那との貿易も盛んに行はれて居る。

ハイフオンは河内の外港で、ソンコイ河三角洲の一端に立ち、米・生絲等の輸出が盛んである。ハイフオンの北のホングエイからは石炭の産出があるのでハイフオン港は一層繁榮づけられて居る。

□メーコン河下流の西貢

サイゴンは我が大阪商船の基隆新嘉坡線の寄港地にあたつて居る。メーコン河の開いた三角洲の一端にあつて、附近に米を産する事が莫大である。

又冬の季節風の吹く頃は附近並びにカンボチャ方面は比較的寡雨地となり、而も氣

温は高いから綿の産出量が多い。綿と米とはサイゴンより我が國に輸入する二大重要商品である。

フランスは、西貢港の一部を軍港として、此の方面の警備に任じて居る。

□フランスは如何にして此の地方を獲たか

我が國の安永年間(徳川家治將軍の頃)は櫻島の火山が噴火したり、江戸に大火があつたりして何となく騒がしい世であつた。この時代に安南王國も大に亂れ、阮文惠と云ふ者が兵を起して自立して安南王となつた。もとの安南國王の甥に阮福映と云ふ者があつた。文惠に追はれて暹羅に逃れ、頻りに恢復を圖つたが事は成らなかつた。

よつて更にフランス宣教師ピニョー Pigneau に依頼して佛國の援兵を借つて目的を貫徹しやうとした。勿論、事成るの後は、地を割き通商を許すべきを約したのである。

然るに其の約束は行はれず、ピニョーの誘ひ來つた少數の佛國士官の援助を受け、

而も遂に阮文惠の子孫を悉く亡ぼして安南を再び統一し一八〇二年(徳川家齊の頃)越南國王となつた。

阮福映の子孫は安南統一に際し援助を受けた佛國の舊恩を忘れ、屢々佛國宣教師を殺す暴虐を敢てした。フランスのナポレオン三世はたゞさへ野心満々の人であつた。安南の行爲を大いに憤慨し、遠征軍を派遣して安南を攻めさせ、一八六二年(文久二年)には遂に西貢條約を結んで交趾支那を割讓させて平和克復となつた。ついで東蒲塞もその保護國となつた。

これより安南の君臣は深くフランス人を惡むに至つたが、一八八二年(明治十五年)佛國が恣にトンキンフクイの河内に駐兵するに及び、安南王は長髮賊の殘黨である劉永福等を招いてフランス兵を撃たせたが勿論其の敵では無かつた。フランス安南の開戦は斯くして起り、翌年國都ユエ府陥るに及び、ユエ條約を締結し、安南は自今フランスの保護を受け、トンキン地方の統治は事實上フランスの手に委ねられる事となつた。

一八八七年(明治二十年)フランスはトンキン・安南・交趾支那及びカンボヂヤを合せて佛領印度支那と名づけ、總督を置き、一八九二年に至つてメーコン上流のラオス(老撾)をも保護國として之れに加へた。ついでイギリスがビルマを頻りに經營するに鑑み、自衛上佛領印度支那の面積を擴張する必要を感じたフランスは、暹羅を脅かして其のメーコン河東の領土を奪つた。

海峽殖民地・馬來聯邦

□殖民地及び聯邦の占める位置

海峽殖民地は馬來半島の南部のマラッカ海峽に面して居る殖民地の總稱で、ウエレスリーを含むピナン島・デインヂング・マラツカ・シンガポールの四州を含み面積約千五百方里、人口九十萬ばかりを包擁する。

馬來聯邦は其の他の半島南部の地を占め、マラツカ海峽に臨むベラク・セラングル等が主である。各々酋長を戴き明治二十九年以後イギリスの保護國となつた。其の面

積は四千方里に餘り、人口は約百三十萬に達して居る。

兩地方ともマレー人の外に支那人の在留する者が頗る多く、半島の南端には日本人の農林事業を經營する者も多く居る。

半島中聯邦に加はつて居ないジョホール・ケダー・ペルリス・ケランタン・トレンガ五の五地方もあるが、何れもイギリスの保護國となつて居るのは同様である。

此の地方は主として西部並びに南部が開けて居る。これは交通の頻度が其の方面に大であるからであらう。

□世界に於けるゴムの大産地

マレー半島は山がちで、氣候が濕熱であるからゴムの栽培に適する。ゴムはもと南米アマゾン流域の原産であつたが、之れを苦心して印度並びにマレー半島に移植し、現在に於てはマレー半島だけで世界産額の三分の二以上を生産する盛況を示して居る。

ゴム林經營は山林の樹木を伐り拂つてあとへゴムの芽を植ゑる。間隔は二三間置きとし、行儀よくまつすぐに列をなして植ゑつける。數年の後ゴム樹の樹皮を傷け、流れ出る液汁を収集するのである。

ゴム汁から精製されたゴムは、セルロイド製造、自動車・自轉車のタイヤ等として需要の途が甚だ廣いので、海峽殖民地だけでも其の輸出額三億圓を越して居る。

我が同胞のゴム林經營の爲めに此の方面に活動して居る者も多數に上つて居る。大正十二年六月外務省の調査によると、海峽殖民地に在留する我が國人は五千四百十四人であるが此のうち約三分の一はゴム林の經營又は其の勞働に服して居るものである。

□シンガポールとピナン

シンガポールは世界交通の要衝にあたるマラッカ海峽の東口を扼し、半島の尖端に近い同名の小島に開かれた港市として東西兩洋間を往復する船舶を寄港せしめて居

る。

十九世紀の始までは微々たる一村落であつたが、イギリスは之れをジョホールの會長から買収し、經費を惜しまず之れに投じて自由港となし、又海峡殖民地の首府として知事を駐在せしめて居る。

後背地は廣くないやうであるが、實はマレー諸島やシヤム等を其のヒンテルランドとし、中繼貿易の盛んなことは香港以上であると云つてよい。ゴムの外に米・コブラの輸出が多く、又マレー半島上並びに前面のバンカ・ピリトン等の島々に産する錫の鑛石を集めて盛んに精鍊をやつて居る。

ピナンはマラッカ海峡の西北の入口にある一小島の名稱で、檳榔が多く繁茂して居るので斯く稱せられるに至つたらしい。島の東北、半島との間の海に面してジョージタウンの街がある。良港をなして居る上にゴム・コブラ・錫等の輸出が多いので我が船舶も時々寄港する。

一〇 馬來諸島

位置

□陸島としての馬來諸島

大陸と地帯構造上密接な關係がある時には之れを陸島と稱して洋島と區別する。日本列島も勿論陸島の好例である。

今左に馬來諸島が陸島である事を山脈の連なり方から考察して之れが斷案の材料とし度い。

ビルマの西部を走るアラカン山脈は、アンダマン・ニコバルの兩群島を南北に連ねて山脈の軸が明かに之れと關係のある事を示して居る。

アンダマン・ニコバルからは多少斜の方向を取つてスマトラの印度洋岸に峭立する山脈を起し、更にジャワに伸び、バリ・ロンボック・スンバワ・フロレス・オンバイ・ウエ

ツタル等の列島に續き、バンド海の東に小さい島を更に連ねてモルツカ群島の南方セラム・ブルの兩島に其の餘勢を示して居る。

一方馬來半島を構成する印度支那山系の一派は、赤道直下のリング島から、錫産地として世界に其の名を知られて居るバンガ・ピルトンの兩島を経て、ボルネオ島西南のサンバー岬(C. Samar)に上陸し、同島を斜斷してボルネオに出で、アメリカ合衆國領のバラワンの細長い島からミンドロに續き、更に呂宋島に及んで居る事は地形圖のみを以てするも明かであると思ふ。

之等の諸島が常識上の言葉として「南洋」と呼ばれながら、實はアジャ大陸の屬島として扱はれ、セラム島とバプア島との間に濠亞の境界線が引かれて居るのは當然な事とは云ひ乍ら、地理的の見地より愉快を感じる次第である。

□馬來諸島の火山

フィリッピン群島の東側にはフィリッピン海溝(最深所九七八八米)があり、スマト

ラ・ジャワの南側にはスンダ海溝(六千米以上)が横はつて居る爲めか、馬來諸島は一般に火山が多いので有名である。

マニラ南方のクール火山、呂宋の東南半島部の上に聳えるマヨン山(二五三〇米)、ミンダナオ南部のアボ山(二九二九米)、北ボルネオのキニバル山(四一〇米)、瓜哇のラウン山(三三三〇米)、セメル山(三六七〇米)、ラウ山(三二六五米)、スマラト山(三三二二米)、チイルメ山(三〇七七米)、ゲテ山(二九五八米)、スンダ海峽中のクラカタウ Krakatau(八一六米)等は皆有名の火山である。

最後のクラカタウ火山の如きは、一八八三年に破裂した火山島で、島の大部分は飛散し、火山灰は一時全地表を覆ふて太陽ために銅色を呈する有様であつたと云はれて居る。又ジャワ・スマトラの沿岸に大津波を惹起し、犠牲者四萬を出した大慘事を伴つた。

氣候・産物

□赤道常雨帯として

スマトラ・ボルネオ・セレベス・ジロロの諸島は何れも赤道直下にある。其の他の島々も悉く熱帯に屬し、氣温が一般に高い。

赤道附近はよく南北西半球から貿易風が吹き込んで来て、濕潤な空氣を上騰せしめる爲めに、来る日も来る日も雨が降る。但し太陽が北回歸線上を直射する夏至の頃、並びに南回歸線上を直射する冬の頃は太陽の直射する處とならないから稍々乾季となるのである。つまり馬來諸島には一年中二回の雨期と二回の乾期がある。

熱帯の島々の降雨は申し合せたやうに盆をくつがへす様に降つて来る。それで堅緻なる熔岩も遂には雨に浸蝕されて、火山の裾野には豊饒な土壤を埋積するに至る。ジャワやフィリピン群島が地味が肥沃で、生産業が盛んになり、其の結果人口の稠密を來して居るのも基くところは斯うした自然關係にあると思ふ。

□マレー諸島の産業一般

マレー諸島は古來香料の産地として知られて居る。セレベスの東方に、セレベスと同じ様な格構をして居る島がある。モルツカ諸島と云ふのであるが、それよりも「香料諸島」として船員達に知悉されて居る。丁子・肉荳蔻ニクジャクの産が今でも多い。丁子と云ふのは桃金娘科の植物で、熱帯地方にのみ産する。肉桂に似て葉が稍々細く、花は初めは白色であるが後に綠色に變化し香氣が非常に高い。其の果實は香料又は薬用として貴重せられる。肉荳蔻は薔薇に似た花の咲く熱帯獨特の植物で、葉は桃によく似て居る。果實の大きさはアンズ程で、黄色を呈し、甚だ香氣の強いものである。蜜などに漬けて食品と爲し、果實の仁は薬用に供する。

其の他チーク・籐・米・コブラ等は今も盛んに産出し、近年に至つて砂糖・珈琲・煙草・規那等も各島に生産されるやうになつた。

規那の如きは比較的最近に南米から移植したものであるが、今や此の地方が規那の主産地となり、世界産額の約三分の二を産出するやうになつた。

「馬來諸島に於ける籐細工」の挿繪は籐細工以外によく馬來地方の自然をも示して居ると思ふ。椰子樹林の茂みや、樹林の間に住居が點在する態も面白い。籐は棕櫚科の蔓植物で、枝を出さないのが特徴である。大きいのは直徑一寸に餘り、細いのは糸筋のやうなものもある。之れを適當な長さに切つて、籠・椅子・テーブル等に編み上げるのである。

區分・各地方

□英・米・蘭・葡の領地

ボルネオ島の面積は四萬七千方里で、我が國の總面積よりも四千方里だけ大きい。其の北部の北ボルネオ・ブルネイ・サラワクの三地方は面積約一萬三千方里、イギリスに屬して居る。

フィリピン群島は全部アメリカ合衆國に屬し、其の面積一萬九千方里に及んで居る。

オーストラリアに近いチモール島の東半はポルトガルに屬し、島の北岸に首邑デットの港市がある。

右の外は全部和蘭の領地で、バプア島の西半部と共に政治上蘭領東印度 Dutch East Indies と稱し、面積約十三萬方里に亘る部分を、バタヴィヤに駐劄する總督が治めて居る。

□よく開けて居るジャワ

ジャワ島は其の面積がわが本州の六割にあたり、人口の密度は其の約二倍に及んで居る。オランダの植民地經營はよく徹底し、熱帯に適する有用植物を世界の各地から移植し、勞銀の低廉な土人を奨励して栽培に従事させた結果、米・甘蔗・珈琲・茶・規那等が普及し繁殖して大富源となつて居る。

特に甘蔗の生育には地味と氣候が極めて適當すると見えて、長さ二丈に餘る長大なる甘蔗を産し、之れを畑から工場の入口に下ろすや否や、自動的に運ばれて壓搾機に

かけられる装置が出来て居て、砂糖の生産地として世界屈指である。

それで、我が國人のバタヴィヤ・スラバヤ附近に在留して農園の勞働乃至貿易・運輸等の事業に従事する者が多い。

大正十二年に蘭領印度から輸入した粗糖の価格は四千七百二十萬圓に達して居る。

□バタヴィヤとスラバヤ

バタバイヤは今から凡そ四百年前にオランダ人によつて建設された都會である。位置はジャワ島の西北海岸で、附近一帯は火山岩の分解された豊饒な土壤で海岸平野が出来て居る。

元祿十二年、西曆では一六九九年、附近の火山が噴火して海中に土砂を沈積し、バタヴィヤ港への船舶の出入が甚だ困難となつた。且つバタヴィヤ市街はもとから土地が濕潤で、時々濛雨に際し泥海と化する事があつて、健康上面白くないから、多少土地の高燥な南郊に新市街を營んでウエルテフレードン *Uitgeverden* と呼んだ。かくて愈

々海から遠ざかる様になつたバタヴィヤは、舊市街から東北四里弱の海岸に、タンジヨンプリオクの新港を築造し、バタヴィヤ並びにウエルテフレードンと鐵道で結んだ。我が南洋郵船會社の汽船が寄港するのは此の新港である。砂糖・珈琲・茶・コブラ等の輸出が盛んである。

ジャワ島の東北部の重要市スラバヤは瓜哇本土とマヅラ島との爲す灣入の奥にあつて砂糖の輸出港として知られて居る。此の港も我が南洋郵船の定期寄泊地である。

□「ひとて」に似たセレベス

セレベスは瘦せこけた「ひとて」のやうな格構をして居るが、それでも面積が一萬千六百万里もあるから朝鮮より稍々小さいばかりである。

其の西南のマカッサルは良港で、我が南洋郵船の寄港地にあたり、マレー諸島海運の一大中心をなし、ボルネオ南部の物資をも集散して居る。附近の海中には海參・鼈甲等の産が多く、陸上には珈琲・籐・木材・コブラ・香料等の富源がある。

「ひとで」の島に海參の産も面白い。海參は支那人の好物で、なまこの腸を去り、これをゆで、日に乾したものである。

島の東北岸にメナドの要津がある。太平洋海底電信の一起點で、その附近に我が國人の經營する椰子園があつてコブラを多く産する。

□ボルネオとスマトラ

兩島とも石油の産地として目下世界の注意を惹いて居る。スマトラのバレンバン、ボルネオのバリクババン、タランカ島附近が其の主産地である。

蘭領印度から大正十二年に輸入した石油並びに揮發油の價格は一千百萬圓に達した。タランカ島まで何度石油を取りに行つてもやはり「タラン」のである。

ボルネオ島の内地には鹹首の蠻風を有する土人が住んで居る。又「森の人」と云ふ意味のオランダグータン(猩々)が棲息して居る程開けて居ない。たゞ海岸のみは處々開け前記の石油の外に石炭・金剛石・樟腦・藤等の物産がある。北部のイギリス領にはサン

ダカンの名邑があつて、その附近に我が國人のゴム林がある。又、サラワクからはサゴ(Sago) (棕櫚科の喬木で、其の髓から取つた米粒狀の白い澱粉が食用に供せられる)の産が多い。

スマトラ島は近年、甘蔗・煙草・ゴム・椰子等の栽培が行はれ、其の東部からは石油を産する外に胡椒や香料の名産がある。

□フィリピン群島の産業

フィリピン群島はルソン・バネイ・バラワン・ミンダナオの各島にわたつて砂糖・煙草・マニラ麻・椰子の生産が甚だ多い。

このうちでフィリピン獨特のものはマニラ麻である。麻とは云ふものゝ、普通の麻とは大いに異なつて、芭蕉と同一やうな種類で、フィリピン群島の原産である。土人は之れをアバカ Abaca と呼んで居る。纖維は絹絲狀の光澤がある。其の粗大なものは綱や繩に製し、船舶のロープにして重寶がられる。それは水に堪へる性質があつて、

容易に腐敗しないからである。繊維の細くて上等なものは編物や布の織絲に供される。我が國で盛んに生産せられる麻真田の原料は實に此のマニラ輸入のマニラ麻なのである。

繊維を取るにはマニラ麻が花を開く前に葉柄束を切り、中肋を残し、葉片を去り、これを薄く裂いて繊維分離器にかけ、柔かい組織を分離して繊維のみとし、これを竿にかけて乾燥するのである。

ミンダナオ島のダヴァオに我が國人經營のマニラ麻の農園がある。

大正十二年フィリピン群島から我が國に輸入した物産の主なるものと其の價格は、

苧麻類(即ちマニラ麻)……八八二萬圓

粗糖………三二一萬圓

であつた。

□港市としてのマニラ

ルソン島の西部に南北に貫いた低地帯がある。其の北はダグバンの前面の灣入があり、低地帯の稍々南部には西方から東北に向つて入り込んだマニラ灣の灣入がある。又マニラ灣岸と僅かに二里半を距て、ペー湖が右の低地帯の南方に存する。

マニラは實に、ペー湖よりマニラ灣に流れ出るバシク河の河口に跨がり、此の低地帯を經濟上の地盤として發展した商港で、小さな船はバシク河に引き入れ、大船は新に營んだバシク河口の南岸の「マニラ港」に寄泊させる様になつて居る。マニラ灣口よりマニラ港までは凡そ十五里ばかりで、東京灣外の三崎から芝浦港(東京港)に達する程の距離である。

砂糖・マニラ麻・マニラ煙草等を輸出するので知られ、南洋交通の要津として我が郵船會社並びに大阪商船會社等の定期船が寄港する。

マニラのすぐ南にあるカヴィテと、マニラ灣外のオロンガボとはフィリピン守備の二軍港である。

□馬來諸島のまとめ

馬來諸島は熱帯ではあるが雨量が多くて比較的日本人の活動に適するので、フィリピン群島には七千人餘、蘭領印度には二千五百人ばかり(大正十二年六月調査)の在留同胞が居る。

其の多くは農業・林業等に従事する者で、これについて木・竹類に關する製造業、飲食品並びに嗜好品製造業、土木建築業、物品販賣業、運輸業、旅館、飲食店浴場等の經營者が多い。

我が定期船は、日本郵船濠洲航路(マニラ・ザンボアンガ)・南洋郵船南洋航路(バタビヤ・チエリンボ・サマラン・スラバヤ・マカツサル・バリクババン)・大阪商船濠洲線(マニラ・ザンボアンガ)、同南洋線(マニラ・サンダカン・タワオ・バタビヤ・サマラン・スラバヤ・マカツサル・サンダカン)等の航路を開いて之等の島々との貿易に従事して居る。粗糖・石油・マニラ麻等は諸島から輸入せられる重要産物である。

第二大洋洲

位置・成立

□オセアニアとオーストラリヤ

オセアニア Oceania とは大洋洲と云ふ義で、太平洋上から印度洋の東部にかけて無數に存在する大小の陸を總稱して居るのである。

オーストラリヤは右のオセアニア中の最大の陸面で、之れをオーストラリヤ大陸又は濠洲と呼ぶことがある。けれどもオセアニア大陸と稱すべきものは無く、又濠洲で以て大洋洲の代稱にする事も出来ない。

結局は全體と部分との關係である。即ちオーストラリヤは大陸と云ふ言葉を添へるにしても、依然としてオセアニア洲の部分である。

□分けられる四つの部分

オセアニヤ洲は便宜上(地勢上の嚴密な意味では無い)次の四つの部分に分けられる。

- 1 オーストララシヤ オーストラリヤ大陸とタスマニヤ及びニュージーランドを含む地方で、面積から云ふと大洋洲の大部分を占めて居る。
- 2 メラネシヤ オーストラリヤ大陸の北方より東北にあつて散布する大小様々の島で、大なるは世界第二の巨島バプアより、小なるは單なる珊瑚島に過ぎないサンタクルス群島等がある。其の他ビスマルク群島・ソロモン群島・ニューヘブリヂス群島・フィジー群島・ニューカレドニヤ等がこれに屬する。
- 3 ミクロネシヤ 日本列島とメラネシヤとの間に横はる極めて小さい島々の群れで、多くは珊瑚礁を伴ふて居る。我が國が委任統治をして居るマリヤナ・パラウ・カロリン・マーシャル等の群島の外に、ギルバート・エリス等の群島がある。
- 4 ポリネシヤ 百八十度子午線の東方に擴がる大洋洲東方全部の總稱で、布哇群

島をはじめ、フェニクス・トケラウ・サモア・トンガ・マニヒキ・クツク・ソシエテ・マルキサス・バウモツ・ツブアイ等の群島を含んで居る。

一 濠太刺利

面積・人口

□面積と住民

面積は約四十九萬方里で、ユーラジヤ大陸の七分の一に過ぎない。支那共和國の全領土にも足らず、僅に其の三分の二ばかりである。

人口は目下約五百四十萬で、概ねイギリス人の子孫である。在留日本人も少くは無いが、近時東洋人の移住を排斥し、「濠洲は白人の濠洲たらざるべからず」と絶叫して居る。

土人のオーストラリヤ人は黒人であるが、今は其の數次第に減じ、タスマニヤ土人

の如きは既に絶滅してしまつた。

人口密度は最もよく開けたビクトリア・サウスウエールズ兩州でも、一方里平均約五十人位である。一般に人口が甚だ稀薄であつて、海岸地方の外は殆んど著しい都市の發達を見ることが無い。

地勢

□高原性の大陸

平面圖が一寸猫の頭を正面から見た様な格構をして居る。一般に高原性であるが、其の東南に連なるオーストラリア山脈(又はオーストラリアアルプス山脈)の内側には、マレー川並びに其の支流ダーリング川等の開いた低平な原野が廣く横はつて居り、この平野とブローケンヒル附近の丘陵を距て、エーヤ湖(其の水面は海面下十二米)を中心とする内陸流域が存するから、大陸の全體が高原であると云ふ事からは免れて居る。

オーストラリア山脈は濠洲の文化に大なる關係を持つ山脈であるが、其の最高峯たるコシヤスコ山が二二三六米を算するに過ぎないから、ブリスベーン・シドニー・メルボルン等から、これか越して内部の平原に出るにたいした困難を感じない。

□自然の良港灣

オーストラリア山脈が大陸の一端に延びて居る事は、其の餘派の連互する部分に良港灣を形成せしめるの結果となつて居る。

メルボルンのポートフィリップ灣の形成も、シドニーのポートジャクソン灣も、ブリスベーン前面のモレトン・ストラッドブローク等の島々も、皆オーストラリア山脈と地帯構造を共にする餘派の山地の恩恵と見なければならぬ。

斯うした灣入の後方に連なる山脈が、丁度其の灣入と、後方の平野とを連絡せよと言はぬばかりに低い通路^{トランス}を残して居るのであるから、愈々以て港灣としての價値が、地勢に即して育まれて居ると見るべきである。

□大陸の残片としてのタスマニヤ

セーロン島が印度半島から分離した一ブロックであつたやうに、タスマニヤの島も亦、オーストラリヤ大陸の一つのかけらであつて、島一體に高原性をなして居る。

オーストラリヤ山脈の餘派ホツヅル山地から分岐したウイルソン半島がバシ海峡に突出して居るかと思ふと、タスマニヤ島の東北の岬角ポートランド岬との間にケント群島・フリンダース島・ケープバレーン島等を連ねて居り、バシ海峡の西口にも、ピクトリヤ州のオトウエー岬と、タスマニヤのグリム岬との間にキング島・ハンター群島・バレーン島・スリーハムロック島・ロビン島等を一列に散布して居る。

オーストラリヤ大陸に居る珍奇なる動植物、例へばカンガル―鴨嘴獸・エミュー・ユーカリ樹等はタスマニヤにも同様にこれを見ることも、嘗てはこの島が大陸と地続きであつたことを證明する一つの事實であらう。

氣候・産物

□マーレー河流域の自然と文化

オーストラリヤ大陸の東南部にある此の流域は、其の東側にある山脈を吹き越す海風が僅かではあるが雨量を供給するのと、山脈中から来るマーレーの本・支流の灌漑とによつて、此の大陸中最も纏つた廣い生産地として知られて居る。

ところが降雨のこの部分は年によつて非常に不順で、往々大旱魃が起る事がある。この旱魃にも備へ、且つは農牧地のより以上の擴張の爲め、灌漑用水及び牧畜用鑽井の設備が大いに發達して居る。中でもマーレー河の支流マーランビジー *Murrumbidgee* 河を利用した灌漑工事の結果は、其の西方に面積約二千方里(臺灣の全體程もある)の生産地を得た。

斯うした自然と、その上に多少加へられた人工との結果、小麦・燕麥等の穀物や、羊・牛等の畜産が甚だ盛んとなり、羊毛の産出は世界生産の約四分の一に及び、従つて羊肉・牛肉・牛酪皮革等の物産が甚だ多量である。

肉類は多くは貯蔵肉としてヨーロッパに輸出せられる。

□内陸流域と高原部

エーヤ湖を中心とする内陸流域から、中央部以西の高原上には荒地若しくは沙漠が廣く分布して居る。其の降水量年額は多くて二三百耗、甚だしい處は全然雨を見ない部分さへある。

サンド大沙漠やギブソン沙漠、稍々南のヴィクトリヤ大沙漠等は見るからに荒漠として、殆んど人類の住所としては可能性が皆無である。

クインズランド州と西オーストラリヤ州との間に挟まれた北部地方は、濠洲唯一の州を爲さぬ部分で、聯邦の共同領土となつて居るが、其の一つの理由は域内に甚だ沙漠が多いと云ふ事であらう。

オーストラリヤの西部が其の海岸に近い處まで大沙漠を伴ふて居るのは、一つは其の高原性の爲めであるが、他は海洋其のものに原因があると思ふ。即ちこの方面の海

洋中には、西オーストラリヤ海流と名づけられる比較的寒流が流れて居るので、水蒸気の發生が甚だ微弱な爲めであると思ふ。

□金・銀と石炭の産出

シドニーに近いバサースト、メルボルン西方のバララット、西オーストラリヤ州のカルグールリー(Kalgoorlie)・クルガルヂー(Coolgardie)等は金の産出量の多い鑛山として知られて居る。オーストラリヤ東南部が速かに發展した一つの原動力は實に右のバサースト・バララット等の金鑛であつたし、西オーストラリヤが輓近、急速の進歩を示し、アデレードとの間に沙漠横斷の Trans-continental Railway の敷設を見たのもカルグールリー等の金山の影響である。

ニューサウスウェールズ州西部のブロークンヒルは盛んな銀山で、採鑛の規模が甚だ大きい。

石炭はシドニー北方のニューカッスル附近に大炭田があつて、東洋の市場に於て日

本炭と競争の位置に立つて居る。

□ 珍奇な動物

教科書の挿繪にカンガルーと鴨嘴獸がある。

カンガルーはオーストラリヤとバブアとの原産で、有袋類に屬し、前肢の發育が不
充分で、歩行には後脚で跳ねながら進む。大なるものは立ち上ると六尺にも達するの
がある。牝は肚に袋を有し、哺育期にある幼児を入れて跳ね歩く。オーストラリヤ
土人は好んでカンガルーの肉を食用に供する。

鴨嘴獸は鳥と獸の中間物である。全體の格構は河獺によく似てゐるが、口は鴨の嘴
そのまゝであるし、足にはみづかきがついて居る。それから鳥類と同じやうに一穴動
物で、卵生であることも振つて居る。身長は一尺から一尺四五寸位までのもので、ニ
ユーサウスウエールスからタスマニヤに多く産する。

□ ユーカリ樹の特色

桃金娘科に屬する常緑の喬木で、成長しきつたものは五十間にも達するものがある。
東南オーストラリヤとタスマニヤが原産地であるが、今では温・熱兩帶各地に移
植せられ、我が國にも處々に之れを見るやうになつた。

幹の色は帯青白色で、葉は幼樹の時は卵形無柄で對生して居るが、成長するに従ひ
互生に變じ長い葉となる。十二月の頃に花を開く。

ユーカリ樹は成長が極めて速く、且つ地中の水分を吸収することが頗るはげしいか
ら、濕地を變じて健康地とする効能がある。田圃などを埋め立て、校庭としたやうな
處には須らくユーカリを植ゑるべしである。

此の葉を乾溜してユーカリ油を製し、殺菌用に供し、又は香油の原料にも應用する。
其の材は堅牢緻密であるから建築用としても使用に適し、家具の用材としても需用が
多くなつた。

都會

□シドニーの價値

シドニーの臨むボートジャクソン灣は出入の甚だ多い。水深の程よい入り込みで、其の海岸線の全長は百哩にも達する。斯うした良灣の形成せられた根本の力は此の部分の地盤の局部的沈降によるものと考へられる。

港其のものが世界屈指の良港であるばかりで無く、ヒンタルランドとしてのマーレー河流域とも容易に交通が出来るし、オーストラリヤ山脈の東方に産する甘蔗糖をも集散する位置にあたり、其の上に北部の大炭田は港市としてのシドニーを一層活躍させる原因の一つとなつて居る。

我が日本郵船の寄港地で、總領事館が置かれて居る事に徴しても日濠貿易上重要地であることが察せられる。

□メルボルンの研究

オーストラリヤ山脈は其の最高峯コシヤスコ山から山脈の軸を西方に一轉させると

共に山勢は著しくなくなり、メルボルンの臨むフィリップ灣の北方に於ては、マーレー河流域と容易に交通し得る低い峠になつて居る。

メルボルン市街を貫流するヤラ川は、其の注ぐホブソン灣(フィリップ灣の副灣でメルボルンの埠頭になつて居る)と共に常に多數の船舶を繫留して居る。羊毛、冷蔵肉・金等の輸出港としてシドニーに亞ぐ繁榮振りを見せて居る。

メルボルンで山の手とも稱すべきは市街の中央にある植物園、其の南のアルバート公園以東で、教科書の挿繪「メルボルンの市街」もやはり山の手の一部を示したものである。人道に植えつけられた鬱蒼たる並木が如何にも氣持よささうである。

□アデレードとパース

マーレー河口を西に廻ると、カンガル島によつて南を塞がれたセントヴィンセント灣が北方が彎入して居る。此の灣の東岸に、マーレー河流域とは低い山地を距て、南オーストラリヤ州の首府アデレードがある。マーレー河流域の物資輸送には地の利

を得て居るので發展して來たが、ブロークンヒルの銀が盛んに採掘されたので一層此の港市の活況を見るに至つた。

パースはスワン河口のフリマントルを門戸とする西部オーストラリヤの中心市場で附近の金鑛の爲めに榮えて居る。又此の地方は幾分海洋の影響を受けて雨量年額八百耗ばかりに及ぶので農牧業も著しく發展して來た。

沿革

□濠洲探險の歴史

オーストラリヤとバブアとの間をトレス海峡と呼んで居る。これはイスパニヤの航海者トレスによつて一六〇六年(慶長十一年)に發見されたので、發見者の名を海峡に冠したのである。

ついで一六四二年から三箇年の間に和蘭人タスマン *Tasman* は、バタヴィヤを根據として屢々東方の探險に従事し、濠洲の一部や、タスマニヤ・ニュージールランド等を

發見した。

けれども其の探險地は涯なき砂漠地であつたり兇暴無比の蠻民族が居たりして到底白人の住所としては望みの無いものと見なされ、敢て殖民の企てられる事もなかつた。

ところがイギリス人ジェームス・クック *James Cook* が一七七〇年以來頻りに太平洋上の島々の探險に従事し、ニュージールランドが南北二島より成る事、濠洲東岸のボタニ灣等には樹木が緑滴らんばかりに繁茂して印る事等を確めると共に、探險の真相を精しく本國に報告したので、イギリス朝野の心は動いた。折柄イギリスが久しく領有し來つたアメリカの植民地は獨立してしまひ、領地を得んとするの熱情は日増しに高まつた。

□イギリスの殖民

一七八八年イギリスは試みに流刑者をボタニ灣(シドニーの南)に送つて開拓に従

はしめ、ついで自由民の移民を奨励しだした。

イギリスが濠洲移民を如何に重要視し、之れを激勵したかはロンドン市中のトラファルガルスクエアーで移民の爲めに皇帝が親しく臨御せられ、イギリスの名譽の爲めに其の本分を盡せとの勅語を賜ふのが例になつて居るのでも其の力み方が知られる。

我が國の移民は殆んど例外なしに單身移民であつて家族生活の平和を破る事が多い。従つて移民先きで腰を落つて働くこと云ふ事も自然困難に陥る。そして小金が出来るにすぐ歸國してしまふのが普通である。

然るにイギリスの濠洲移民は多く「家族移民」であつて、新らしい天地に自由を求めて家族を中心とした至上生活が出来るから、其の移民が成功したのも無理もない事であると思ふ。

二 本洲の諸島

面積・人口・地勢・氣候

□ 諸島部の面積と人口

本洲の諸島の全面積は約八萬餘方里であるが、其のうちで世界第二の巨頭バプアは五萬三千方里もあり、ニュージーランドは一萬七千方里にも及んでゐるから残りの部分は僅かに一萬方里ばかりに過ぎない。而もこれが際涯の知れぬ程の渺茫たる大洋上に細かく分散して居る譯である。

諸島部の人口は總體で約三百萬に達して居る。けれどもニュージーランドは既に百三十萬の人口を包擁して居るし、バプアには六十萬餘の住民があるので、爾餘の島々の總人口は僅かに百萬人に過ぎぬ。

概して云ふと島の人口密度は多いものである。これは海陸共に生活資料が得られて人類の住所として適當である爲めである。處がオセアニヤ洲の叢爾たる島々は、布哇のやうな人口稠密地を平均しても尙ほ一方里百人の割合に過ぎない。日本の人口密度

の約二十分の一に過ぎないのである。

□島嶼の多い理由

南太平洋には嘗ては現在のオーストラリアに數倍する巨大な陸面が存したもので、やうである。現在のポリネシアの東南部にも何だか、過去の大陸が海中に沈んでしまつたのではないかと思はれるやうな海底の様子が地圖で見られる。即ちチリ共和國の沖合にジュアンフェルナンデス島が現に存し、エクアドルの西方にガラパゴス群島が散在する附近に、周囲の深海からは遙かに淺くなつた(それにしても二千米以上四千米の深さはあるが……)海底を想像せられるのである。

斯うした想像を逞しうする事によつて、今の濠洲を例へばチベット高原の如き高所とした一大陸が太平・印度兩洋の間に存して居たものと考へさせられる。處が其の後の地盤の徐々に沈降して行つた結果、大陸時代の山脈がバブア・ニューギニアの如き島々をなし、更に一層局部的に沈降した處は山脈中の高所のみ島となつて残つて

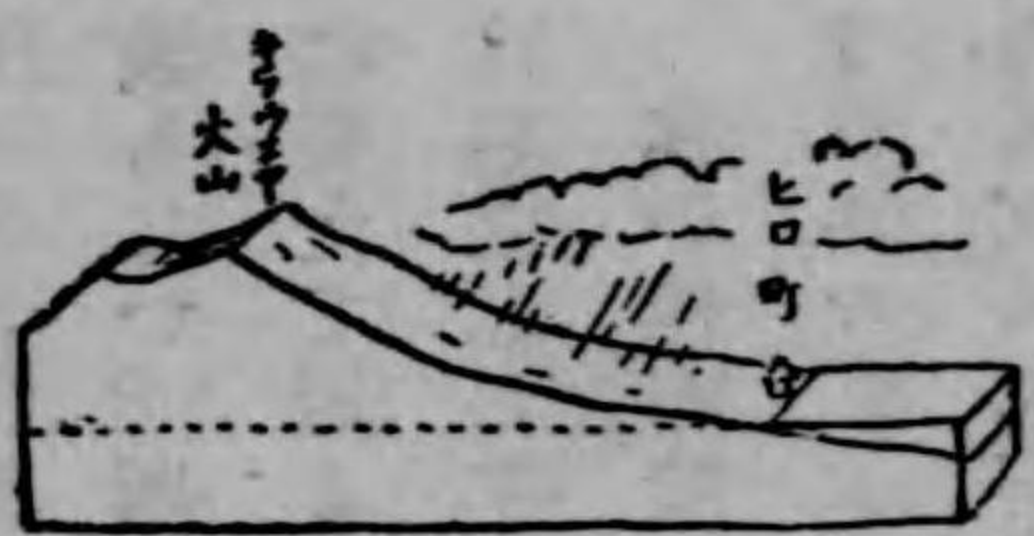
居るものと考察せられる。

カロリン群島が何となくバブア若しくはオーストラリア大陸のごこかを中心として圓弧を描いて居る列島状をなして居るのは、それが嘗ては一大陸の周邊の大山脈を形成して居たことを物語るものでは無からうか。

□諸島中の火山

マリヤナ列島は富士火山脈の續きであるから島上に火山の聳えて居るのは何の不思議もない。所がカロリン群島にも廣い意味で火山と認むべ玄武岩(Basalt)の山が處々に聳えて居る。例へばトルツクやボナベ・クサイエ等が皆それである。ボナベの如きは峭立した玄武岩の斷崖が、海岸近くは城壁か何かのやうに續いて居る。

其の他布哇にはハレアカラ(三〇五八米)・ロア(四一六八米)・ケヤ(四二〇八米)・キラウエヤ(二二三二米)等の大火山があり、ニューギニアの北島には美しい圓錐形のエグモンド火山(二五二〇米)間歇温泉等があつて太平洋上の島々に火山作用の劇烈



第三十圖

に行はれて居ることを示して居る。キラウエヤ火山の如きは其の頂上の周圍四里に餘る噴火口の中に、熔岩の熱湖を湛へて居て、それが時々火口壁から流れ出すと云ふ有様である。何故に然るかに就ての説明を試みる代りに我が日本列島の如き大陸の周邊上に立つ國土の上に、何故に火山が多いかを反省考察するに止めて置き度い。

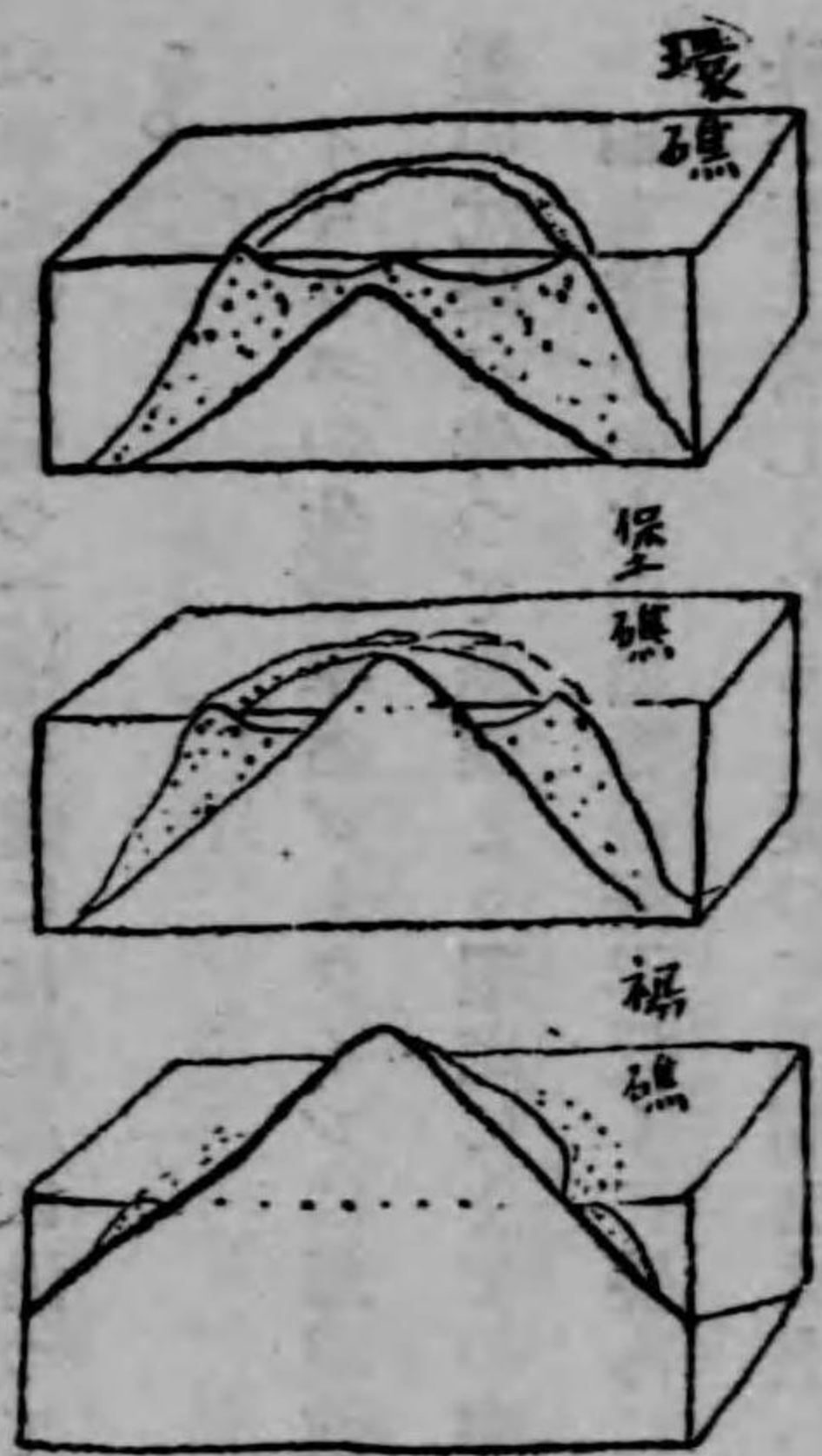
火山の斯うした分布が之等諸島の自然並びに文化に影響が著しいのも見易い道理である。ハワイのヒロを中心とする砂糖の事業が、火山の噴出と密接不離の關係のあることは、ジャワ島の甘蔗事業のところで説明を試みた通りである。

□珊瑚礁は如何にして生ずるか

腔腸動物の一種としての珊瑚虫は、石灰質を分泌して其の生活の土臺を作り上げる。其の多量に集積して岩礁状をなすものを珊瑚礁と名づけるのである。いつたい珊瑚虫の生活には色々の條件を伴つて居る。水溫が二十度以上であることを要し、海面より五六十米以下では水壓の爲めに生活が不可能に陥るから最初珊瑚虫の好んで群棲する處は熱帯の海で島若しくは大陸の沿岸ばかりである。たまたま海中に、淺瀬状をなして存する部分があるとすれば其の上にも好んで寄生する。けれども濁水を排出する大河の出口は珊瑚の生活に適しないから、大陸の沿岸ではオーストラリアの東北部と云つた様な處には海岸に沿つて五百里にも及ぶ「大堡礁」の生成を見て居る。

イギリスの生物學者ダーウインは珊瑚礁を分類して裾礁・堡礁・環礁の三つとし、地盤の沈降に伴つて裾礁より環礁にまでの變遷を説明して居る。

即ち洋上の火山島等の海岸近くに盛んに棲息した珊瑚虫が裾礁を形成し、地盤の沈降が漸く著しくなるに従つて珊瑚虫は上へ上へと祖先の骨格(?)の上へ新たなる生活



第四十圖

の場所を構成しつゝ伸び上る。そして中央の幾分か面積を狭小にした島との間に「礁湖」を残す。こうした珊瑚礁を島から考へると恰も島の堡壘でもであるかの様である。それでこれを堡礁と命名する。ついで沈降作用により島全體を海面下に没し去つた後にも、珊瑚礁のみは依然として存在して所謂「環礁」を形成する。

新たに我が統治に歸した「南洋」の島々には、斯うした珊瑚礁の各種の「型」がある。クサイエ・ヤップ等はまた裾礁の時代であるが、サイバン・ボナベ・トルツク等は堡礁の時期に入り、ヤルト・クワジロン等は立派な環礁をなして居る。概して「我が南洋」の東部ほど、發生的に見て進んだ時期の珊瑚礁が形成せられて居る。

□ 亞細亞と大洋洲との境

アジャとオセアニア洲との境界の劃定には二つの場所に問題が存すると思ふ。即ち(1)マレー諸島と濠洲の屬島との境界をどこに決すべきか(2)現在のミクロネシア中に、或る標準を設けて二大洲の境界を決定するのが妥當であるまいか、妥當なりとすれば其の境界線は果してどこに引くべきか、であると思ふ。

(1)の問題については嘗て東印度諸島(即ちマレー諸島)の生物に就て實地に研究したウォレンス(Wallace)が、セレベスとボルネオに、並びにロンボクとバリに動植物の著しい分布の差異を發見し、同時にそれらの島々の間が可成り深い海溝をなして居る等の點から其の間に二大洲の境界線設定を主張し、大方の地圖に、所謂「ウォレンスの線」を以て境界としたものが載せられたが、其の後の進んだ研究により、主として地帯構造上の關係を基礎とし、バプアとセラム島との間を以て境と決定せられるに到つた。

所が(2)に就ては何等の合理的解決がついて居ない。富士火山脈に屬する小笠原諸島とマリヤナ列島とはあつさりど斷ち切られて兩大洲の境界線とされて居る。



第五十圖

思ふにオセアニア・アジア兩大洲の境界はマリヤナ海溝を以てしなければならぬ。即ちマリヤナ及び其の西南のヤップ島・バラウ群島等は皆アジア大陸の屬島と見做すのである。マリヤナ・ヤップ・バラウ等の列島が、アジア大陸の那邊かを中心として圓弧を描いて居るやうな有様に徴してもこの事の眞實であることが想はれる。

ニュージールランド

□ニュージールランドの自然

ニュージールランドはオーストラリヤ大陸と大約四百里ばかり距たる長靴狀の島で、

其の北島は我が北海道の形狀に類し、南島は稍奥羽地方の如き格構をして居る。南島のクツク山の如きは三七六三米の高峯で、オーストラリヤ大陸の最高峯に比して更に一千米以上も高い。それで南島の南半の高峯には現に氷河を流し、其の西岸には峽灣Fiordを形成し、東の斜面には氷河湖を多く伴つて居る有様である。

北島の中央にはタウポ湖を湛へ、それから流れ出るワイカト河の流域には世界的に有名な間歇泉其他普通の温泉が幾十箇處となく噴出して居る。

ニュージールランドの氣候が溫和であることは其の緯度上からでも推して知られる。雨量は主風の關係で兩島とも西側に多く、森林が到る處に繁茂して居るが、島の東半は著しく雨量が少なく、平原も比較的に多いので、牧羊並びに小麥の生産地として開けて居る。

□産業並びに都會

北島は一般に牧畜が行はれ、南島は小麥耕作・牧畜兩つながら盛んである。ニュー

ジールランドの羊は、毛と肉とを同時に目的とする雑種で、別に乳牛の飼育も甚だ盛んである。

北島のオーランド・ウエリントン、南島のクライストチャーチ・ダニジン等から輸出せられる羊毛・凍肉・バター・チーズの量は莫大で、南島の人口は百三十萬を出でないが、輸出額は年々三億五千萬圓を突破する實狀にある。

北島の南端にあるウエリントンは、南島との間のクック海峡に臨み、ヒンデルランドとして南島の大部分をも其の勢力範圍として居るので貿易が甚だ盛んである。又オークランドはニュージールランド中最も温暖の地域に位し、附近には葡萄等の果樹もよく生育して居る。港其のものは地峽部に立つて居る爲めに東西兩方面から船を寄せる事が出来る上其の北方には大炭田を有し、太平洋航路の要點にも當つて居るので市況が榮えて居る。

□土人マオリ Maori 族 ニ ついて

名高いマオリ族は北島の東部に主として住居して居る。

彼等の皮膚は暗褐色で、頭髮は黒く體格は一般に長大である。性質は概して勇敢で、伶俐なことに於ても大洋洲の土人としては第一位にあるものであらう。衣服は男女共に麻で製した蓐蓆様のものを着用し、好んで鳥の羽毛を頭に飾りたがる習慣がある。其の木造の家屋には釘は一切用ゐない。柱と柱を縄で結び、又は用材に細工を施して組み合せて用を便して居る。

英人侵入の當初に於ては頑強に抵抗したこの事であるが、遂に文明の利器に征服せられ、今は英人と共に産業に努力し、政治にも參與するまでに進んで來た。

彼等が多くの人々の興味の對照となつて居るのは其の文身の習慣であると思ふ。男子の顔面には各種の模様が描き出されるが、殊に酋長の文身は最もこみ入つて居る。そして彼等の家屋の正面には門標の代りに主人の似顔を模刻し、主人のしてゐる通りの文身まで彫刻して吊して置く。

布哇諸島

□布哇諸島の自然

布哇諸島は最大島ハワイ(面積約七百里)以下、マウイ・モロカイ・オアフ・カウアイ等の島々より成り、總て海中火山として噴出した火山列で、ハワイ島以外は其の活動が非常に古い時に於て、あつた爲めに、今は甚だしく水蝕を受け、殆んど火山としての形狀を認め得ないまでに變化して居る向もある。

ハワイ島は諸島中最後の噴起に係り、ケヤ山(Mauna Kea)に並びロア火山(Mauna Loa)は一大活火山で、其の四十餘年前に噴出した熔岩流は、其の南方約二十里の海岸にまで達して居る。

ヒロ町の西南に聳えるキラウエヤ(Kilauea)山は、火山活動の著しい好標本として其の名が世界に知れ渡つて居る。其の一大噴火口内には眞紅の焰を上げて煮え返へす文字通りの火の海で、熔岩の火柱・火焔は數十間の高さに達し、岸に激して阿修羅の如

く狂ひ、落下しては閃光きらめく火花を散らして居る。其の狀實に戦慄を禁じ得ない程の壯觀である。

布哇諸島は熱帯に位する爲めに氣温も高く、東北貿易風に伴はれて島々の東北側は一般に雨量が三千耗にも及んで居るので、甘蔗其の他の有用植物の生育が極めて速かである。けれども島々の西南岸、即ち卓越風の風下に當る方面は雨量が少なく、珈琲・鳳梨・綿等の生産に富んで居る。

諸島が悉く火山岩で構成せられ、頻りに加へられる水蝕作用の結果として海岸並びに溪谷地に農沃な土壤を埋め立て、居る事もハワイの生産業に至大の關係を持つて居る。

□布哇に於ける日本人

布哇諸島の輸出額は年々二億圓を越える有様である。このうちで甘蔗糖が大部分を占め、多くは米本國に送られ、サンフランシスコ等で盛んに精製されて居る。即ちサ

ンフランシスコの繁榮の一原因は、布哇より輸入せられる砂糖にあると云つても不可ない。

斯うした莫大の砂糖生産に勞力を供給するものゝ大部分は實に我が同胞である。大正十二年六月に行つた外務省の調査によると、布哇に於ける邦人は男子六六八八四人女子五二一四八人、合計十一萬八千八百三十二人である。

日本人の最も多いのは、甘蔗事業の最も盛んなヒロ町附近である。處によつては日本人のみの部落も出來、日本の神社や本願寺の説教所まで出來て居る。ヒロ町の役場の徵稅令書には英文と日本文と兩様の活字が押してあるのに徴しても日本人の數的勢力が如何に大きいかが知られる。

□ホノルルの價值

ホノルルは其の位置がサンフランシスコよりシドニーに引いた線とバナマ運河から横濱との間に引いた線との交叉點附近に相當し、太平洋上の主要航路の集中點として

發達して居る。

オアフ島の古い火山脈が背後に横はり、山を越えて其の東北岸には雨量が却つて多きに過ぎる程であるが、ホノルル附近は貿易風に對して風下に當る關係上快晴の日が多く、古い火山地から來るらしい地下水も豊富に湧き出るので都邑發達の重大な條件を具備して居ると云へる。

其の港灣は自然の防波堤として珊瑚礁の堡礁が横はり、此の上も無い好碇泊所を供給して居る。

合衆國は布哇諸島を頗る重要視し、ホノルル西北の眞珠灣奥にはパールハーバー Pearl Harbor の軍港を置き、其の北方のカフク岬には壯大なる無線電信所を特設してサンフランシスコ・バナマ・フィリピン等と盛んに通信を行つて居る。

我が南洋委任統治地

□「我が南洋」の概観

我が南洋委任統治地はマリヤナ・カロリン・バラウ・マーシャルの四諸島より成り、其の面積約百六十方に過ぎないから、内地の神奈川縣か佐賀縣位の大きさに匹敵する。

マリヤナ諸島 比較的新らしい弓状の火山列島で、其の北部には活火山も存在する。最大島のグアム島だけがアメリカ合衆國領である。サイパンが之れにつき、面積約十二方で、其の西岸のガラバンは横濱ニュージールランド間の定期船の寄港地にあつて居る。

バラウ諸島 隆起珊瑚礁の島々で、其の南方のアンガウルは太平洋屈指の燐礦産地として知られて居る。又バラウ諸島の東方に横はるヤップ島は、南洋諸島中では型を異にし、古生層の臺地をなす島で、アジャ大陸の端と見られて居る。珊瑚礁は僅かに第一期の裾礁時代である。

カロリン諸島 最大島のポナペは面積二十三方で、北側の堡礁内には好錨地を有

する。島中に玄武岩の柱状節理をなした岩を積み重ねて造つたナンマタールの古城址がある。築城民族は果して何民族か不明であるが、或は戰國以前の日本人ならずやとも言はれて居る。ポナペ西方のトルック島は東西二十里、南北十五里ばかりの堡礁で囲まれた東西二群の諸島から成り、之等の島々が皆堡礁を有するので、島々は皆二重の堡礁で取りまかれて居る譯である。大なる火山體が沈降して、幾多の峰頭のみを海上に残したものと思はれる。

マーシャル諸島 三十餘の環礁から成り、面積約二十六方里、西北より東南に走る二列島に分れ、太平洋中で珊瑚環礁の模範的に發達して居る部分である。最大島ヤルト島は、長さ約五里、幅約半町、高さ僅かに五尺ばかりの一大堤の状をなし、これに連なる切れ／＼の珊瑚礁と共に一大礁湖を包擁して居る。

□我が南洋の富源

赤道近海にあつて雨量に恵まれる爲めに植物の生育が旺盛で、椰子・パンの樹・タロ

芋等が繁茂して居る。たゞ時々起る颱風の爲めに諸島第一の財源たる椰子樹に損害を及ぼす遺憾があつたが、近頃は椰子樹を深く栽植する方法をこるやうになつたので今後は暴風に際しても吹き倒されることは尠くなるのであらう。暴風圏内から殆んど位置的にまぬかれて居るマーシャル諸島に於ては、椰子樹の生育は理想的で、随つてコブラの産出に富んで居る。

其の他鯉・鰻等の魚族や、高瀬貝・海參・たいまい等の好漁場として開發される望は充分であるが、高瀬貝が鈕卸の材料として多く採集されて居る外は概ね天然の儘に放棄せられて居る。

それからアンガウル島の燐礦採掘が盛んである。アンガウル島は隆起珊瑚礁で出来てゐる。即ち一面の石灰層から出来て居た。其の上へ無数の海鳥が恒久の歳月にわたつて飛來飛去して莫大量の鳥糞をのこして行つた。石灰と鳥糞とが化合して燐灰石としての燐礦が出来たのである。鳥糞中には魚族の骨が澤山に交つて居るが、その骨が

燐を發生し、石灰質と化合したのである。斯うした自然の化學變化が行はれる爲めに、日射と降雨とが貢献して居るのは勿論である。

アンガウルの燐礦貯藏量(露天堀)は約三百萬噸と稱せられ、年々約十萬噸内外を採礦し、之れを内地に輸送する。

燐礦の用途は主として肥料にするのである。即ち之れに硫酸を注いで燐酸石灰とし、稻・麥等の結實量を豊富にする爲めに使用せられるのである。

□熱源低氣壓の「お里」として

カロリン諸島の西部からバラウ諸島にかけて、我が國を襲ふ暴風雨の發生地として知られて居る。

このあたりの島々は、熾烈な太陽の直射をうけるので、周圍の洋上の氣壓より著しく低壓となる。そして此の低氣壓に吹き入る風は、赤道方面からも勿論あるが、それ以上に北部の空氣の流れ入る分量が多い。其の理由は赤道直下附近の方が北部の洋上

の空氣よりも熱せられて居る爲めに比較的低氣壓であり、従つて島上に發生した低氣壓に比し其の示度の差が小であるから氣流の動きも少ないが、北部の空氣は比較的低温であるから氣壓は高くなつて居り、島上の低氣壓に比して差が大きいから島上の低氣壓は其の北方の高氣壓部より莫大量の空氣を補はれるのである。

ところが此の莫大量の空氣が島上さして流れ入るに際し、北半球に於ける氣流移動の原則によつて右に偏向し、低氣壓部の西方若しくは西北方から浸入し、其の方面に多量の雨を降らせる事になる。すると新たなる低壓部がもと發生して居た島上からは西方乃至西北方に生成する事となる。この現象を繰り返すの結果、低氣壓に暫次前進し、夏分恰かも北太平洋上に存する高氣壓の周邊を廻るやうにして日本列島に押し寄せて來るのである。

日射が原因で、低氣壓が發生するから之れを熱源低氣壓と稱して居る。多く五六月頃から八月・九月頃までに日本を襲ふ旋風がこれである。

□諸島の位置的價値

列強の太平洋發展策は頗る力癩が入れられて居るやうに見受けられる。英國は香港を始めとし、シドニー・バンクーバー・エスキモルト等を軍事並びに通商上の策源地とし、米國はサンフランシスコ・シヤトル・ホノルル・マニラ等を商港とし、サンヂエゴ・眞珠灣・グアム・オロンガポ等に海軍根據地を構へ、又兩國何れも海底電信・無線電信・貯炭所・貯水場等の施設に抜目が無い。

斯うした外國勢力の伸張に對し、我が南洋委任統治地の位置的優秀と、對抗策の容易とが首肯せられるのである。之等諸島は米國から飛石傳ひにフィリピン群島に至らんとする其の發展動脈の中間に侵入し、濠洲勢力とも赤道の一線を隔てるに過ぎないので、其の文武兩方面の價値は極めて大きいと云はねばならぬ。

第三 歐羅巴洲

一 總論

面積

□面積の小さい歐洲が大陸と認められる理由

ヨーロッパの面積は約六十四萬方里であるから、アジヤの面積二百九十萬方里に比して、其の四分の一にも足りない。斯うした小區域の地が、而もアジヤ大陸の一半島状をなして居るヨーロッパが、如何なる理由で大陸と認定せられるのであらうか。

其の理由としてヨーロッパで専ら通用する説は、

1 歐亞間には地質時代の最近に至るまで海が存在して居た。其の痕跡は今尙ほ明かにカスピ海の西方並びに北方に認められる。

2 北半球の大陸は皆南部に三大半島を有する。アジヤの南部にはアラビヤ・印度・印度支那の三半島があり、アメリカにはフロリダ・メキシコ・カリフォルニアの三大半島がある。ヨーロッパにも其の南部にイベリヤ・イタリヤ・バルカンの三大半島が突出して居るから大陸と認めざるを得ないと云ふのである。

けれども此の理由は薄弱であると思ふ。寧ろ久しく文化の様相を異にして來た事やヨーロッパ以上に小さい濠洲大陸が認められる事が間接の理由となつて居ると考へてはならないだらうか。

□出入の多い海岸線

此の大陸は水平的肢節に富んで居る。

ウラル山脈の北端附近に一點、ボルガ河口に一點、ビスカヤ灣奥のバヨンヌ Bayonne に一點、都合三點を結んで三角形をつくる。バルチック海の一部がこの三角形に喰ひ

こみはするが、大體に於てこれがヨーロッパの胴體部で、これ以外に突出するものは何れも肢節、即ち半島部を見なす事が出来る。

カニン半島とフィンランド半島とは白海を抱き、フィンランド半島から彎曲して南下するスカンデナヴィヤ半島はユトランド半島と共にバルチック海を圍み、大ブリテン島は南北に伸びて北海の西を限り、ブルターニュ半島とイベリヤ半島が相寄つてビスカヤ灣を決定し、バルカン半島とイベリヤ半島との間に延びた長靴狀のイタリア半島は西に西部地中海、東に東部地中海の灣入アドリヤ海を境界づけて居る。

斯様に水平的肢節に富むのはヨーロッパを構造する根本の骨格としての山脈が、もどく、一大半島に過ぎぬヨーロッパの各地方を横行して海上はるかまで伸び出して居る事も關係が多い。

□ヨーロッパの山系

アルプ山脈が中央ヨーロッパの南部に氷河を戴いて聳え、其の本脈の餘派はカルバ

チャ・トランスシルバニヤ・バルカンの三山脈をなし相連なつて巨大なるZ字形をなして居る。アルプスより支脈として分岐するものには、デナルアルプ山脈とアペニン山脈の二つがある。デナルアルプ山脈はアドリヤ海に沿つて東南に走り、ギリシヤに入つてピンドス山脈となり、多島海の島々に其の餘勢を見せつゝ小亞細亞半島のタウルス山脈に續いて居る。一方アペニン山脈はイタリア半島を構成し、ピンドス山脈の西方に於て徐々に方向を轉じつゝシシリー島に於ては全く東西の方向に變じ、ついでアフリカ大陸に上陸してアトラス山脈を起し、ジブラルタル海峡を潜つて再びヨーロッパに現はれイベリヤ半島東南のシエラネヴァダ山脈を構造し、餘勢は地中海西部のバレアル諸島に及んで居る。

以上はアルプ系統の山脈であるが、シエラネバダ山脈と共にイベリヤ半島の高原を包むピレネー山脈や、アルプスに平行して其の北側に連なるジュラ山脈、カルパチヤ山脈西方のボヘミヤ森、歐亞の境に幅廣く横はるウラル山脈、スカンデナヴィヤ半島

上の同名の山脈、及びこれが餘派としての大ブリタン北方の島山地とはアルプスに關係はないが、ヨーロッパとしては重要な山脈若しくは山地である。

□山脈と文化との關係

アルプ山脈は長さ約三八〇里、幅は三〇里乃至七〇里に及び、平均高度は二千三百米を越え、南北ヨーロッパの一大牆壁であるには相違ないが、其の中には自から著しい縦谷や横谷もあつて、想像する程に交通が困難と云ふ譯では無い。例へばナポレオン一世がオーストリアへの遠征に際し、車道を開いたシンブロン峠は今は世界最長の鐵道トンネル(約五里)を通じ、其の他サンゴタルド峠・モンヌニ・ブレンネルにそれぞれ大トンネルを開通し、且つ其の悉くが古來重要な南北連絡の通路であつた。

アペニン・カルパチヤ・チナルアルプ・バルカン等の山脈中にも勿論自然の交通路を存し、又多少のトンネル工事を施す事によつて容易に鐵道を通ずるを得て居る。

たゞピレネー山脈のみは今日の人力を以てして猶ほ征服し難く、イベリヤ高原をし

てヨーロッパ本部より隔絶せしめ、引いてイスパニヤ・ポルトガルをして第二流以下の國家に落伍せしめて居る。

□東西に續く大低地

ビスカヤ灣の沿岸からウラル・カスピ海の線まで約千里にわたる東西の大平野がある。假りにこれを東西大低地帯と名づけて置く。此の大低地は淺い海を挟んで大ブリタン島の南部及びスカンデナヴィヤ半島の東南部にも及び、ヨーロッパの氣候・産業・交通・都邑の發生の上に絶大の關係を持つて居る。ヨーロッパの強國と云ふ強國は殆んど此の低地帯に廣がりをおめ、之れを土臺として世界に覇を稱して居るのである。

又此の平原は河床の傾きの極めて緩慢なる多くの河川を涵養し、各の流路の殆んど全域が舟楫に使せられて居るばかりでなく、低地帯東部に於て見るやうに、バルチック海斜面と黒海斜面、バルチック海斜面と内陸流域部、北極海斜面と内陸流域斜面の

間の分水線が極めて低いので、相背馳する河流の間に僅少の勢力を加へることによつて容易に運河を通じ合つて居る。

左の低地部を流れる相隣る二つの川を結んで運河の設けられて居る例をあげる。

ドヴィナ川とボルガ川、ネヴァ川とボルガ河、ヂユナ川とドニエプル川、ウイスツラ川とドニエプル川、ウイスツラ川とオーデル川、オーデル川とエルベ川。

ベルリンの如きは運河によつて諸水系の舟楫をひと纏めにしてゐる「東西大低地」上の一大河港である。

□ダニユーヴ河とライン河

北海に注ぐライン河と、黒海に流れ込むダニユーヴ河とは纒かに百七八十米の高まりであるジュラ山脈の東北部で運河を通じ、黒海の船舶をして、大陸を斜断して北海に出ることが出来るやうになつて居る。

ライン河とダニユーヴ河は其の他の部分に於ても極めて接近し、ライン河の上流の

ポーデン湖の岸の北側には、僅かなる丘陵を隔て、ダニユーヴの本流並びに支流がバツリヤ平原の一部を展開して居る。

斯うした事柄はアジア大陸に於ては例の乏しい事で、北極海に注ぐオビ河の水源と、印度洋に入るインダス河の水源とは實に四百里以上の距りがあるのである。

氣候

□緯度の割合に暖かい歐洲

北海道は寒いと云ふけれど、同緯度の土地をヨーロッパに求めるとイタリヤの中部からフランスの南部に相當する。馴鹿に橈を曳かせる樺太のツンドラは、イギリスのロンドンよりは緯度に於て、二三度も南に偏して居る。

年平均氣温の等温線圖を検して見ると、北海道を通過する攝氏八度の線は、北海道よりも緯度を十六度(東京と臺灣の差より大である)だけ北に片寄る大ブリテン島の北端を過ぎて居り、樺太の北端を通過する攝氏零度の線は、樺太の北端よりも緯度を約

二十度も北へ偏したスカンディナヴィヤ半島北端の沖合を通過して居る。

斯様にヨーロッパが緯度の割合に非常に暖かであるのは、主としてメキシコ湾流 Gulf Stream の影響に基くのである。即ちヨーロッパ大陸の西海岸、並びに海上大小の島々は、湾流の爲めに暖められ、其の伴ふ水蒸氣の爲めに氣温が著しく上騰するのである。

であるからメキシコ湾流の影響の及び兼ねる大陸南部並びに東部の氣候は、西部海岸から見ると自づから別種のものとなる。即ち南部は冬期に雨が多く、夏分はアフリカの影響も加はつて暑熱を感じる地中海斜面獨特の氣候をあらはし、東部は夏暑く、冬極端に寒い大陸性氣候の特色を示し、十二月頃からは河湖は勿論海までも凍結してしまふ程の嚴寒に襲はれる。

□ヨーロッパの降水量

主としてメキシコ湾流によつて水蒸氣が伴ひこまれる爲め大西洋に面する山側の方

面、並びにアルプの高地などに潤澤で、之等を距たるに従つて少くなる傾向が見え、東南部及び東北部に於てはヨーロッパの最低限に達して居る。

年平均一千耗以上の部分を列挙すると、

アイルランド及び大ブリテンの西半、

イベリヤ半島の西北部、

ピレネー山脈の西部、特に其の山南の地、

アペニン山脈北部の西側、

チナルアルプ山脈のアドリヤ海側、

アルプ山脈とジユラ山脈附近、

カルパチヤ山脈の中部、特に其の西南斜面、

スカンディナヴィヤ半島の西岸並びに西南岸、

等である。

降雨の時期から云ふと大西洋沿岸地方は秋に雨が最も多い。これは太陽が南に去つて陸地が急に冷却するに反し、海は尙ほ夏と略同様の水蒸氣を供給するからであらう。東部から中部にかけては夏季低氣壓を生じ、海風を招き入れて降雨の機會を捕へる事が多い。地中海方面は西風の流行する冬季に最も多くの降雨がある。

産 業

□ヨーロッパの麥産地

小麥は其の性質沃土を選び、且つ發育期に稍々温潤である事を要し、成熟期には乾燥する事を欲する穀物である故に、フランス、ドイツの南部、ハンガリー盆地・ルーマニア平原・ソヴイェト聯邦南部の地域に廣く産し、又地中海式の氣候は小麥の生育に理想的であるからイタリア半島の東南並びにロンバルディア平原等に産出が多い。

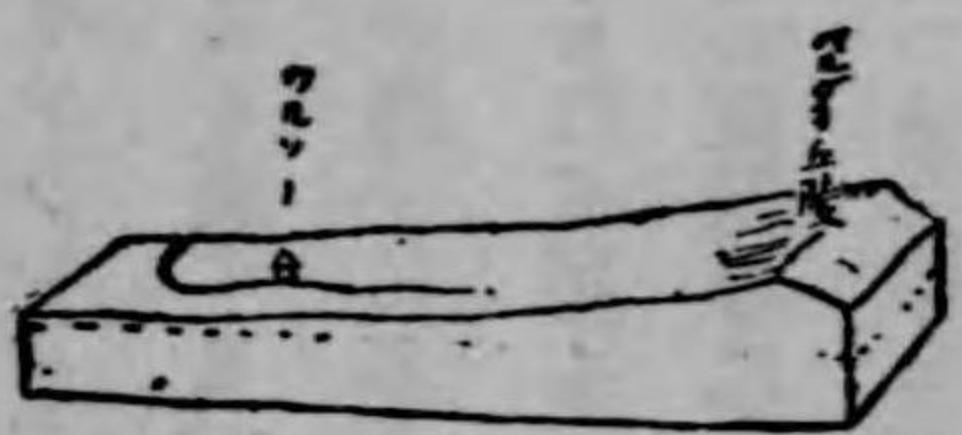
右のうちソヴイェト聯邦の南部とルーマニア平原を除くの外は、概ね人口の稠密地帯である爲めに、之れを商品として外邦に輸出するやうな事が甚だ乏しい。

ソヴイェト聯邦の南部は所謂ウクライナ地方で、ドニエプル河並びにラツグ河・ダニューヴ下流の流域は一面の黒土帯で、氣温も小麥の生産に適し、ヨーロッパの穀物倉の稱がある。積出期になるゴオデツサ・ニコラエフ(ラツグ河下流)・ガラツツ(ダニューヴ河下流)等からは、小麥満載の汽船がゼノア・マルセーユ・ロツテルダム・ハンブルグ等に向つて頻りに解纜する。

ビールやウイスキーの原料にする大麥はバワリヤ高原の上とか、スウエーデン・フィンランド等にも産し、ライ麥と稱する黒パンの原料になる一種の麥は寒地にも瘠地にも適するので、氷河に覆はれた北ドイツ平原から、ウラル山脈の麓に至る比較的廣い部分に多く産し、スラブ民族やポーランド人、ドイツ人等の下層階級の常食に供せられて居る。

□亞麻の二大産地

メキシコ灣流の影響を豊かに受けるアイルランドと、バルダイ丘陵の西方のラトヴ



第五十圖

イヤ・ロシアニヤ・ポーランド東部等に亞麻の生産が甚だ多い。
 バルダイ丘陵の西部は、メキシコ灣流から發生した水蒸氣が辛う
 じて到達する地域で、丘陵地の西側は東の斜面よりは雨量が稍々大
 である。殊に夏分は氣温が著しく昇り、時に降雨さへ伴ふので、亞
 麻の最後の發育に好影響を與へ、これを苧り取つて纖維を精製し、
 ポーランド西部、デンマーク、ベルギー等に輸出しリンネル其他
 の麻織を盛んにさせて居る。

メキシコ灣流の影響を最も豊富に受ける處と、最も尠なく受ける極端から極端のと
 ころに、同じ亞麻を産する事それ自身に既に興味を感ずる。

□甜菜と馬鈴薯

甜菜の産地は新地理書附圖第七圖のグラフに出て居る。これによると所謂「東西大
 低地帯」が其の主要生産地である事が知られる。

ナポレオン戦争の頃、イギリスに海外の砂糖産地を略奪されたフランスでは、砂糖
 を如何にして得るか、當面の急務であつた。そこでナポレオンの意志によつて北部フ
 ランスに砂糖大根としての甜菜を耕作せしめた事が此の事業の起原をなして居る。

今ではベルギー・オランダより東方ドイツ・ポーランド、ソヴイェト聯邦の南部等に
 も盛んに栽培せられて居る。ドイツ及びポーランド等の製糖業が振つて居るのは甜菜
 を原料とする結果である。

甜菜が比較的寒地の、而も過去の氷河に荒された角石原の平地にも適當するやうに
 馬鈴薯も亦略々同様の地域に、殆んど耕作の手續を要せずして生産される有利な農産
 物で、小麦に乏しい地方の住民に豊かな澱粉を與へるのみでなく、之れを原料として
 アルコールも製造せられ、今や盛んにドイツ・ソヴイェト聯邦の中部・西部等々工業用
 農作物として其の生産が勵まれて居る。

□葡萄と葡萄酒の生産地

葡萄は其の成熟期としての夏季に可成り温度がのぼる地中海式風土が最も其の生育條件に適合するやうである。又、根ざしが深くてよく水分を吸ひ上げる爲めに、柑橘類などでは成功し得ない山の斜面などにも盛んに栽培せられるから大西洋の濕潤な氣流を呼ぶ山脈・山地の斜面では、あまり北方に偏しない限り、よく葡萄園の開かれて居るのを見る。

最も盛んなのは南フランスやイタリア・ギリシヤ・イベリヤ半島の南岸・西岸等で、随つて之等の地方には葡萄酒・乾葡萄酒等の産が多い。葡萄酒醸造ではフランスが多年の經驗を積んで居る爲め獨特の技倆を發揮し、イタリア・イスパニヤ・アルジェリヤ(アフリカのフランス領)等から葡萄並びに其の粗製酒を輸入して上等のワインに再製して居る有様である。

有名なシャンペン酒は、一旦醱酵させた白葡萄酒に適量の砂糖を加へ、瓶詰として密栓を施し、栓を飛散せしめない爲めに絲か針金かで嚴重に結び、瓶の中で第二の醱

酵を起させたものである。飲用に際し、栓を抜く時、壯快なる音を發する。

□ヨーロッパの畜産

ヨーロッパ人の衣食住から見て、此の大陸に牛・羊・馬等の牧養が盛んであるべき事は想像するに難くは無い。

牛はデンマークの低濕砂丘地や、オランダの新開地ポルダー Polder に多く養はれ、スウイスではアルプス山上の氷河のすぐ下までの高原を巧みに利用して盛んに放牧が行はれて居る。そして何れもバター・チーズ等の畜産製造物を多量に生産して居るが、中でもデンマークのバター、オランダ・スウイスのチーズは世界的に名聲が高い。

羊はイギリスの北海斜面に多く飼育されて居る外、ダニユール中流のプスタ平原、ソヴィエト聯邦の東南部等に多いが各地の盛大なる毛織物等の需要を充すに足りないから、濠洲・アルゼンチン等から多量の羊毛を輸入して居る。

馬はドイツ・フランス・イギリス等に於て、乗馬・駄馬挽馬等の優良なるものを多く

産するが、頭數に於てはソヴイェト聯邦がヨーロッパ大陸の半ばを占めて居る、殊にユーラジャ大陸中の一大内陸流域の一部としてのボルガ河流域の牧馬は盛んなもので、體軀强健・且つ伶俐で、諸種の騎藝に慣れるコサツク馬の聲價は世界に高い。

ソヴイェト聯邦の東南部では牛の飼育も亦盛んに行はれ、カザン・キーエフ等には牛・馬皮の鞣皮等が發達し、又獸脂による石鹼製造業の盛大を來して居る。

□ヨーロッパの石炭産地

●ヨーロッパを貫いて東西に伸びた中央大低地帯及び其の附近には石炭の産出が甚だ多い。殊に此の低地帯の西方に大炭田が多い事は、其の部分の發展に著しい貢獻をして居る。左に主要炭田を列擧して之れが概説を試みたい。

1、**イングランド**、**北方諸炭田**、**ペンナイン**山脈の東側に**ダーラム**(**タイン**河下流の南方)炭田、**ヨークシャー**(**ハンバー**河の流域)炭田等があり、**マンチエスター**を中心とする**ランカシャー**炭田も出炭量が極めて莫大である。製鐵・製鋼・織布工業

等の燃料とせられる量が多い。

2、**南ウエールズ**炭田、良質の石炭を多量に産し、其の門戶**カーチフ**より輸出せられる石炭の量は世界に比類が無い。

3、**マース**河流域の炭田、フランスの東北部から、**ベルギー**の東南部を斜に流れ、**オランダ**に出て**ライン**本流に合するのが**マース**河である。此の中流域なる殊に**ベルギー**の部分に於て盛大な炭山が數多く開かれ、製鐵・硝子・織布等の工業を隆盛らしめて居る。

4、**ルール**炭田、**ルール**河は**ライン**高原から流れ出る**ライン**の支流である。其の北方の**リッペ**河との間に廣い豊富な炭田を有し、**エッセン**の鐵工業地、**バルメン**の織布(毛・綿)工業地、**クレーフ**エルトの絹機業地等を盛んに發展させて居る。染料・藥品等を製出する化學工業の原料としても其の石炭が盛んに使用されて居る。

5、**シレジャ**炭田、**オーデル**河上流から**ウイストラ**河の上流に及ぶ國際的大炭田で

其の炭量の豊富なことはルール炭田を遙かに凌駕すると信せられ、附近の製粉・製糖・織布工業を盛大ならしめて居ることが多大である。

交通

□ヨーロッパの鐵道網

高等小學地理書卷二の交通の章にヨーロッパ中央部の鐵道分布圖が載つて居る。アルプ山脈及び其の系統に屬する山脈の連互する部分並びにピレネー山脈以南等には所謂「鐵道網」の細かさが劣るが、東西大低地帯に屬する部分の細かさ、殊にベルギーよりイギリスの南部にかけての密度は驚くべき細かさである。

ヨーロッパ全體の鐵道線路總延長は實に二十五萬哩にも達し、東はアジャの鐵道系に連なり、近き將來に於ては印度並びにアフリカ南端にも直通を見んとして居る。長距離連絡に於て最も意義ある鐵道は、

○モスコフ・ワルソー・ベルリン・ケルン・パリイ・ポルドー・リスボン

を連ねる大陸縦走の國際的大鐵道であつて、我が國から急用で南米ブラジル、乃至アルゼンチン等に到るにはシベリヤ鐵道と此の鐵道によるのが最も近路である。

○ベルリン・ブラーグ・ウイーン・ブダペスト・ベルグラード・ソフィヤ・コンスタンチノーブル

○ケルン・ストラスブール・サンゴタルド・ミラン・ブリンヂシ

等の鐵道は中央部ヨーロッパと西南アジア及びエジプト等とを經濟的に結びつける重要鐵道であることは言ふまでも無い。

□アルプ山脈中の登山鐵道

ヨーロッパの大生産地帯に近く、又南歐の半熱帶性を呈せる海岸地方にも接近してゐるので、氷河を流すアルプの連峯は夏を中心に登山客・遊觀者が甚だ多い。

之等の成金(?)又は山岳愛好家をあてこんで、各地に登山鐵道の設けが多いが、就中氷河湖の傍にそゞり立つリギ山 Mt Rigi、ピラトゥス山 Mt Pilatus 等には模範的の登山

鐵道が架けられて居る。

登山鐵の發達と相まつて山の中腹に、或は山嶺に、外客招致の旅館・賣店等の設備が到る處に完備せられ、ユングフラウ岳の北麓インテルラーケンや、ルチェルン湖尻の同名の市等は夏季頗る繁昌して居る。

教科書中の挿繪は絶壁の間を走つて居るアプト式の電氣機關車を示したもので、勾配は平均二十分の一位である。

□重要海港と準海港

ネーブルス・ゼノア・マルセーユ・オデッサ・コペンハーゲン・コンスタンチノーブル等の港市は直接海に面する貿易港であるが、より以上繁盛な商港はロンドン・ハンブルグ・アンベルス等に其の例を見るやうに、洋々たる大河(流路は短かいにしても)の下流に位する標式的の河港である。

いつたいヨーロッパ東西大低地帯の西部、北海沿岸地帯は徐々に沈降して行く傾向

がある。それで、テムス・エルベ・シエルト・ウエーゼル・セーヌ等の河口は三角江状に開き、どこまでが河か、どこから海か不明であること云つた風な海岸地形の特相を示して居る。

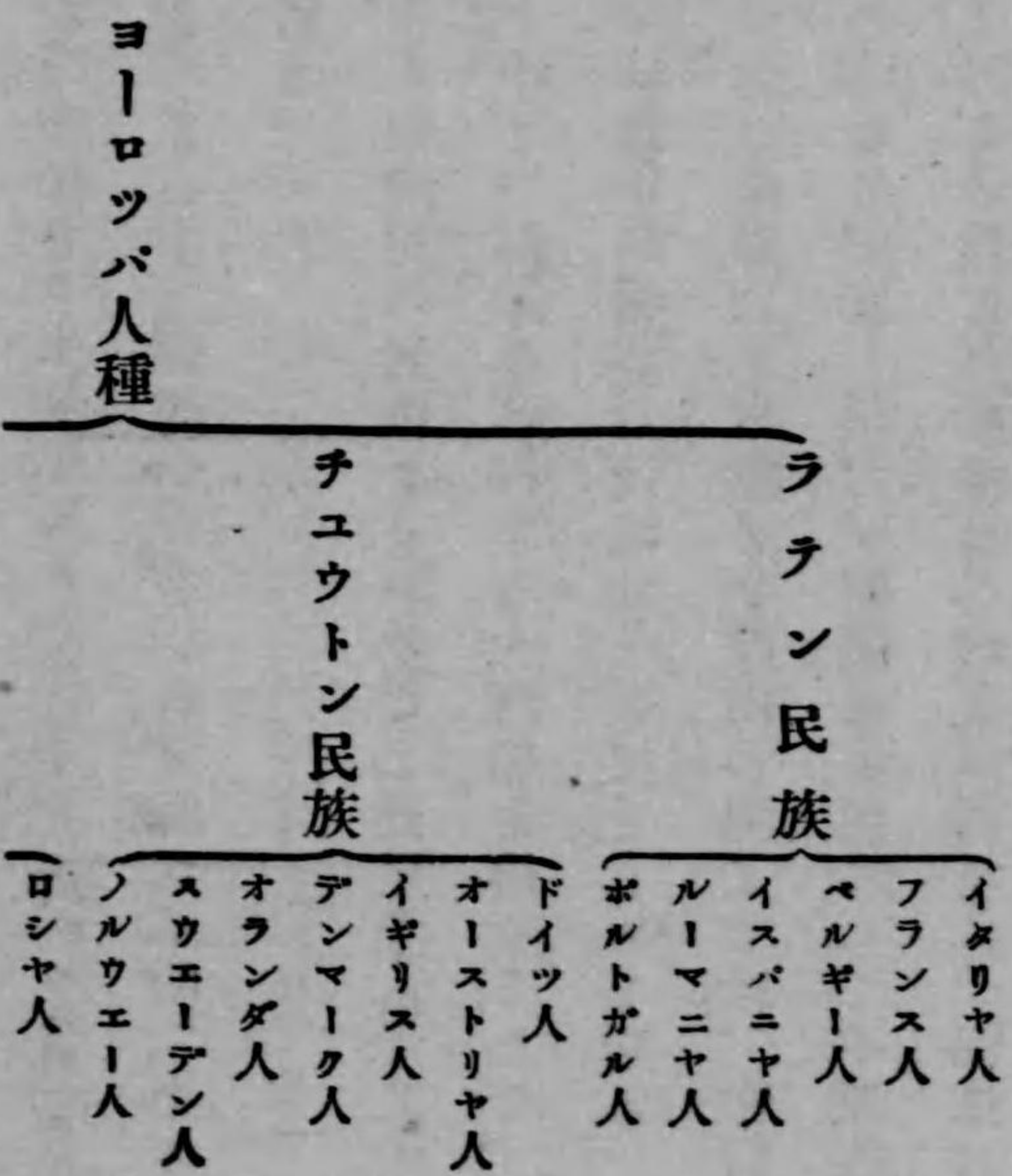
斯うした河川の河口より溯ること五里・十里・二十里と云つた様な可成り平原部のま^{つたゞ}中まで海洋を航行する大汽船を導きこんで、そこに「準海港」とも稱すべき前記ロンドン以下の繁盛な商埠地を發展せしめて居る。

いつたい海岸にある港と平原内の港とでは、物資吞吐の上から見て後者を遙かに勝れりとするのである。たゞ問題は如何にして平原内まで海洋を航行する大船を導き込むかである。然るに北海沿岸附近の河港は、河床に土砂が堆積する分量は比較的少なく、其の三角江より續く河流が、大船を寄泊せしめるに都合よく出來て居る。ロンドン・ハンブルグ以下の商港の繁榮の根柢は、斯うした自然事象の中に見出されるところだ。

住民

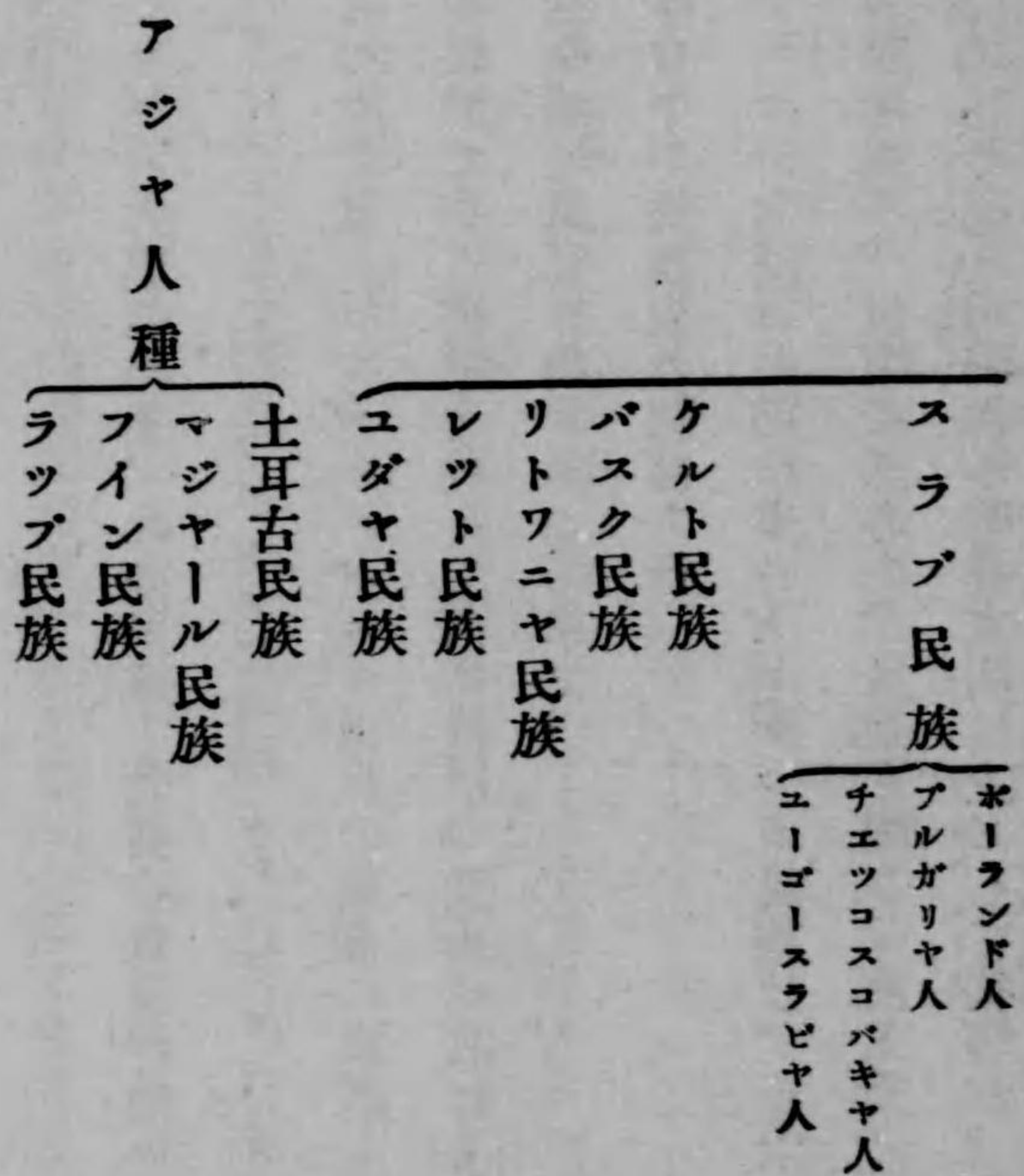
□ヨーロッパの人種

ヨーロッパの人種を表解すると次の通りである。



□ラテン民族について

ラテン民族はヨーロッパの南部に多く、概ね舊教を奉じて居る。南ヨーロッパの風



光の明媚と氣候の溫暖とは、快活・浮華にして感情に走り易い國民性を養ひ、文藝・美術には長するが、政治上・經濟上の發展は、チュートン民族に比して稍々劣る氣味がある。

ヨーロッパ大戦の結果、此の民族の勃興の氣運が向いて來たやうである。即ちアルサス・ローレンの二州はフランスに奪回され、チロル・イストリヤ半島はイタリヤの領土となつた。又トランスシルバニア山脈の東部に跼踏して居たルーマニヤは、奥太利勢力の壊滅と共に山脈を越えて西に伸び、又東と北にも其の領土を擴張したのでラテン民族全體の意氣が頗る揚つて來た。

□チュウトン民族の勤儉力行

ヨーロッパ大陸の中部に多いチュウトン民族は、十六・七世紀以來新教に改宗した。性質着實剛健で、教育に熱心し、實業を勵み、商工業の進歩・植民・航海の發展は遙かに他の民族を凌ぎ、現代の物質文明は主として彼等が、先進民族の長所を學ぶことに

よつて生み出したものと云ひ得る。

大戦後同民族のイギリスが隆々として榮えて來たのに反し、ドイツはアルサス・ローレンをフランスに割き、ザール河流域の大炭田をもフランスに讓與し、東境附近の地を新興のポーランドに與へ、其の他の小地域をベルギー・デンマーク・リトワニヤ・チエッコスロバキヤ等に割き、外にあつてはアフリカ・大洋洲等の領地其の他の權利を拋棄せしめられ、尙ほ莫大な賠償を負擔させられたので其の國力の失墜は見るもいたゞしい程である。

けれども其の國土は尙ほ三萬方に餘り、力行あく事を知らぬ五千八百萬の國民を有するドイツは、依然として世界の一等國たるの素質を失はず、將來必ずや國力充實して經濟界に學術に大に爲す處があるものと觀られて居る。

□スラブ民族の頑強性

スラブ民族はヨーロッパの東部に多く、ロシヤ人の大部分が其の代表者である。

性質は一般に頑強粗野で、文化は他の二大民族に劣るが、人口の増加率が多く、數に於ては三大民族中の首位に居る。彼等の多數を統一した舊ロシアが世界に畏敬せられたのは、一には其の民族が一億にも越えて居た事と、其の豊富な生産地域が約三十四萬方里にも達して居たことに多く基因するやうであつた。

今や極端なる民主思想のあらはれとしての勞農國家が形成せられ、民族の一人一人が平等の生活を享受する事を理想として強い歩みをつゞけて居る。

區分

□改造後のヨーロッパ

王國 イギリス・イタリア・オランダ・ベルギー・スウェーデン・ノルウエー・デンマーク・ユーゴスラヴィヤ・イスパニヤ・ルーマニヤ・ブルガリヤ・アルバニヤ・ハンガリー

大公國及大公國 ルクセンブルグ大公國・リヒテンシュタイン公國・モナコ公國

共和國

フランス・ドイツ聯邦・ソヴェト聯邦・ポーランド・オーストリア・チエツコスロヴァキヤ・スイス・ポルトガル・ギリシヤ・フィンランド・トルコ・エストニヤ・ラトヴィヤ・リトワニヤ・アンドラ・サンマリノ

自由市 ダンチヒ

□ヨーロッパの緩衝國

ヨーロッパの小國は、其の存在の位置に一種の共通意味を持つて居る。強國と強國との間にあつて、兩勢力の衝突を緩和する作用をなして居るのである。例へばオランダ・ベルギー・ルクセンブルグ・スイスの如きものがそれで、之れを緩衝國と稱する。モナコやアンドラや、リヒテンシュタインも同様の意味を有し、舊ロシアより獨立したエストニヤ・ラトヴィヤ・リトワニヤ等も亦意味なしとしない。

二 東部歐羅巴

地勢・産業

□東部ヨーロッパの四斜面

ウラル・コーカサス・カルパチヤ・スカンデナヴィヤの四山脈で大體地域を限られた東部ヨーロッパは、白海を伴ふ北極海と、カスピ海・黒海・バルチック海の四個の斜面に分ち得る。

即ちベチョラ・ドヴィナの二川は北極海に、ボルガ河はカスピ海に、ドン・ドニエプル・ドニエストルの諸川は黒海に、ネヴァ・ヂユナ・ニーメン・ウイスツラ等の河川はバルチック海に注いで居る。

之等の流域を分つ主要山地は東經三十三度、西經五十八度附近を中心に横はるバルダイ丘陵で、氷河湖の多いフィンランドの臺地も北極海並びにバルチック海の斜面を分つ重要な高まりとなつて居る。

□四斜面と其の代表的生産業

ドヴィナ・ベチョラの兩流域は針葉樹林に富み、木材並びにバルブの産出が近年旺んになった。又フィンランド高原上にも此の森林は延びて、同様の事業を發展させて居る。

ボルガ河の流域は牧畜・岩鹽採掘・皮革工業等が盛大で、カザン・サマラ等は畜産等の爲めに發達して居る。

黒海斜面は所謂黒土帯の主要部分で、其の氣候風土が小麥の生産に適し、キーエフ・ハルコフ・エカテリノスラフ・オデッサ等を發育せしめ、ヨーロッパの穀物倉として知られて居る。

バルチック海斜面に屬する部分は氣候が濕潤で、最も亞麻の栽培に適し、森林の伐採せられて耕地と化した所が多く、ブスコフ・リガ・ワルソー等で集散せられる亞麻の量は多大である。

斯うして周圍にそれぞれ異つた生産地を控えたモスコー及びニジニノヴゴロッド等

が、商業地として重きをなして来るのは當然の事である。

□ウラル山脈中の貴金屬

ウラル山脈は古い褶曲地層から成つて居る低い山嶺で、其の中央より南に白金・金・銀等の貴金屬を産する事が多く、白金の産額は實に世界生産の九割を占めて居る。

ボルガ河流域のベルム、オビ河流域のエカテリンブルグはそれぞれ鑛業の中心地で其の附近に石炭をも産出する事は金屬精鍊に極めて好都合な譯である。

尙ほルビー・トツバーズ等の寶石の産も多い。

沿革

□ロマノフ家ロシアの發展

久しくロシア平原を支配してゐた蒙古の主權が傾いて、ロシアの建國者ルーリツクの遠孫ミカエルロマノフが露國をまとめた頃には、西部の文明進歩に比して此の地方はまだ未開状態に置かれて居た。

ついでペートル大帝の代となり、内政を改革すること共にトルコ並びにスウェーデンより沿海地方を奪ひ、今のレニングラードの如きも此の時に建設せられ、從來頼りに手をのばしつゝあつたシベリヤ經營も確實に遠くカムチャツカ半島にまで勢力を扶殖する事が出来た。

ペートル大帝の後継者は女帝カタリナ二世であつた。隣國ポーランドの衰微に乗じ、プロシヤ・オーストリアと協力して之れを分割領有し、シベリヤのイルクーツクに航海學校を設立して極東方面の經營の準備を整へる等、著々國家の隆興策を圖つていつた。

領土的擴張は其の後機回ある毎にバルカン半島、並びに中央アジアに對して行はれ最後に滿洲、朝鮮方面にまで手を伸ばして之れに勢力を扶殖せんと試みたので、遂に我が國は起つて之れと交戦し、其の東方侵略の鋭鋒を挫じいて露國內一部の人士に國家改造の急務を思はしめるに至つた。

□世界大戦中の革命と舊勢力の瓦解

ロシアは英・佛と協同してドイツ・オーストリアを東方より攻撃するの部署についた。もと／＼ロシアの大戦参加の動機はバルカン半島に散住するスラブ人を聲援してあわよくば半島の一角に領土を求めんとするにあつた事は明かである。然るに其の攻撃は遅々として進捗しなかつたばかりか、逆にドイツ軍の爲めに戦線を著しく東に彎曲せしめられ、漸くにしてロシア内部の結束の緩む時が来た。

一九一七年(大正六年)三月今のレニングラードの労働者の同盟罷工が起つた。之れに兵士も参加し革命的暴動となり、街上に幾多の貴族・官吏・普通人民等が不意に虐殺せられ、ロジヤンコ・ルゾフ等によつて労働者・兵士を中堅とする假政府が組織されるに至つた。

皇帝ニコラス二世は退位を宣言するの餘儀なきに陥つた。やがて所謂過激主義者レニン(ユダヤ人)等が政權を握り、内治に根本的改造を施す爲めに先づ獨・塊と單獨講話を敢てし、私有財産權を廢業して富豪・貴族の有する悉くの資産を國家に沒收し、苟くも國民である以上、上下貴賤の區別なくすべて勞役に服せしめて生活の資を國家より給與するの方策を樹立した。

□フィンランド・ポーランド等の獨立

スラブ人の國家が潰滅して其の所謂過激主義(Bolshevism)の人民國家が基礎を固めるまでに、舊露國に屬して居たアジア人系統のフィンランド民族と、ロシアによつて強壓的に分割せられた西方スラブ族としてのポーランド民族は、獨立運動を起して其の目的を貫徹した。

南北二箇國の獨立に誘導せられてバルチック海岸に於ける非スラブ人の地域リトワニヤ・ラトヴィヤ・エストニア三國も亦獨立を熱望し、英・佛等の援助に力を得て其の目的を到達した。

之等の政治的區劃の變動は、ヴェルサイユ會議に於て略々決定せられたのである。

スラブ民族は、今や純潔にスラブ民族それ自身の民族國家を建設したのであるから形式からは國土の瓦解とも縮少とも見られやうが、レニン主義を奉ずる所謂ソヴイエト政府に取つては大した苦痛ではなさうにも考へられる。たゞ其の主義の宣傳の爲めに目下頻りに努力して居るやうである。

都 邑

□レニングラードに就て

教科書の挿繪は其のネブスキープロスベクト街を示したもので、石造のビルディングが巍然として大通りを壓して居る。

レニングラードがソヴイエト聯邦中商埠地として價值があるのはフィンランド灣の灣入によつて大平原の中心に最も近く位すると云ふ事實に立脚する。フィンランド灣の低まりは、其のまゝで陸上に於ても低地帯を構成し、ボルガ流の中心市場にして且つ内地の大商業地としてのモスコフ附近に及び、自然水路及び運河によつて相連絡す

るを得て居る。

たゞネヴァ河の河口に位して土砂の堆積が著しい事と、もともと灣奥の淺海に築かれた二百年以前の港灣が基礎になつて居る爲めに、其の前方のクロンスタットを前港としてモルスコイと稱する海中運河によつてのみ大船を近づけるの不便がある。

□モスコフの價值

モスコフはボルガ河の一支流モスコフ河にまたがるソヴイエト聯邦の首府で、繁盛なる河港をなし、カスピ海、並びにウラルの鑛業地域との間に舟楫の便があり、東方ニジニノブゴロッドまで船を廻せば自然水路並びに運河によつてレニングラードとも自由に交通の出来る位置にある。

近時中央アジアに産する綿と、モスコフ南方のツラ炭田の石炭とを用ゐて紡績工業も盛んに營まれるやうになつた。しかし何よりもモスコフをして價值あらしめるものは、ユーラシア大陸に擴がる一大内陸流域の一隅にあつて、地中海・バルチック海・

北極海斜面に近接して居ると云ふ自然的地理的位置の優秀である。此の事あるによつてモスコフは従來屈指の商業地として知られ、目下ソヴィエト政府の首府として政治上の中點にもなつて居るのである。

□オデツサの使命

バルチック海の東南岸より黒海の西北岸まで極めて低平なる原野が続いて居る。そしてバルチック海へはウイスマラ・ニーメン等の諸川が流れ、之れ等に相背馳してドニエプル・ラツグ・ドニエストル等の河流が黒海に注いで居るが、兩斜面の分水界附近には排水方向の定まらぬ沼澤地が廣く横はつて居る程の低平振りである。

オデツサは實に此の低地帯をヒンテルランドとして活動して居る港市で、キエフ以南の黒土帯に産する小麥に就ては、久しく其の積出港として名聲を博し來つた。其の港市の設けられて居る地形上の位置は、殊更に河口に沿はないで、ドニエストル・ラツグ兩河間の丘陵地の海に終る部分にある事を兒童に注意づけ度い。

□フィンランドの自然と文化

フィンランド程湖の多い國はあるまい。「千湖の國」The State of Thousand Lakesと呼ばれて居るが、其實二千以上の湖で掩はれて居る。

之等の湖沼は花崗岩の臺地上に氷河の侵蝕によつて形成せられたもので、湖水と湖水との間には運河を設け、湖水の周圍に繁茂する森林を伐採し、臺地の斜面に湖水を導いて水力電氣を營み、伐採木材を原料として頻りにバルブ製造・製紙・製材等の工業を行つて居る。

首府のヘルシンクフォールスはフィンランド灣岸の港市で、其の西方のオーボと共に此の國の主要なる門戸をなして居る。

□位置の優秀な新興國ポーランド

ポーランドはヨーロッパ東西大低地帯の中央に近く位し、稍々局部的に見てバルチック海・黒海にわたる斜の低地帯の重要部を占め、鐵道交通に於てもモスコフ・リスボン

ンを連ねる一大幹線と、之れに交叉するダンチヒ・オデッサ間の幹線、ウイーン・レニングラード間の幹線等を有し、水路に於ては自然並びに人工の通路によつてウイスマラ・ドニエプル兩大河の交通を集約して居る。

斯うした長所は過去に於てはポーランド民族の上に苦難として賦課せられた。即ち東方スラブ族や、チュートン民族の野心の對象地となり、百年以上も國破れて山河のみある悲惨な経験を嘗め來つた。

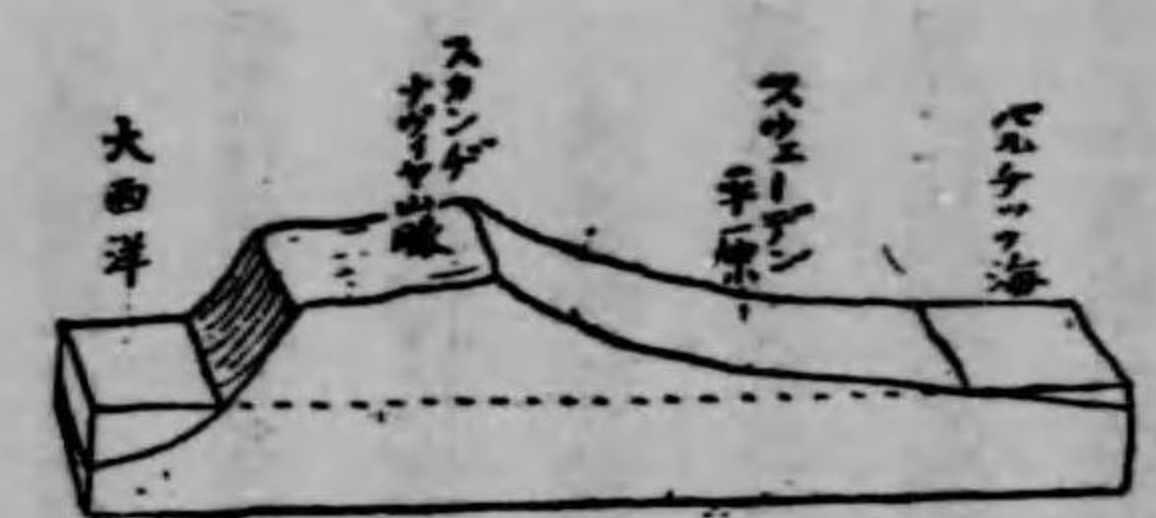
平原國には今や勃興の時が來た。首府ワルソーの商業市で同時時にウイスマラ河の盛んな河港を兼ねた都會や、其の西南のリンネル並びに綿絲工業地の發展は、此の國の地理的位置の優秀と、其の西南の炭田の利用とにまつて、愈々捲土重來の氣力と勢力とを示しつつある。

三 瑞典・諾威・丁抹

瑞典・諾威

□スカンヂナヴィヤ半島の地形

スカンヂナヴィヤ山脈は、半島上を大西洋岸に迫りつゝ南下して居る。それで大西洋岸は殆んど到る處絶壁をなして居るが、東方スウェーデンの方面は緩傾斜面をなし、バルチック海との間に廣い海岸平野を形成して居る。



第六十圖

スカンヂナヴィヤ山脈は又過去に多量の氷河を流し、今尙ほ山脈の南部にあるカルヘビグ山(二五六〇米)には巨大な氷河を懸けて居る。それで、半島の到る處に氷河地形を残し、此の地方の人生に多大の影響を及ぼして居る。ノルウェーに多い絶壁間に長く喰

い入つた峽灣や、スウェーデンの山際に多い細長い氷河湖等がそれである。峽灣中の最も代表的なるはガルヘビグ山西方のソグネ峽灣 Sogne Fiord で、其の長さは實に四十里に達して居る。氷河の作用も亦偉大なりと謂ふべきである。

□自然に基く兩國生活様式の相違

ノルウェーには、其の山脈上の高原部の外は平地らしい平地は殆んど無いから、よし空気が濕潤で気温が稍高いにしても農業を営む事は望まれない。幸にして其の多くの峡灣には魚族が群集し、殊にロフォデン群島と半島との間の海面の鱈・鯷・鯨等の群集は想像も及ばぬ程の盛況で、スカンデナヴィヤ山脈中の森林を伐採して漁船を造り、沿海に活動して漁獲に勵む壯快な生産業が自然に盛大となつた。

水産物の捕獲に堪能になつたノルウェー人は、何時しか海に馴れ、世界の海洋に貿易業者として活動する民族性を形成し、其の所有する船舶、特に帆船の多い事では世界に比類が無いまでの發展をなして居る。

一方平原國としてのスウェーデンは、麥類・甜菜・畜産等の農牧國として早くから發達したが、氣候上に於てノルウェー程恵まれて居ない爲めに、ヨリ以上の穀物生産地として發展する望みが少ない。只寒氣にもめげぬ針葉樹林が中部 北の平原地に廣く

分布するので、之れを伐採して製材・マッチ製造・バルブ工業等が軌近に著しく發達して來た。

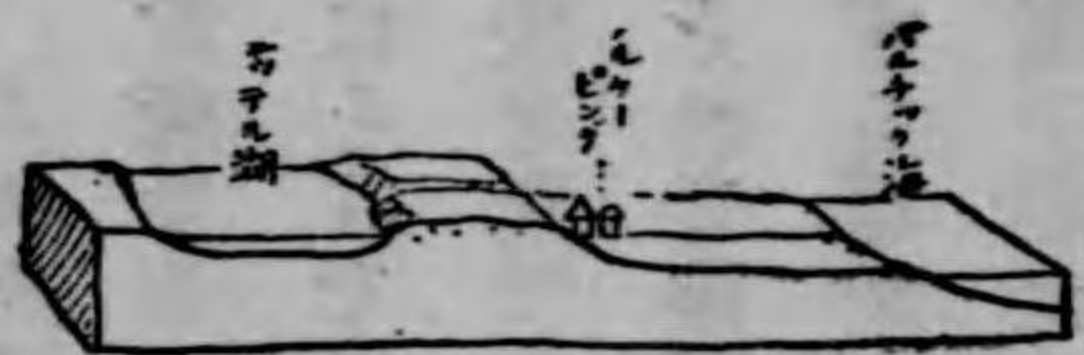
□ノルケーピングの製鐵業

ノルケーピング *Norköping* はストックホルムの西南にある製鐵・造船等で名高いスウェーデンの工業市である。

第十 第七 圖
ノルケーピングの西方に氷河の堆石によつて湛へられたウエツテルの湖(海拔八十八米ばかり)がある。此の湖水の南北に鐵鑛の産地があるが、それよりも此の湖から流れ出る水の落差を利用して電流を起し製鐵其の他の工業に利用して居るのである。

スウェーデンの最も盛んな鐵山は北方のエリヴアラ附近にある。此

處の鐵が夏分は海路、其の他の時期は主として鐵道で送られてノルケーピングに向ふが、其の一部は國境を越してノルウェーのナルヴィック港に出で、其處からドイツの



ルール炭田地方に送り出されて居る。

□オスロに就て

スカゲラツク海峡に面して開口するクリスチャニヤ峡灣の奥に位するノルウエーの首府である。峡灣の奥には此の地方としての大河が流れこんで居さうに思へるが、實はそうでは無くて、ローガン川 Loggan と稱する此の國第一の大河は、オスロと低い丘陵を距てた東方を灌漑し、クリスチャニヤ峡灣外に排水して居る。

それで港其のものは非常に理想的で、ヒンテルランドとして右のローガン河流域を有するばかりでなく、其の東方スウェーデン南部の農牧地の爲めにも門戸をなし、又山脈を越えて漁業の一中心地ベルゲンとも鐵道を通じて居る。

□バルト海の要津ストツクホルム

古代の氷河によつて形成せられたメーラル湖と、バルチック海岸の一灣入との接點に立ち、雙方より通する多くの水路にまたがった商工市として活躍するスウェーデン

の首府である。

其の大體の位置が、可成りバルチック海中に突出する半島狀部の尖端に近いこと云ふ事も、此の内海の航通線の要路にあたる事は自然の勢で、フィンランドのオーボ・ヘルシングフォールス・ラトヴィヤのリガ・リバウ等の諸港との間に頻りに定期汽船を通じ、貿易が甚だ盛んで造船業も從つて榮えて居る。

「北方のベニス」と稱せられる程の風光明媚な水郷で、市街の清楚なこともヘルシングホルス・オスロ等と共に世界に比類が無い。

丁 抹

□デンマークの自然と文化

デンマークはユトランド半島と、ゼーランド・フエーネン等の群島部とから成り、スウェーデンと共にバルチック海の口を扼する要衝地となつて居る。其の地形は北ドイツ平原の續きであるから低平で、海拔百米を越す處は僅かの部分であるに過ぎな

西海岸は卓越西風の爲めに砂丘に掩はれ、其の他の部分も古代の氷河の襲ふ處となつた爲めに地味が疲せて居る。

斯うした自然の地域に住居するデンマーク人の性質が甚だ勤儉である事、法律による土地所有の制限、學理の周到なる應用とは、斯る風土を化して生産的に新たなる價値を有せしめ、住民が協同的に行ふ酪農等の發達は世界の驚異の焦點となり、乳牛の頭數に於ては我が國に匹敵し、穀物・馬鈴薯・甜菜等の生産が極めて多い。

□コペンハーゲンに就て

丁抹の首府コペンハーゲンはズンド海峡に面するゼーランド島上に位し、バルチック海と外洋との間を取り結ぶ中繼港として繁榮して居る。其のヒンテルランドは低原國丁抹全部は云ふまでもなく、スウェーデンの南部も亦一部は此の港を門戸として居る有様である。

港の設備を見ると市街の一部が營まれて居るアマゲル島との間の海峡を内港とし、之れを基準としてズンド海峡に外港が整へられて居る。港内は水深が三十呎にも及ぶので、ごの様な大船も寄泊する事が出来る。

コペンハーゲンに與へられた最大の打撃はキール運河の開鑿であつた。之れによつて北海・バルチック海を航行する船舶が、一隻にてもコペンハーゲン寄港を避けるやうになれば、それだけコペンハーゲンの繁榮に影響する譯である。

□アイスランド自治國

面積六千七百万方里、人口約九萬のアイスランド島は、世界大戰後デンマークより獨立して自治國となつたが、デンマーク國王タリヌスチャン十世を戴いて、別に議會を持つて居る。

此の地は大西洋海底火山脈の北端に噴出した火山の集合より成るもので、ヘクラ山が殊に著はれ、また有名な間歇温泉がある。

けれども緯度が北に偏して居る事と、グリーンランド寒流が近くを流れて居るために氣候は寒冷で、舊火山の上には殆んど悉く氷河を懸けて居る有様である。島の西南の不凍港ライキヤビク附近のみ、僅かに農牧業に適する。

近海は魚族・海獣の富源を控へ、海事に堪能なチュートン系統の島民の漁船は南方から遠洋漁業に來泊する英・佛の漁船と共に、盛んに漁獲に従事して居る。

四 獨逸

位置・面積・人口

□ドイツの位置

アルプ山脈の北に沿つて擴がるパワリヤ高原の北方、低山性の丘陵を多く伴ふ所謂「中帶山脈」の北に、ヨーロッパ東西大低地帯の一部をなす北ドイツ平原がある。これぞドイツ人の住ふ本據で、ポーランドの處で述べたと同じやうに、地形上の位置の優

秀を過分に有して居るので其の發展時には非常なる發展を見るが、一旦衰頹氣味になると其の勢力の倒壊も亦極めて速かな地域を占有して居る。

其の東方からはスラブ民族の絶えざる進出の憂へがあり、ラテン民族はライン中流下流より進んでドイツ平原に勢力を扶植せんとして機會を狙つて居た。

バルチック海並びに北海の沿岸を足場として世界の海上に雄飛しよう云ふと「どこいさうは參らぬ」とイギリスが嚴然として控えて居る。

そこで一方の血路を見つけたのがエルベ河の上流からダニューブ上・中流を経てバルカン半島に出で西南アジアを経て英領インドを脅かさんとする苦肉策であつた。

さうした無理な策略を用ゐなければならなかつた程ドイツと云ふものが不安定な、「大低地帯」の中央と云つた様な漠然たる位置を今尙は有して居るのである。

□ドイツの面積と人口

大戦前にはドイツの面積は三萬五千方里、人口は六千八百萬に及んだが大戦終了後

ヴェルサイユ講和會議の結果フランスにアルサス・ローレン二州を割き、ベルギーにモレネ・オイペン・マルメデイを與へ、新興國ポーランドの建設の爲めに西プロシヤとポーゼン二州を割き、東プロシヤの北部メーメル地方はリトワニヤ共和國の一部に編入する爲めに聯合國側に譲つた。

それで、ドイツの面積は三萬方に減少し、人口は五千五百萬に落ちたが、イタリヤ王國の面積一萬八千方里に比して一・八倍に相當し、人口に於ても尙ほ一・五倍の多數を擁して居るので、其の奮闘如何によつては、舊勢力を挽回する事もさまで困難な事では無からう。

沿革

□統一主義から帝國主義へ

ドイツは久しく多數の小邦に分裂して統一する處が無かつた。小國分立の如何に惨めなものであるかを體驗したナポレオン戦争後に、ドイツ民族の間に漸く一民族一國

家を理想とする思潮が濃厚になつて來た。

一八六六年(慶應三年)オーストリヤと戦つて之れに克ち、マイン川(ラインの支流)以下のドイツ聯邦形成に成功したプロシヤは、更に進んで西南ドイツ人をもドイツ聯邦に加盟せしめるの機會の到來するのを待つて居た。

折しもルクセンブルグ買収問題でプロシヤはフランスと事を構へ、一八七〇年戦端が開け、非常なる勢でフランスに侵入したプロシヤを盟主とするドイツの聯合軍は、セダンを攻撃してナポレオン三世を軍門に降らしめ、パリ攻圍に成功してフランスをして遂に屈服せしめると共に、アルサス・ローレン二州を割取して土地を西南に擴げ、パフリヤ・ウウルタンベルヒ・バーデン等の西南ドイツ諸國の信頼を強くし、ドイツ帝國の組織が完成し、時局の最功勞者としてのプロシヤ王ウイヘルム一世がドイツ皇帝に即位したのである。

處がドイツ帝國のより以上の發展には海外に植民地を得る事が急務である事を思

ひ、種々苦心の末西南アジア並びに極東地方・アフリカ等に發展の地盤を獲得したが、更に今一息で英米の勢力を凌駕せんとする處で世界大戰の幕が切つて落された。

□大戰後のドイツの疲弊と復興の曙光

ヴェルサイユ會議でドイツに關して決定された重要案件のうち、領土以外に關するものは次の通りである。

- 1、陸軍は十萬人以内とせられ、海軍の主力としては戰艦六隻・輕巡洋艦六隻とせられた。
 - 2、商船にして千六百噸以上のもの全部、千噸以上千六百噸未滿のもの二分の一、其の他を讓與したので商船を多く失つた。
 - 3、ライン河右岸五十軒の地域に於ける軍事的設備が禁せられた。
ドイツが戰爭の爲めに被つた損害としては、
- 1、戰費を消失した事は莫大で、國債八百億圓を算するに至つた。

2、大戰中の戰死者約二百萬人に達した。

3、大戰中食糧の缺乏の爲めに、休戦前に於て約九十萬人の餓死者を出したが、休戦後の救濟事業も通一の努力では無かつた。

從來の帝國主義・軍國主義に代るに、社會主義者を中堅とする共和政治が行はれるやうになつた戦後のドイツは、經濟方面の事は勞働委員をして取扱はしめた結果、勞働能率が大いに減少し、官業の収入は減少し、私設會社の營業成績も悪くなつたと言はれて居る。

けれども今やドイツ民族は眞劍の努力にたちかへつたやうである。平和克復後數年ならずして既に鐵製品・毛織物・コールド染料等の莫大量を我が國に輸送し、甚だしい例は、日本人専用の桐の下駄までどこでどう研究したのか澤山に製造して横濱・神戸に送りつけて居る實情に鑑みても、ドイツ民族の底力が解るやうに思ふ。

生死の巷にさまよひ、幾多の試練を経験し來つたドイツ人は、將來或は軍國的には

何等の發展を爲さぬであらうと思はれるが、學術並びに經濟界に於ては從來のドイツ以上のドイツとして世界に押しも押されぬ様になるのでは無からうか。

地勢

□中帶山脈以南のドイツ

ウエルテンベルヒからバワリヤにかけて西南より東北に續くジュラ山脈、及び之れと直交するボヘミヤ森、その延長としてのチューリングゲン森、チエツコスロバキヤとの間に横はるリーゼン・エルツ等の山脈を總稱して「中帶山脈」Mittelgebirge と呼んで居る。バワリヤ高原や其の北隣のライン高原は、中帶山脈中に閉ぢこめられて居る海拔二百米乃至四百米ばかりの廣い高まりである。

斯うした小起伏の存在が、小國分立の根本原因であつた事も考察せられる。

此の地域を流れる河流は、ライン及び其の支流マインと、ジュラ山脈の東へ流れるダニューヴと、ライン及びウエーゼル兩河の上流等であるが、スイスのバーゼル附

近から、繁盛なる河港市ケルンに到るまでのライン河に就て多少地形的に説明を添へて置き度い。

ジュラ山脈中に著しい横谷を造つてバーゼルに流れ出たライン河は、以下マインツまで約七十里餘の間は比較的まつすぐに流れ去つて居る。殊に此のうちで、ローレン州の東北の角あたりまでは殆んど一直線をなした廣い谷合を流れて居る。

此の部分は有名なライン地溝帯であつて、斷層によつて陥落して生じたものである。それで河の兩側には可成り急峻な黒森(東)とフォーゲーゼン山脈(西)を生じ、ライン中流部とフランス南部のローヌ溪谷地との交通に便じて居る。

マインツでマイン河を合したライン本流は、以下ケルンまで約四十五里の間、小山脈及び高原を穿つて流れ、所謂「ライン峽谷」を形成して居る。けれども小汽船はよく之れを溯り、前記のバーゼル(スイス)まで達する事が出来る。

□北ドイツ平原と氷河遺址



第十八圖

北緯五十一度線の北方は、ハルツ山脈を除けば悉く北ドイツ平原である。處が此の平原は不思議にもバルチック海岸に近く五六十米乃至百米内外の廣い丘陵地がある。其の部分の河流を精しい地圖で調べて見ると、北方より南方に流れるものがある。ベルリンを貫流するスプレー河の支流ハーフエル河(Havel)や、オーデル河の支流ツレード河等がそれである。

此の丘陵地は太古スカンデナヴィヤ方面から来た氷河によつて伴はれた所謂「堆石」Moraineの小山の相接したものである。それで地味が甚だ悪しく、殊に小山と小山との間には湖沼を湛へて、耕作には甚だ價値を尠なくせしめて居たが、勤勉なるドイツ人の努力は、湖を排水してあとに稍々豊饒な耕地を造り、沼澤地には造林を營んで空地利用の實をあげて居る。

氷河に被はれなかつた北緯五十三度附近以南の地域のみ、土地が肥えて居て、小麦

等の生産の好適地となつて居る。

□主要河川の流路の特性

地圖上に、ハンブルグ・ブレスラウを直線で結んで見る。するとエルベ川下流約六十五里の流路と、オーデル河中流・上流の約百里の流路とが、大體に於て右の一直線に一致する。

同様にしてブレーメンとドレスデンを結んで見ると、ウエーゼル下流とマグデブルグ以上のエルベ河の中流・上流が大體一直線上に落ちる。

イバンゴロツドからワルソーを経てブロンベルヒ附近に到るウイストラ河の流路は、オーデル河の排水するボメラニヤ灣の西南海岸線の延長に一致する事を見出だす。

斯うした、申し合せた様な特殊な流れ方をするに就ては、其の自然的原因がなければならぬ。恐らく前記の三線は、地質時代に於ては相連なつた一つの河谷をなして居たものと考へられる。即ちドイツ平原に加へられた東北・西南の横壓力が、この力に

直角に低い高まりの續きと平たい河谷とを形成して居たと想像する。其の後氷河によつて輸送せられた堆石の小山が撒き散らされて、處々に河谷を埋め立て、河谷の連絡が杜絶して相隣る河流に流路を轉向するに至つたものと考察せられる。

斯うした流路の屈曲が、河流と河流とを頗る相接近せしめ、殊に各河川の支流ワルテ河や、スプレー・アーレル等の河川の存在の爲めに僅かに平地を開墾する事によつて相隣る河川同志の交通が盛んに行はれる地盤が出来上つて居る。

産 業

□ドイツの農業・牧畜

北ドイツ平原北部の瘠地には馬鈴薯・ライ麥・燕麥を耕作し、又牛・馬・豚・羊等の牧場に充て、マクデブルグ附近やオーデル河中流・上流の肥沃地には小麥や甜菜を栽培する事が多い。

それで馬鈴薯の産額は世界に冠絶し、各地に澱粉・酒精の工場を興させた。

甜菜の栽培は地味を良好ならしめると共に、製糖の残滓は家畜の好飼料となるので、ドイツの農民に取つては一舉三得に値する生業である。

ダニューヴ河上流のパワリヤ高原は、雨量は多いが氣温が農作上稍々低きに失する憾みがある。けれども其の高原上に堆積した沖積層の沃野は、小麥・ホップ等の栽培が盛んに行はれ、パワリヤ高原の中心市場としてのミュンヘンに甘美新鮮のビールを醸造させて居る。

□林業と林産物の工業

森林制度がよく整ひ、森林面積が總面積の三分の一にあたると云ふ程で、殊にチュールンゲン以南のドイツに此の生業が最もよく發達して居る。

林産物を材料とする工業も西南ドイツに著しく發達し、ジュラ山脈の北側のニュールンベルヒは各種の木工業及び鉛筆製造業で知られ、スツットガルトではピアノ・オルガン等の製造が盛んである。その他ミュンヘンは家具の産出で知られ、チューリン

ゲン森の南側に當る小市ゾンネベルグでは玩具の製作が甚だ盛んである。

ゾンネベルグ及び附近の農家では玩具の製作が家庭の餘技となつて居る。木製人形も製すれば、電車も作り、ヨットも造り、木屑を膠で固めた人形の頭から胴、手足、それ等を一家團欒のうちにテールを圍んで製作し、着色し、衣服を着用させ、小箱に入れなごして、時の移るのを知らぬ有様である。

□エツセンを中心とする鐵工業

エツセンは有名なルール炭田中の鐵工業地である。ルール炭田の總出炭量年額は、我が國總ての炭山の一年間の産額に數倍する多さである。而も其の炭質は瓦斯發生、並びにコレクス用に適する故、熔鑛爐が到る處に聳え、機械・裝甲板・及物・大砲・船舶等の製造工場を相連ねて居る中にも、エツセン並びにデュッセルドルフの兵器(銃砲)製造が最も世間に知られて居る。

此の炭田地に運ばれる鐵鑛の發送地は主としてローレン州並びにルクセンブルグ大

公國、スウエーデン等であつた。處がローレン州の鐵は其の地方の主權の讓渡と共にフランスに權利を移され、ルクセンブルグも從來の關稅同盟關係を斷絶した爲めにモゼル河及びザール河を下す鐵鑛の分量が激減し、新たにドイツ國土内の遠隔の地域(例へばオーデル河上流地方の如き)より求めねばならぬ事となつた。それで、從來輸入されて居たスウエーデンの鐵の輸入量が増加され、エムス河よりエツセンの西方ライン右岸のデュイスブルグに通ずる運河を往復する鐵鑛運搬船が非常に多くなつた。

□ドイツの岩鹽産地

マグデブルグの南方、ハルツ山脈の麓に程近い處にスタスフルトと云ふ市がある。此の附近が岩鹽の大産地である。

此の附近の岩鹽は地上を掩つて居る粘土層・礫層等の下に、厚さ五六十尺から百二十三十尺に達する鹽化ナトリウム・鹽化カリウム・鹽分マグネシウム等の厚層が存する。それを採り出して食鹽・石膏・加里鹽類等を精製するのである。

すぐ北方のマグデブルグからは甜菜により砂糖を産し、此の地に鹽を産するとは一寸面白いコントラストである。

尙ほ加里鹽類は甜菜の肥料として近年頻りに應用されて居る。

□染織工業と化學工業

ドイツの染織工業としては第一にルール炭田に接するバルメン・エルベルフェルドの紡績・織布工業をあげなければならぬ。サクソニヤのドレスデン・ケムニツ等も綿・羊毛の工業で名高いが、こゝでも機械の動力は「ケムニツ」炭田の石炭を用ゐて居る。

然るに石炭の産地から隔絶して居るバツリヤ高原上のアウグスブルグにも綿の紡績事業が盛大であるが、これはアルプス山中から流れ出る溪流を利用して水力電氣が豊富に得られる爲めである。

ライン左岸に近いクレーフエルドは日本並びに支那等から生絲を取り寄せて盛れに絹機業を行ひ、大戰前には「第二のリヨン」とまで謠はれたが、其の後一時事業の衰頽

を來し、更に最近再び舊態を復しつゝある。

ルール炭田の石炭を利用した化學工業は西部ドイツの各地に盛んに行はれて居るが、中でもドルトムントとフランクフルトアムマインに最も大規模に營まれて居る。即ち各種の染料や、アセチルサルチルサン・サルバルサン等種々の藥品、人造樟腦としてのナフタリン等、すべてコークス製造若しくは瓦斯發生の副産物として生ずるコールタールより分出せられるのである。

都 邑

□商工市としてのベルリン

北方に馬鈴薯・ライ麥等を産出する氷河遺跡地域を控え、南部に小麥・甜菜等を豊富に産する肥沃な農業地を控えて居る。これだけでも既に商業地としての意味を持つて居る。オーデル河とエルベ河との水運の結節點として兩流域の物資を集散する意味よりするも亦重要點に立つて居る。ベルリンの扱ふ商工品の約半量は實に船腹によつ

て運ばれると云はれて居る。殊に鐵道交通に於てはヨーロッパ屈指の要衝で、ステチン・ジラルズンド・ハンブルグ・ゲルン・フランクフルト・ライプチヒ及びミュンヘン・ドレスデン・及びウィーン・ブレスラウ・ワルソー・ダンチヒ等に直通列車を頻繁に發着せしめて居る。

市内の主要部の家屋は、建築條例に依つて五層樓に建てられ、主なる街路は花崗岩及びアスファルトを敷き詰めて常に拭き拂はれて居る。舊皇城(工藝博物館になつてゐる)や伯林大學・圖書館・博物館・美術館・劇場等の偉觀に至つては容易に他都市の追隨を許さぬ魅力あるものと稱せられて居る。

而も斯うした美麗そのものゝやうな都市の郊外には、機械・器具・兵器・染織・製陶・醸造等の工業地域が發達し、市内の一部には、穀物・畜産等の取引に喧鬧を極める商區もある。

教科書の挿繪「伯林の市街」は市中目貫のウンテルデンリンデンの大通り(Unter den

-Linden Strasse)を示したもので、森林を背景にして立つのはプロシヤ中興の名君フレデリック大王の銅像である。

□ヒンテルランドの大きい漢堡

ハンブルグはエルベ河口から六十五哩溯江した北ドイツ平原中に位して居るが、平均水深二十五呎を保ち、潮汐の作用を感じるヨーロッパ大陸第一の良港である。

港の一部に自由港區が設立せられ、中央停車場に通ずる無数の臨港鐵道線が敷かれて居る。

ハンブルグが斯うして繁盛な港市たり得るのは全く其のヒンテルランドに有力な生産地並びに需要地が廣く横はつて居るからである。エルベ川の全流域地と、オーデル河中流以上の流域とが最も濃厚にハンブルグと商業的關係を有する。其の他平原上を縦横に通ずる運河や鐵道線路を通じて、所謂「東西大抵地帯」の中央部全體に亘つて多少の勢力を有して居る。

とにかくドレスデン・ライプチヒ・スタスフルト・マグデブルグ・ベルリン・ドレスラウ等の重要市、ブラーグ・ビルゼン・カルルスバード等のチエッコスロバキヤの都會まで、ハンブルグを門戸として居るのは事實である。

市内には又工業が盛んで、造船地として知られ、黄麻の如き輸入品の加工をも營んで居る。

□ドレスデンとライプチヒ

リーゼン山脈とエルツ山脈との間をボヘミヤ盆地から流れ出たエルベ河は、ドレスデン以下は極めて緩漫にドイツ平原を斜にハンブルグの方へ流れ去つて居る。それでドレスデンはエルベ河の河港としても榮えて居る。

古來美術工藝の盛んな都市で、陶磁器・金屬器・樂器等を産する事が多く、近時綿花並びに羊毛を輸入して織布工業地としても勃興して來た。

ライプチヒもエルベ河の一支流に跨がり、出版業の盛大なことで世界に其の名を知

られて居る。その他印刷機械・樂器類等の製造も盛んである。

□バワリヤ高原のミュンヘン

ミュンヘンは古來東西南北よりの要路に當る爲め發達したバワリヤ高原の中心市場で、ビール醸造地として最も知られて居るが、アルプ溪流の水力電氣によつて綿絲紡績等も盛んである外、學術機械・家具等の製造でも名を賣つて居る。

附近の高原は、沖積層の沃野があつて小麥・ホップ等の栽培が盛んな部分もあるが、アルプ山麓地帯から高原の一部には森林地や草原があつて、牧畜乃至林業に没頭する以外は生産的に價値の少ない部分も相當に廣く横はつて居る。

□自由市ダンチヒについて

ダンチヒ新自由市はウイスマラ河流域の咽喉に當る要港で、ドイツ領時代には其の一軍港で商港を兼ねて居た。今尙ほ造船所等を有し、穀物などの集散地として榮え、ポーランド共和國は勿論、ソヴェエト聯邦の黒土帶地方をも場合によつてはヒンデル

ランドとして活躍し得る好位置を占めて居る。

港灣の設備を見るに、ウイヌツラ河口より約半里許りの處から分流をなすダンチヒ河(延長約四里)全部を用ひ、分流の排水口に位するノイフアールワツセル區へ臨港線を設けて居る。

五 奥地利・洪牙利・チエツコスロバキヤ

沿革

□「寄木細工」の國家

ヨーロッパ大戦以前はオーストリアは世界の一強國として面積四萬四千方里、人口約五千二百萬を有して居たが、數民族一國家の典型的實例として其の將來の成り行きが危ぶまれて居た。

當時の民族で、數に於て最も多いものはスラブ民族で、ボヘミヤ盆地・カルパチヤ

山脈・ガリシヤ・ボスニヤ・ヘルゼゴビナ等に分住して居た。次ぎにマジヤール民族が多く、これはダニエウヅ中流に一團をなして居た。チュートン民族としてのオーストラリア人は數に於ては實に第三位で、外になほラテン系統のイタリヤ人やルーマニヤ人が居り、トルコ人・ユダヤ人等も交つて居た。

之等の民族はオーストリア帝國の治下にあるを好まず、折さへあらば獨立しやうと企てゝ居た。ところが一八六六年にオーストリアがプロシヤと戦つて敗北した時、もはや此のハンガリーの獨立運動を防止する事が出来なくなり、我を折つてハンガリー王國をオーストリアと對等の位置に進め、相聯合して奥洪國を構成し、オーストリア皇帝フランツヨセフが兩國に君臨した。

此の皇帝はハンガリーに人望があつたから、此の帝の在位中は無事であるにしても皇帝崩御の後には國內に大動搖を來すであらうと豫想されて居たが、此の皇帝の晩年に歐洲大戦役が處もあらうに此の國から起り、其の結果、帝國は瓦解してオーストリア

もハンガリーも其の版圖を大いに削減せられ、僅かに餘喘を保つに過ぎない有様となつてしまつた。

□七箇國に分裂

もこの奥洪國內に各々民族を異にする三箇の獨立共和國が形成された。オーストリア・ハンガリー・チエツコスロバキヤがこれである。

其の他チナルアルプ山脈地方の大部分と、ハンガリー平原の南部とはユーゴスラヴィヤに、トランスシルヴァニア山脈北方の山地と高原はルーマニヤに、カルパチヤ山脈の外側はポーランドに、ブレンネル峠以南とオーストリア半島とはイタリヤに分割したから、總て七箇國に分裂した譯である。

境界線の引き方は、主として現住する民族分布の範圍によつたのであるが、地形・歴史・其の他の意味が加へられて現在のやうになつた。民族主義から云ふと、イタリヤやユーゴスラヴィヤが出すぎて居るやうである。

奥地 地利

□オーストリアの産業

國內の大部分に所謂オーストリアアルプ山脈が走つて居るが、高度がスウイス程にないので殆んど山嶺近くまで森林が繁茂して居る。ダニューヴ河の北岸にも處々廣い美林があつて、森産の富は國家經濟の重要部分をなして居る。

鑛業も夙に發達し、鐵鑛はエンス河流域のアイゼンエルツを始め各地に其の産出が多い。アイゼンエルツ(鐵鑛)は其の名の示す通り、附近の山全體が鐵山である。のだから素晴らしい。たゞ製鐵の爲めには、ドイツ其の他の方面からコークスを輸入しなければならぬが、小規模の工場では、山中に生産される木炭を利用して製鐵業を営んで居る。

ダニューヴの本流や、オーストリアアルプ山脈中の溪谷地には肥沃な沖積層が處々存して、穀物・葡萄・桑等の農耕地を供給し、又それ程にも及ばぬ處は牧畜に利用せら

れて居る。

□ウイーンの位置の優秀

ウイーンが交通・商業の中心となり、従つて政治市として發展し、従つて又學術市として知られるに至つた基礎は其の地形上の優秀にあると考へる。



第十圖

オーストリアアルプ山脈の末端に立ち、ダニューヴ河の對岸からは再び山地が續いて遂にカルパチヤ山脈に連絡して居る。謂はゞ西北ヨーロッパと、東南ヨーロッパの一大關門をなして居るのである。而もダニューヴを利用する河の交通は、パワリヤ高原西部のウルムから、東方遙かなる黒海に及び、パワリヤのレダンスブルグ附近からシユラ山脈を横斷する運河によつてライン河の支流マイン河に水路相通じて居るのである。

一言にして云へば、ウイーンは山・河・平野の集迫點に位して居るのである。それ故

に物資の一大集散地となり、ダニューヴに沿つて繁盛なる河港は發育し、鐵道網の要衝として發達し、各種の工業及び染織・製紙等が盛んになつて行くのは當然の事と謂はねばならぬ。

けれども大戰後此の都市が何となく幽鬱状態に沈んで居るのは、大戰役五箇年の苦痛の癒えやらぬ爲めであらう。此の絶好の地形上に位し、面積に於ても其の國土は尙ほスウイスの二倍以上もあるのであるから、其の意氣込み如何によつては、健實な發展振りを示して敢てパリイ・ベルリン等に劣らぬ都市として榮えしめる事が出来るであらう。

洪牙利

□ハンガリー平原の自然と産業

ハンガリー平原はダニューヴ本流と支流タイス河等によつて灌漑せられる地味の肥沃な原野であるが、カルパチヤ・チナルアルプ等の山脈に圍まれて雨量が甚だ乏しい

爲め、河川に沿ふ僅少の地域の外は之れを開いて農耕地と爲すは容易の業でない。

それで、流れから程遠い乾燥した草原(之れをプスタと稱して居る)では、處々跳釣瓶式の井戸を掘つて、牧場を營んで居る。

教科書の挿繪「洪牙利平原の牧場」がそれである。斯うした際涯の知れぬ程のプスタに、東洋歴史等によく出て来る匈奴(Huns)の子孫即ちマジャール人が牧畜に従事して居るのである。

畜牧は牛・豚・羊が最も多く、馬が之について居る。

農耕地は極めて小部分に過ぎないが、麥類・煙草・玉蜀黍・甜菜等を産し小麥と玉蜀黍は特に其の産額が多く、小麥は此の國の重要輸出品となつて居る。

□フダペストに就て

ハンガリーの西方にブラツテン湖と稱する細長い湖がある。此の湖の北岸に沿つて西南から東北へ、バコニー Bakony と稱する低い山脈が連なつて居る。ダニユーフ河

は此の山の存在の爲めに著しく流路に特徴を與へられ、殆んど直角をなした流れ方をして此の山脈の東北端を廻つて居る。

ブダペストは實に此の曲流部の少しく南に、バコニー森の丘陵に沿つて位置を占めたハンガリー平原の中心市場で、穀物・畜産等の集散が甚だ活潑である。小麥を原料とする製粉業も甚だ盛んである。

河の右岸がブダで左岸がペストである。商市として榮えるのはペスト區で、河岸の一點を中心に街路が放射狀に發して居るのが此の市の特徴である。

チエツコスロバキヤ

□チエツコスロバキヤの地形

ボヘミヤ森・エルツ出脈・リーゼン山脈・モラヴィヤ山地で四方を完全に圍まれたボヘミヤ盆地と、カルパチヤ山脈の南部斜面とから成つて居る國家で、其の一部はダニユーフ河の本流の岸まで國境が伸びて居る。

チエツク人の住むボヘミヤ盆地が此の國の重要地で、エルベ河の上流と、ボヘミヤ山脈より發するモルダウ・エーゲル等の河川が盆地中に會し、中心市場ブラーグを發達せしめて居る。

カルバチャ山脈とこれに沿ふ高原並びに斜面の部分にはチエツク人に系統の近いスロバツク人が主として住し、多くは牧畜を營んで居るが、ダニユープ河本流附近にはマジヤール人が多い。

□ボヘミヤ盆地の人文

ボヘミヤ盆地の最低部は諸川の沈積した肥沃な沖積層がたまつて居るのでホツプ・小麥・甜菜・馬鈴薯等の農産が多く、モラヴィヤ山地に近い稍々高地には牧畜・馬鈴薯・黑麥等の農耕地が開かれて居る。盆地周圍の斜面には森林地が鬱蒼としてつゞき、カルルスバード温泉に遊ぶ保養客等をして壯快を感せしめて居る。

ビルゼンよりブラーグに至る一帯の地下には豊富なる石炭と鐵鑛とを埋藏し、兩地をして鐵工業を榮えしめ、又ボヘミヤ硝子の生産地として其の名が世界に知られて居る。ビルゼンには又ポツプ・大麥を用ひてビールを盛んに醸造し、甜菜糖の製造も盛んに行はれて居る。

之等の物資の大部分は盆地北方のアウトジツヒからエルベ川を下してハンブルグの埠頭に送り出すのである。

カルルスバード附近の火山岩は、温泉若しくは噴氣孔よりの瓦斯などの作用によつて良好の陶土と化して居るものが多いので、陶器製造地としてヨーロッパ大陸屈指の場所になつて居る。

□ブラーグに就て

ボヘミヤの水運と陸上交通とを統一するモルダウ河畔のブラーグは、ボヘミヤ盆地の中心都會をなし、ダニユープ流域よりエルベ下流の大平地への物資移動の大關門に當り、汽船は其の埠頭より頻繁に出帆して下流に向ひ、鐵工業・硝子・毛織物等の事

業も甚だ盛んに營まれて居る。

チエツク人は一般に性質が極めて黽勉で、産業に努力する民族として知られて居たが、大戦後此のブラーグ市の住民を中心に、非常なる熱烈さで民族の叫合と國産の増進とに勵み、如何にもして獨立の實をあげて行かんとの希望に燃えて居る有様が市街の隅々にまでも露はれて旅行者にまでも一種の緊張味が感せられると云はれて居る。

六 瑞 西

□ スウイスの地形とプロツク

スウイスはアルプ山脈と、之れに平行する北側のジュラ山脈との間の高原國である。但し、ジュラ山脈の北側のバーゼル地方、アルプ山脈の南のチチノ川並びにイン川流域地方も、從來の歴史的關係其の他の理由でスウイスに編入されて居る。

アルプ山脈は少しく精細に之れを觀察すると二條の相平行する山脈から出來て居る



のが分る。一つはフランスのモンブランより、ベルナルド越・マツテルホルン(教科書のヨーロッパ總論の部に挿繪が載つて居る)、ローザ等の連山で、他はユングフラウ・フィンステルアールホルン・ウエツテルホルン等の連続で、間にローヌ並びにラインの上流を、サンゴタルド越を中にして相背馳して流下せしめて居る。

ジュラ山脈も亦多くの平行山脈より成る山続きで、ローヌ河の上流ゾーブ(Doubs)河等が山中の縦谷を流れて居る。但しドイツの黒森の南方では、ライン河に横斷された部分があつて、スウイス物資の外部に出る重要な通路をなして居る。

兩山脈間の高原は系統上バワリヤ高原の続きで、大體に於てポーデン湖・レマン湖で西端を限られ、多くのアルプ山脈麓の水河湖や、ジュラ山脈に接する高原地の最低部にニューシャタル等の湖を伴つて居る。

□溪谷地や高原の牧畜業

土地が高いので気温が低く、普通の農業は見込みが無いので、多くの面積は牧畜業に提供され、牛・羊等の家畜の頭数が甚だ多い。

高原の雪が融けて嫩草の萌え始める頃になると、羊や牛の群れを伴った農夫の一團が爪先上りの山路を上へ上へと移動する。そして氷河の末端に近い處にまでも一時的の小屋が建てられて牧畜に従事するのである。花の如き少女が高原の草花を愛でつゝ、手藝に耽る傍らには、純潔そのものゝやうな白羊が若草に腹づゝみを打つて居る。

羊毛とバターとチーズとは、自然が恵むこの國の一大富源であると謂つてよい。

□「白い石炭」による工業

スウイスには不幸にして石炭の産出は無いが、機械の動力として無盡蔵な「白い石炭」が到る處に豊富に存在する。即ち小高い處に湛へられた氷河湖や、アルプ山脈の急斜面を走り下る溪流を利用しての工業が盛んに勃興して居る。

何しろ水源には萬年に亘つて消えた例のない氷河があつて、夏分に際して水涸れの心配は絶對になく、寧ろ冬分の發電量の減する傾向を嘆く位である。黒炭よりも遙かに安價な「白炭」！ それによつてスウイスが恵まれて居る事も亦夥だしい。

チューリヒ市の綿・絹・毛の織物は大戰前より盛大であつたが、戦後は染料・空中室素工業・樂器等の新しい工業も勃然として興つて來た。

レマン湖岸よりロース河の落口地方は昔は地味瘠薄、殆んど牧畜場としてのみ利用されるに過ぎなかつたが、懷中時計の製造に向つて活路が開かれてから斯の事業が相ついで附近の土地に起り、今ではジュネーブ市を中心に其の名聲が世界に轟いて居る。

□ベルンとバーゼルに就て

ベルンはスウイス高原の略々中央、海拔五四〇米の高處にあつてツーンの氷河湖より流れ出るアール河(ラインの支流)に沿つて居る。高原中の交通の要路に當り、畜産

物の一集散地をなして居る。

國の北端のバーゼルは、ジュラ山脈を横断して流れるライン河に沿ひ、ケルン・ロツテルダム等との間に汽船を通じ、スイス物資の重要な門戸をなして居る。

□山水の勝地ジュネーヴ

教科書の挿繪に「ジュネーブの市街」が出て居る。遠景の高い山は雪のモンブランで、海拔四八一〇米、ヨーロッパ第一の高峯である。

モンブランの白雲を映するジュネーブ湖のほとりに、海拔約三八〇米のジュネーブ市は、精巧なる「スイツル時計」の本場として夙くから日本にも知られて居る。

しかし乍らさうした生産的價値よりも、其の山水に云ひ知れぬ魅力を有する好遊覽地として各國の人々が集まり來る處である。碧藍の水面は、挿繪の橋の附近から漸くローヌ河に移るので多少の流れをなして居る。前景の石垣で圍つたのは河中の「ルン一島」の一部である。

七 佛 蘭 西

位置・面積・人口

□位置と面積

フランスはヨーロッパ東西大低地帯の西端に位し、地中海より大西洋岸にぬける比較的低平な部分を占めて居ると云ふ事が出来る。

又其の境界はピレネー・アルプ・地中海・大西洋岸によつて劃然として明瞭なラインを引いて居る、がたゞ一つフランスの東北部が自然の境界線に依らない部分となつて居る。

面積は世界大戰の結果、アルサス・ローレンをドイツより奪回したので今では三萬五千方里を包擁する事となつた。けれどもアフリカ洲及びアジャ大陸等に、本國に二十三倍する廣い領地があることをも考慮に入れてフランスを見なければならぬ。

□フランスの人口

フランスの人口はアルサス・ローレンの二百萬人を合して、約四千百萬に過ぎない。千八百年代の半ば頃までは、英・獨に比しても遙かに人口が多く、人口増加率も相當に多かつたのであるが、十九世紀の後半から徐々に人口増加率が少なくなり、二十世紀世に入つてからは殆んど人口に増減のない程の年が時々あつた。

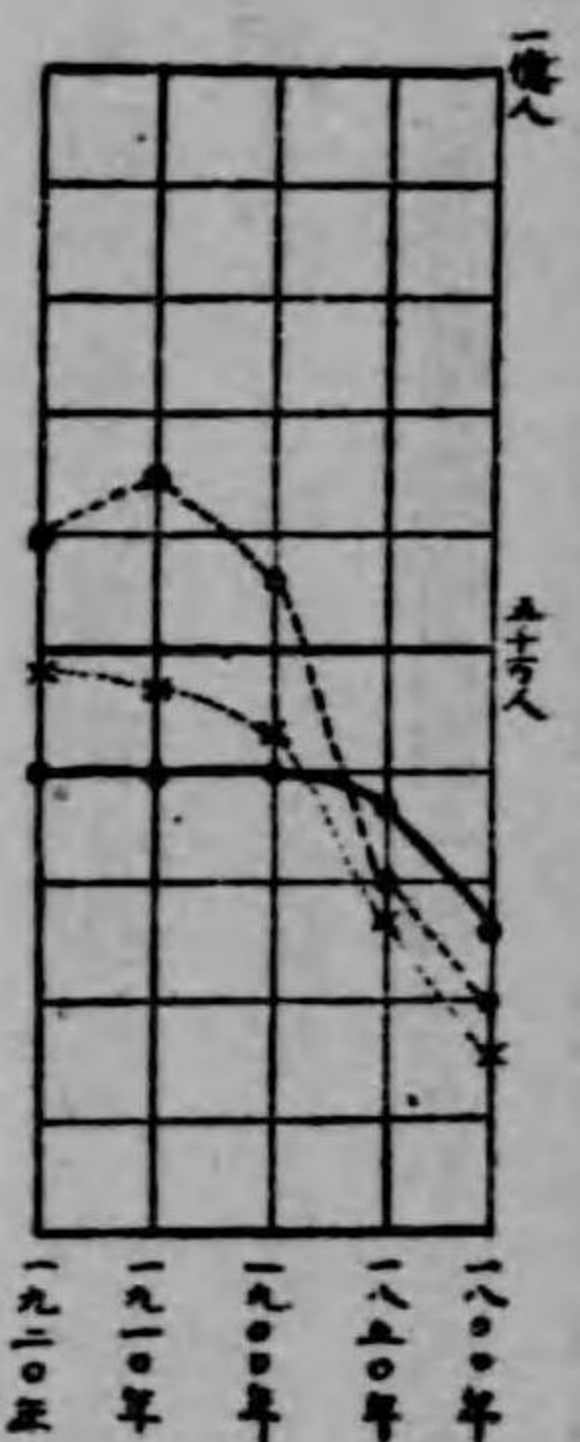
●——● フランス

●——● ドイツ

x.....x イギリス

フランスの人口増加率の少ないのは、主として小兒の死亡者が多いのによると云はれて居る。年々の出生約九十萬人であるが、一歳未満の死亡数が實に二十萬の多數に及んで居るのである。

而して嬰兒死亡の原因は、牛乳より起る小兒病が主で、要するに幼兒の養育に周到



圖一十二第

でない結果であること見られて居る。
一方に於ては夜會で夜更かしをやり、青春の若々しさを少しでも長く保たせようとの虚榮心からして避妊法が盛んに行はれる結果とも觀られて居る。

□フランスの三斜面

フランスは地形上地中海・ビスカヤ灣・イギリス海峡及び北海の三斜面に分れて居る。

此の三斜面を分つ主要地形はフランスの中央より稍々南に偏在するオーヴエルニュ高原である。此の高原はもと島嶼をなした古い陸塊で、火山群が南北に通ずる裂線を破つて噴起し、モンドール(一八八六米)・モンカンタル(一六六〇米)等の高峯を連ねて居るが、大體に於て西方に傾く高原である故に、ビスカヤ灣斜面を異常に大きくし

て居る。

地中海斜面は殆んどローヌ流域で代表せられ、其の西南にアウデの小流がある。ビスカヤ灣斜面はガロンヌ・ローアルの二大川が注ぎ、イギリス海峡並びに北海斜面にはセーヌ・ソナム・シエルト・マース・モーゼル・ライン本流等が流れて居る。

「ヨーロッパ東西大低地帯」に属するのはビスカヤ灣斜面の一部とイギリス海峡斜面の一部とである。

□三斜面と氣候

地中海沿岸地は年中氣温高く、冬季の好保養地として知られ、之れに接するローヌの河谷と共に夏季雨が少いので、屈竟の養蠶地となり、中心地リヨンを發達せしめて居る。

ビスカヤ灣沿岸地一帯はローヌ河下流と緯度に於て略々同じであるが、海洋の影響を受ける事が一層多く一般に溫暖で、雨量は夏分に多い。

イギリス海峡斜面、殊にバリー附近は、雨量は割合に少なく、寒暑の差が稍々著しく、其の寒氣はロンドンより南フランス等へ避寒に赴く者の常に著しく感ずる處である。

□ガロンヌ河流域地方の産業

ビスカヤ灣岸には高さ六十米に達する砂丘續きのランド地方があり、其の東南には氷河で荒されたピレネーの山麓地があつて、生産的には單に牧羊場が處々營まれて居るに過ぎないが、ポルドー以東のガロンヌ流域は地味が甚だ肥えて居て小麥・玉蜀黍・牛・葡萄等の農牧業等が頗る發達して居る。ポルドーの港市をして、名高い葡萄酒の大中心地並びに大輸出地たらしめて居る。

ポルドーは又、イギリス炭・イスパニヤの鐵鑛を用ゐて製鐵・製鋼をも營んで居る。

ガロンヌ上流のミデイ運河の起點ツールーズも亦商業地の域から、紡績・製鐵・陶器等の工業市たらしめて居る。

□羊毛と小麦の生産地

ブルターニュ・ノルマンディー兩半島を走る低平な山脈の縦谷地方はフランス屈指の小麦産地である。此の東隣のパリ附近も亦盛んな穀物産地として知られ、フランスが歐洲第二の小麦産地として知られるのは主として右の二地方に負ふのである。

小麦の生産は土地が肥沃であるを要するのは勿論であるが、其の上に雨量が年額が年額六七百耗位を最も適度とする。右の二地方は丁度此の條件に適合して居る。

次にソナム河流域以北は早くから羊毛の産地として知られ、アミアン・リール等は羊毛の大市場をなして居る。

此の地方に牧羊の盛んな理由を次の如く考察してはどうかと思ふ。

- 1、土地と氣候 此の地方は波状の丘陵地が廣く横はつて居る。そして氣候は稍々寒冷で、雨量も乏しいから小麦、葡萄何れも適當しない。
- 2、機業地への供給 ベルギーの海岸地方からフランス北部にかけては近世以來リ

ンネル・木綿・羊毛等の織布工業が盛んである。羊毛の需要は近接地に甚だ大である。

- 3、石炭の産出 此の地域の東方にはベルギーより續く大炭田があつて企業に都合のよい位置である。

□フランスの鐵工業地

モーゼル川流域のナンシーとオーヴエルク高原東北のサンテチエヌ・ルクルーン一帯が盛んな製鐵地である。

ナンシーを中心とする銑鐵製造・製鋼の業は、之れに隣るザール炭田の石炭を得て盛んに營まれ、從來に於てもフランスをして米・獨・英についで盛んな製鐵國たらしめて居たが、今やザール炭はフランスの使用に委かせられ、ローレン州の鐵鑛も悉く之れを利用し得る事になつたので、フランス製鐵工業の前途の隆盛が想はれる。

サンテチエヌ・ルクルーンは鐵鑛と石炭とが都合よく同じ地域のうちから産出

するので便利に製鐵・製鋼が行はれて居る。殊に國の略々中央部に相當するルクルー
ソーには盛大な兵器製造所の設けがある。

貿易

□フランスの貿易

フランスは世界屈指の通商國で、就中リヨンを中心とする生絲貿易の如きは最も盛
大を極めて居る。主要輸出品は織物を第一とし、生絲・葡萄酒・巴里諸製品等がこれに
ついて居る。輸入品の主なるものは穀物・石炭・綿・葡萄酒・羊毛等である。

穀物はフランスに小麦等を多く産するがそれでも尙ほ全國の需要を充たすに足りな
いのである。葡萄酒の輸入は一寸妙であるが、これはアルジェリヤ・ギリシヤ・イスバ
ニヤ等から粗製酒を輸入して精製するのである。

貿易の中心はマルセーユを第一とし、ルアーブル・ボルドーが之れにつき、ドーバ
ー海峡東口のダンケルクは築港以來東北に於ける工業地の主要門戸となつた。

□日本との關係

日本との貿易關係は次の表に示す通りである。

日本より輸出		日本へ輸入	
絹織物	五七八萬圓	毛織物	五七八萬圓
屑絲及び眞綿	四一四	機械及び部品	二五三
製帽眞田	一四〇	染料	一五
樟腦	五六	コーラルター ル等	
陶磁器	四〇		

右は大正十二年の實際である。戦時中は澱粉・砂糖其の他の食料品をも多く輸出し
た今後は葡萄酒や鐵の輸入も多くなる見込みである。フランス人形・フランスオペラ
等と稱する贅澤品も其の輸入額が漸次多くなる傾向がある。

尙ほ茲に一つの注目すべき事柄がある。それは一度フランスに輸出されたものが、彼の地で加工されて再び日本に輸入される事實である。即ち我が羽二重が、精巧なる意匠を加工し、優美なる織物として再び神戸・横濱の税關を通過してハイカラな洋品店のシヨウウインドウに飾られると云ふ事實である。

都 邑

□城壁をめぐらす巴里



第二十 二 第

セーヌ河口を汽船で溯ること約四十五里で首府の巴里に達する。セーヌ河はパリーの附近で東よりマルヌ、北よりオアズ河を容れて居る。其の他のセーヌの支流も多くは巴里附近で本流に合して居る斯うした河流の流路に徴しても巴里が一つの盆地の中心地であることが知られる。

けれども周圍の山地は極めて低いもので、西南のロアール河、ベ

ルギーのシエルト河・マールヌ河等との間にも運河が設けられ、一千噸にも達する河用汽船がブルツセルから陸内を通つて自由に巴里に入港し得る程である。

それで巴里の軍備は最も嚴重ならざるを得ない。國境附近にはウエルダン・メッツ等の要塞があるが、パリーの防備も亦ゆるがせに出来ないから、延長九里餘にわたる城壁を繞らし、九十四箇の稜堡及び五十七の城門を構へ、如何にも武張つた外相を示し、更に四周丘陵地等に堅固なる堡壘を築き、面積約七十方里の地域内を金城湯地たらしめて居る。恐らく世界武装市の最大なるものであらう。

けれども一度パリー市内に進まんか、其處には到る處に六層又は七層の大建築が街路の並木の緑に反映しつゝ連なり、ゴート式建築の代表であるノートルダム寺院や、高さ九百八十尺餘に及ぶエッフェル塔の如き頭抜けた大建築が高く聳えて居る。

パリーは又世界の流行の中心とも稱せられる華かな都市で、時好に適する美術工藝品や化粧品などの製造が各所で行はれて居る。鐵道の集中は伯林に劣らず、外客出入

の多い事は寧ろ伯林以上である。

郊外に遊覽地の多い事も巴里の一特色で、宮殿市としてのベルサイユ市附近が遊覽者を集める事が最も多い。

□世界一の絹機業地リヨン

リヨンはローヌ河と其の支流ソーヌ河との會點に位する港市で、ソーヌ河によつてストラスブール・パリ・ロアール河等と舟楫を通じ、南フランスに於ける一大内地商業地として活動して居る。

又ローヌ河の溪谷が、アルプスの雪原より吹き送られる冷氣によつて気温を低下せしめられる事と、水力電氣の發生が極めて容易な事、並びに水質そのもの、優良である事等が根據となつて、養蠶・製絲・絹織・染織等の相連關した一體の農工業を發達せしめて居るが、リヨンは實に其の大中心地として立ち、絹機業に於ては世界第一の名を恣にし、原料の不足を感じるころから支那並びにイタリア、日本等から盛んに生

絲の輸入を待つ有様である。

□地中海岸のマルセーユ

マルセーユは丘陵地(アルプ山脈系統のもの)の海に臨む部分に建設され、ローヌ河の三角洲からも約十三里(直徑距離)離れて居るので其の港灣は大船を寄せるに適する。

ローヌ河水運との連絡の爲めには、アヴィニオンで本流に合するジュヴアネー河との間に丘陵地を縫つて運河を通じ、荒天に際しても小舟がよくリヨン方面との往復に差支ないやうにしてある。

港そのものは理想的によく、背後との連絡もよく取れて居る上に此の國の貿易の對象が多くはアルジェリヤ・シリヤ・佛領印度支那等である事も原因して、ルアーブル・ポルドー等よりも貿易額に於て格段の差異を示して居るのは了解されると思ふ。

商業の發達に刺激されて製造工業も盛大となつた。アルゼリヤ・サルヂニヤ・イスバ

ニヤ等の鐵鑛を用ゐ、イギリス炭を廻送し來つて、熔鑛・機械・造船等が急速の進歩を遂げて居る。又地中海沿岸の名物であるオリブや、輸入による亞麻仁・落花生・コブラ等を用ゐて製油業の發達を見、石鹼・人造バター等の製造も甚だ盛んになつて居る。

沿革

□帝政より共和への歴史

「王權神授説」の實行者ブルボン王朝のルイ十四世は民權の伸張するのを極端に惡んだ。その着眼點は如何にして國家を強くせんか、如何にしてブルボン家の幸福を永遠に繼續せしめんかの問題のみであつた。此の目的の爲めに十四世は當時のヨーロッパ全體を敵として戦ひ、又ヘルサイユの宮殿を建造して内外人の眼を眩惑させた。

久しい征戦と、素晴らしい土木等の爲めに國帑を消費したフランスはやがて大なる財政の困難に遭逢した。ルイス十六世に到つて國民の輿論に訴へて貴族僧侶よりも納税せしめ、以て財政の緩和を圖らんとしたが、事志と違ひ遂に大革命を誘發し、十六

世は難に殉じ、多數の貴族は殺戮せられてフランス空前の無秩序時代を出現した。

此の混亂を鎮めて共和政府の基礎を鞏固にし、フランスに於ける革命運動鎮壓の目的で屢々繰り出された諸外國の武力を撃退し、進んで大いに東伐西征に奔走し、終身統領よりフランス皇帝にまで登つたのがナポレオン一世であつた。

皇帝即位後のナポレオンは如何にもしてイギリスを征服し、ブルボン王朝このかた失つたフランス海外の領地を奪回し、フランス永遠の幸福の基礎を定めやうとあせつたが、トラファルガル海戦に敗れ、ワテラローの激戦に力盡きては策の施し様は無かつた。萬斛の恨をのんで南大西洋の孤島セントヘレナに淋しく逝いた。

其の後ナポレオンの甥で、ルイ・ナポオレンが時運に乗じてフランスの皇帝に即位した。けれどもセダンの一戦に敗れてプロシヤのウイルヘルム一世をして名を成さしめるに終つた。

それよりフランスは専ら共和政治を勵行し、普佛戦争にフランスが何故に大敗を招

いたか、フランス國民の全體としての幸福増進の途は果して那邊にあるかを丹念に研究し、産業に勵み、教育に努力し、民心を緊張せしめ、軍備を擴張してドイツに對する報復の日の到るを待つて居た。

□國防上より觀たるアルサス・ローレン

偶々大戰は勃發し、フランスは勇躍してマース・モーゼルの戦線に部署についた。然るに獨軍は意外にもベルギーの中立を犯し、リール・ランス方面より突進して來たので一時は頗る危機に類した。北部の大富源は蹂躪破壊せられ、敵軍は遂に首府に到着するまでの困難に陥つたが、五十年間の訓練はよく功を奏し、あくまで沈勇熱誠以て防戦の偉功を奏し獨軍をして休戦を乞ふのやむなきに至らしめた。

斯くしてアルサス・ローレンの故地は目出度く奪回し、賠償の物資をも豊かに得て五十年間の暗雲は全く一掃され、喜ばしい白日を仰ぎ見るに至つたが、それにしてもアルサス・ローレンの價値の大きさ！それは單なる經濟上の問題のみでは無い。こ

れあるによつて巴里の守備ははじめて完全されるのである。(第二十二圖参照)メッツ・ベルダンでは地物に依頼するところが少ないが、フォージェン山脈とラインの巨流によつて完全に國境の守備は果される地の利を持つて居る。

八 白耳義・和蘭

位置・面積・人口

□事情の似た二國

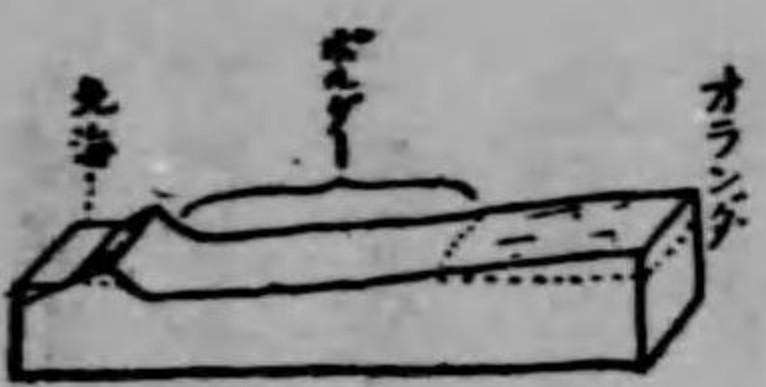
ベルギーとオランダは種々の點に於て相似て居る。(1)共にヨーロッパ大低地帯の一部にあつて北海に面して居る事、(2)列強の間に介在して所謂「緩衝國」である事情、(3)面積はオランダが二千百方里、ベルギーは千九百方里、共に我が九州(約二千六百万方里)より狭い事、(4)共に人口密度が甚だ大である。即ちベルギーは一方里約四千人、オランダは約三千二百人に達する。

其の他兩國共に本國に比較して遙かに大なる領土を有する事も共通して居る。オランダは東西兩印度諸島の屬地を併せて其の面積十二萬方に達し、人口は約四千八百萬を算して居る。ベルギーはアフリカ中部に本國に二十倍する領土を有し、其の人口は八百五十萬に及んで居る。

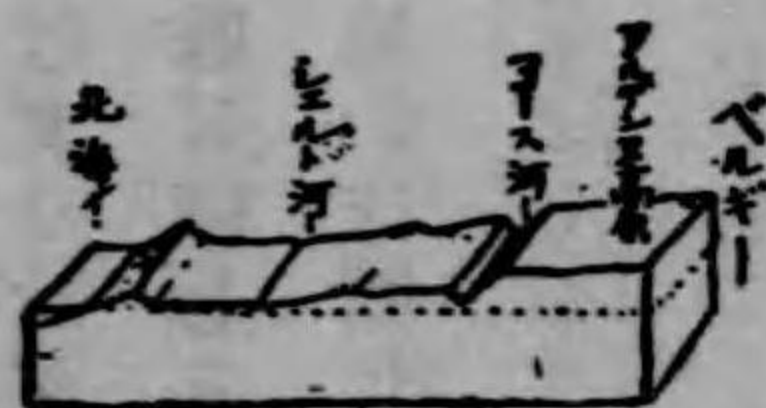
地勢・交通

□地形の相似性と差異性

ベルギーとオランダは地形に於て甚だ類似的であるが、又自から差異點も存する。



■三十二第



■四十二第

上のブロックダイヤグラムに示した通り、大體の調子と云ふものが甚だ類似的である。北海の岸に砂丘が続いて居る事や、砂丘の内側に平地の存すること、後方が順次に高くなつて居る事等は誠によく似て居る。

差異點としてはオランダの方は砂丘の内側がポルダー(海面以下の土地)であるが、ベルギーの方は海面以上の低原である。又背後の土地はオランダに於ては極めて低平であるが、ベルギーのマース川以東は所謂アルダンス高原の一部で、海拔二百米乃至六百米の波狀の臺地である。

ナポレオンの古戰場として有名なワテラローは、マース河左岸の西方の一丘陵であるが、オランダの方には斯うした地形は見られぬ。

□ポルダーは如何にして生じたか

海面以下の土地が存在する爲めには海岸に巨大な砂丘乃至築堤が必要であるのは云ふまでも無い。オランダのポルダーの海に面する部分、並びに海に注ぐラインの本流・分流の岸には嚴重なる堤防が設けられて居て、河水・海水の侵入を防いで居る様は教科書の挿繪「和蘭の海岸」に見る通りである。

然らば如何にしてポルダーは生じたか。

此の疑問を解決する爲めに先づ眼をゾイデルゼー灣口のフリシヤ群島(テクセル、フリーランド・ターセリング・アメランド等の島々)に向ける。之れ等の島々は十三世紀までは陸地を保護する立派な砂丘であつた。ところが地盤の沈降は徐々に行はれ、砂丘の内側の平地は却つて北海の海面より低い部分が形成されて來た。遂に或る暴風雨の日、砂丘を決壊した潮は、恐ろしい勢で陸面に侵入し、現今見るゾイデルゼーの出現を見た。當時の状態に於て、大體今のゾイデルゼーの部分が海面以下の土地であつた譯である。

新しい堤防がゾイデル海に沿つて嚴重に築造されると共に北海沿岸、ライン本分の流の河岸をも修覆増築が爲された。

其の後尙ほ沈降作用は極めて徐々に行はれ、遂に現今の如きボルダーの形成を見るに到つたのである。

□水運の便と鐵道網

オランダを貫流するライン河の下流は之をワール河と稱し、北部に平行して分流レツ河(ロツテルダムが之れに沿つて居る)、ゾイデル海にイゼル河を分つて居る。又フランスより流れ出るマース河は、ベルギーの東南部を横ぎり、オランダに入つてラインに平行して流れ、河口近くでワール本流に合して居る。其他ベルギーの低原部を北流するシエルト河や、ゾイデル海に入る獨立の河川フェヒト川等もあるが、何れも水量豊富で舟楫織るが如く、交通に與へる便利は著しいものがある。其の上にボルダーを始めとしてベルギーの低原部にも縦横に運河を掘り開き、盛んに水運に便せられて居る。外灌・既排水にも利用せられて居る。オランダに於ける運河の延長は實に二千哩の長きに達して居る。

地形が平垣で工事が容易である事と、商工業が発達して物資輸送の必要が多い事と鐵・石炭を近接地に産出する事が豊富で、敷設材料に豊かである事等がこれ等兩國の鐵道網をしていやが上にも密にしたが、中でもベルギーは、其の延長約五千六百哩に

達し、面積一万里につき、鐵道線路三哩と云ふ割合になつて居る。

産 業

□オランダの農牧業

オランダで生産的に最も價値の多いのはポルダーである。其の地味は一般に肥沃で稍々濕潤に過ぎるが、それが却つて酪農業に適し、教科書の挿繪「和蘭の運河」中に見えるやうに寸土も之れを牛の飼育に利用し、バター・チーズの製造が甚だ盛んである。オランダが丁抹・瑞西と共に牛乳製品で名を世界の市場に知られて居るのは主として此のポルダーの恩恵によるのである。

又穀物・甜菜なども産出し、アムステルダム西方ハールレム地方の如きは園藝業の中心をなし、花卉・果物(オランダいちご等)・球莖等の輸出が多い。

水面以上の部分のオランダは第四紀の洪積層によつて被はれる處が多く、生産的に價値が多くないが牛・羊の牧養や・馬鈴薯・ライ麥・燕麥等の栽培せられる地域となつて居

る。

□シエルト・マース兩流域の工業

ベルギーの工業區は地形によつて大體二部に分れて居る。低平なシエルト河流域の工業と、丘陵並びに高原地帯を斜走するマース河流域の工業との二類がそれである。

シエルト河より北海海岸にかけては亞麻並びに綿の工業が甚だ盛んである。亞麻は國內産をも勿論利用するが、其の多くはソヴェエト聯邦並びにラトヴィヤ等よりの輸入によるものである。

ガンでシエルト本流に注ぎ入るリース(Lys)河の水が特に亞麻纖維の取扱に適當して居るらしく、此の附近で製織されたリンネル等は、絹の柔か味と光澤とを帯びて居るのは事實である。

ナミュールに於てマース本流に注ぐサンプル河と、ナミュール以下の本流沿岸には無数の工業地が發達して居る。これは全く此の區域が盛んな炭田地である爲めであ

る。

サンブル河畔のシャルルロアは其の西方のモンヌと共に銑鐵・鋼鐵・機械・機關車等を製造し、硝子製造の大中心地をなして居る。

リエージュ・ナミュールの製鐵業も有名で、殊に前者の兵器製作は、大戰前から其の名が世界に轟いて居た。又硫酸・曹達などの化學工業や、硝子製造・製陶業等に於ても傑出し、其の生産品の多くは國の北部を迂回する大運河によつてシエルト下流のアンベルスに送り出されるのが普通である。

□世界屈指の商業國

ベルギー・オランダの兩國は世界屈指の商業國で、アンベルス(白)・ロッテルダム(和)・アムステルダム(和)の埠頭は貿易に従事する船舶で埋まつて居る程である。

何故に兩國が斯くも盛んなる通商・貿易國となつたかに就て、次のやうに纏め度い。

1、大低地帯上の位置 ヨーロッパの中央を東西に續く大低地帯の略中央で、交通

が陸上に於ても河海に於ても甚だ便利な位置に立つて居ること。

2、河川による後背地 ライン河は遠く源をアルプ山脈に發し、スウイス・フランス・ドイツ等の水を併せてオランダの海岸に排水し、マース・シエルトの二流亦フランスより發してオランダに注いで居るが、之等の川の流域の農産、畜産・林産や、鑛産・工産の一部が河口附近に發育する港市に送り出される機會が多い。

3、面積の狭小と物産の偏して居る事實 ベルギー・オランダは國土の狭小な割合に物資生産が豊富ではあるが、面積に限りがあるので、通商の利を求めるやうになるのは當然のあらはれであらう。且つ又、其の生産される物資は、國民の生活を支へる總ての方面でなく、寧ろ非常に一方に偏して居る爲めに、不足する方面、例へば穀物・綿等の輸入を大いにしなければならぬ必要も存する。

都 邑

□ベルギーの首府ブリッセル

地形上からは低原部と丘陵地帯の界線にある。そしてシエルト・マース兩流域の水路系を連ねる一大要點に位し、鐵道交通に於ても頗る重要地をなして居る。アンベルスより三千噸級の河用汽船が優に入港が出来る。

それで内地商業地として榮え、建築物の美觀では巴里につき「小巴里」の稱がある。レース・家具・銅器・染織品・自動車等の工産品を出す事が多い。

□商港アンベルス

シエルト河潮汐作用の極限に位しベルギーの大關門をなして居る。

アンベルスは一名アントワープと稱するが、このAntwerpに就て一つの傳説がある。昔此の地の河岸に海賊が居を構へ、通航の舟人等に重税を課し、應じない者は容赦もなく殺戮した。けれども罪惡は長くは續かなかつた。正義の及は遂に海賊の巨魁を斃し、其の腕はシエルト河にワープ(werp)投入された。それからは此の地をアントワープと呼ぶやうになつたと云ふ。

此の傳説によつて知られるのは、此の地が早い頃から通航上の要所であつたと云ふ事である。

ハンブルグ・ロッテルダムと共にヨーロッパ大陸の三大港として今尙ほ其の名を世界に誦はれて居る。又造船・製糖・染織・金剛石細工等の工業も盛んである。

□アムステルダムとロッテルダム

北海運河とゾイデルゼーとの會點に立つアムステルダムは古來和蘭隨一の貿易港であつた。市街中には幾多の溝渠が横縦に走つて市民の交通並びに物資の輸送に貢献する事が多大である。バター及びチーズの大市場として知られて居る。

ところが輓近遠洋航海に従事する船舶の大型化と共に、北海運河が漸く船舶の航通に困難を感ずるに至り、其の繁榮はもはや極點を通り越したかの觀がある。アムステルダムに代つて新らしく發展をはじめたのがロッテルダムである。

ロッテルダムはラインの分流レク河に沿ひ、北海岸より約八里の北岸にある。背後

にライン下流地方の大炭田地や、工業地を控えるので、物資の吞吐が極めて敏活で、繁華なる河港として發展して居る。殊にレク河口の少しく北方のフックオブホーランドの海港と大運河を通ずる様になつてからは一層盛大を來したやうである。

沿革

□分合再三に及んだ兩國

十六世紀に於て飛ぶ鳥をおとす勢のあつたイスパニヤは今のオランダベルギーをネーデルランドと總稱して之れを領有する事が久しきに及んだ。

ところが宗教・種族等の差異に基くイスパニヤ政府の抑壓は北方ネーデルランド人(即ちオランダ人)の私に憤激する處であつた。遂に反旗をひるがへしてイスパニヤに敵對し、イギリスの援助によつて獨立(一五八一年)する事が出た。南部ネーデルランド即ち今のベルギーは依然としてイスパニヤに屬したから兩國は分離したのである。

ついでナポレオン戦争中に兩國は早くもフランスに征服せられ、同地方の故に一括して行政されたが、ナポレオン覆没後、ウィーン列國會議の結果、ネーデルランド王國が建設され(一八一五年)、同一の政府によつて、オランダ人が特權を握り、ベルギー人が雌伏して一時が纏繞された。

當時ヨーロッパには、抑壓政治に對する反對運動が一般に高まりつゝあつた。一八三〇年パリに七月革命が起つたが、此の報を得たベルギー人は、ブルッセルに叛旗を翻へし、オランダ人を北方に驅逐してベルギー王國を組織する事が出来た。

現在オランダの君主はウイールヘルミナ女王で、ベルギーはアルベルト王である。

□水が成した國民性

オランダはイスパニヤから獨立すると同時に世界の海上に雄飛しはじめ、遂にイスパニヤに代つて世界の制海權をも一時握つた程の大發展を示し、東洋に於ては現に本國に六十倍するマレー諸島、バプア等の島々を有し、嘗ては日本との貿易を一手販賣

的に引き受けた程の敏腕をあらはした。

斯うした歴史的大偉業をなさしめる根柢はオランダの自然其のもの、特に水其のものにあつたと考へても不可なからう。オランダ人は幼にして水に親しみ、長ずるに従つて水の惨害をも経験し、水に對して油断する時は、國土をも、家をも、生命をも失はなければならぬ事を熟知するに至つた。

如何にしてか水の害よりまぬがれ度いものである。如何にしてか一分一寸と増して來るボルダーの水を排除したいものである。如何にしてかボルダー以上の陸地にも船の通するに足る水路を設け度いものである。如何にしてか砂丘外の、怒濤さかまく洋上にも乗り出して見たいものである——と云つた様な水に關する利用厚生の途が考慮せられ、遂に「水の征服」が完全にオランダ人によつて成されるやうになつたものと考えへる。

九 英 吉 利

面積・人口

□イギリスの面積と人口

イギリスは大ブリテンとアイルランドの北部及び附屬の島嶼とから成る立憲王國で、大ブリテン島はイングランド・ウェールズ・スコットランドの三部から成つて居る。其の面積は約一萬五千方里に過ぎないが、インド・濠洲・南アフリカ・カナダ等、世界の外地に廣い領地を有するので、イギリス領土の全面積は世界陸地の二割餘、人口は四分の一に相當する四億四千萬に及び、強大な艦隊を以て之れが統一結合を圖り來つたのである。「大陽は決して英國の領域内に沒せず」と云ひ、「若しも吾々が世界の主なる島々や港灣中、占領しないものがあるならば、それは成し得るの力が無いからでは無くて、自由に通商し得る限り、自らを累はしてまでも未開人類を支配する義務のない

事を考へるからである。」と豪語した。

□アイルランド自治國

大ブリタンの大部分はラテン・チュートン兩民族の混血した所謂ブリトン民族によつて住はれて居るが、アイルランドの北部ウルスター地方を除く外はケルト民族の居住地である。これまで常に獨立自治を憧憬し來つたケルト人は、ヨーロッパ大戦に際し、イギリス國會に要求して自治國となることを契約し、戦後に於て久しい宿望を達した。

アイルランドの面積は約四千五百方里、人口は三百萬に過ぎない。

地勢

□地形のあらまし

イギリスは其の東南部が所謂「ヨーロッパ東西大低地帯」の一部で、極めて低平な地域をなし、テームス・セヴァーン・ハンバー等の諸川を洋々と海に通せしめて居る。

スコットランドやウエールス、アイルランドの東西兩岸に接する部分、イングランドの北部等には稍々山らしいものが擴がつて居るが、最高峯ペンネヴィス(スコットランド)が僅かに一三四三米位であるから他の高度なども推して知られる。英國の地方的産業の分野に著しい關係を有つペンニン山脈の如きも、標高七百米から八百米位までが最高で、南下するに従ひ徐々に高度を減じ、遂にイングランド大平原中に消えて居る。

海岸線をして屈曲あらしめる構造上の骨格としての山脈は、ペンニン山脈以外、よく東北・西南の方向を取つて居る。例へばスコットランドの中部を斜走するグランビヤ山脈等がそれである。系統上スカンデナヴィヤ山脈に屬するものと見られ、殆んど全部花崗岩によつて出來て居る。

ノルウエー等に峽灣が多かつたやうに、スコットランド及びアイルランドにも、山脈の走る方向の兩端に特に著しい峽灣が並んで居る。其のうち最も有名なものはフォ

ース灣 (Firth of Forth) と フライド灣 (Firth of Clyde) とある。

□河川の特徴

北部の峽灣中に關口する河川が平面圖上三角江の形をこるのは無論の話であるが、南部平原中を流れるテームス以下の諸川も亦典型的なラツパ狀に開いて三角江の特性を發揮して居る。

斯うした海岸地形の特色は、其の部分の地盤の沈降に伴ふて起るもので、オランダのポルダー、ドイツのエルベ川・ウエーゼル川の河口、ノルウエーの峽灣等の問題と同時に考察せられるべきものであらう。

即ち北海の周邊附近は、地質的近代に於て徐々に沈降しつゝある事を知るのである。土地が既に低平であり、スコットランド等の山國(?)の中にも自から東西兩海岸を相通せしめる平行山脈間の低地帯がある上に、其處へ流れ出す河が三角江に開口して居る爲めに、河と河とを結ぶ人工水路の發達も著しく、グランビヤ山脈の北側にある

カレドニヤ運河の如き、地人一體關係を説明する好材料が存する。

之等の三角江口近くに、生産的に價値あるヒンタルランドの門戸として、又は消費量の莫大なヒンタルランドの輸入門戸として、水陸大連絡の商埠地が發育するのも容易に考察せられる。

産業

□鐵・石炭の産出と工業

イギリスに於ける鐵の大産地帯はイングランド平原を縦貫してイギリス海峡に達して居る。又ベンニン山脈の兩側や、スコットランドのグラスゴー附近にも多く産する。

タイン河下流域を主部とする東北炭田は、其の炭炭量我が國の約二倍に達し、鐵鑛は南隣のチース河口附近より甚だ多く産するので、熔鑛・製鋼・造船・機械製造等の工業が甚だ盛んである。ミッドルズバラは熔鑛業の大中心地である。又タイン河畔のニ

ユーカツスルからは石炭の輸出が盛んで、ロンドン市に輸送せられる分量も多い。

ハンバー河流域のヨークシャー炭田はリーズ・ブラッドフォード等の羊毛工業地を發達せしめ、バーミンガム附近に至つては多少炭田にも遠ざかるが、鐵鑛の産が多いので兵器・小鐵器等の製造工業が盛んになつて居る。BIRMINGHAMと銘をうったペン先がよくある。

マーシー河北部のランカシャー炭田も英國屈指のもので、綿工業を發達せしめる原動力となり、マンチエスター・リバプール兩市の發展を促がし、引いて造製・製鐵・化學工業を勃興せしめて居る。但し鐵鑛は此の附近ではもはや掘り盡したので、今ではイスパニヤ等の鐵鑛を用ゐて居る。

スコットランド中部の低地帯の殆んど全面は炭田地の觀がある。附近に産する鐵鑛を用ゐて盛んに製鐵を行ひ、造船業の發達に地盤を與へ、グラスゴーをしてイギリス第二の大都會たらしめて居る。

□イギリスの水産業

イギリスは海岸線が長いから漁業も従つて盛んであるのは云ふまでもないが、東海岸に近くドッガバンク Dogger Bank が横はる事も其の盛大を自然的に促がした原因の一つである。

もどく北海は所謂「大陸棚」で、二百米未満の海底が殆んど其の全面積に擴がつて居る。ドッガバンクは其の最も浅い部分で、鱈・鱈・鱈等の魚族の蝟集する場所である。

漁船の根據地となり、捕獲されたる魚類を處理し、又は陸路急送する起點となつて居るのはアバーデン・グリムスビー・グレートヤーマス等である。

海の産業にまでも地形がつきまどつて居るのを見のがしては成らぬ。

□イギリスの海運業

(1)イギリスの位置が陸半球の中央に位して新舊大陸交通の要點にあたる事、(2)國民

が海事に堪能で、夙に海上に活動して自國のみならず、各國の貨物を取扱ふ生活に馴れ來つた爲め、今や世界商船の五分の二は其の國旗を掲げて往來し、イギリス本國の港は多く世界海上交通の大中心地又は重要起點となつて居る。

イギリスの輸出品は綿織物・毛織物・機械・船舶・石炭等が最も多く、輸入品は綿・穀物・羊毛・肉類・飲料等が多い。イギリス例年の傾向として輸入額が輸出額よりも遙かに大である。若しも他に何等イギリスの収入がないならば、イギリスは年々財政困難に陥り國家的破産のやむを得ない事にも立ち至る譯であるが、此の憂目をまぬがれて居るばかりでなく、金融界も甚だ順調に、利潤が上つて行く一つの重要原因は此の運輸交通による莫大な利益である。

□日英貿易關係

大正十二年に於ける日英貿易品名並びに價格は次の通りである。

輸 出		輸 入	
絹織物	一二九〇萬圓	鐵製品	四四二七萬圓
メリヤス製品	三九五	毛織物	三九九八
鈕釦	一四九	機械及び部分品	三六二四
ブラツシユ	一二八	羊毛	一二六四
器具	九四	綿織物	六八四

尙ほ、藥品の輸入、澱粉・豆類・銅等の輸出は世界大戰並びに其の直後に於ては盛んであつたが、今はあまりたいした額では無い。

都 邑

□商業市としての倫敦

三角形に開いたテームス河を浜ること約二十四里でロンドン河港に達する。満潮時

には水深三十呎に達し運河をリバプール・ブリュッセル方面に通じて居るのでイングランド内部からの運送船も多く集まつて来る。

ロンドンのヒンテルランドは (1) イングランド平原の全部並びにペンニン山脈両側の大工業地帯と、(2) ヨーロッパ東西大低地帯の大部とである。と考案せられる。そして其の航路網によつて全世界の主要地域を通商上の対象として居る。其處にロンドンが世界最大の都市(接續市街を合して人口七百五十萬)をなす基礎が存する。

世界最大の金融機關としての英蘭銀行(Bank of England)や、其の他の商工業の事務所・本社等はシチーと稱せられるロンドン市の中心に位し、宏壯なる建築を密集させて居る。

我が歐洲航路の汽船も定期に寄港し、大使館の外に總領事館の設けがあり、商務官も特派せられて此の市に駐在して居る。

□ロンドン近郊の大學市

ロンドンの西方テムス川の上流にオックスフォード、ロンドンの北方ウーズ河流域にケンブリッジの有名な大學市がある。共に人口六萬ばかりであるが、學生はそれぞれ數千人を算して居る。

繁盛な大都會を避けて、半ば田園そのもの、やうな郊外に學府が設けられて居ることが注意に値ひする。

オックスフォード(Oxford)を牛津と邦文に書き、ケンブリッジ(Cambridge)を劍橋と書く事があるのは音又は意味をあてたのである。

□ポーツマスと其の附近

イギリス海峡に面するポーツマスはワイト島との間の好錨地を控え、イギリス第一の軍港をなし、嚴重に海峡の防備に任じて居る。

ポーツマスの西には同じくワイト島の影にスピットヘッド、サザンブトン等の港市がある。後者は南米との貿易が盛んである。